

郷土教育推進研究報告書

平成24年度 「郷土日野」指導事例 第 8 集

日野市立教育センター
郷土教育推進研究委員会

目 次

第8集の発行にあたって

日野市立教育センター 所長 加島俊雄

I 研究の概要

1. 研究主題	2
2. 研究主題設定の理由	2
3. 研究の目的	2
4. 重点課題	3
5. 研究構想図	4
6. 研究の進め方	5
(1) 研究の組織	
(2) 研究の経過	

II 研究の内容

1. 郷土教材を活用した学習指導実践事例	6
(1) 日野の昔話に親しむ(幼稚園 年長児)	6
(2) 高幡地域に伝わる「昔話」～金剛寺のはだか竜(幼稚園 年長児)	11
(3) 地元の昔話に親しもう(第2学年 生活)	15
(4) ふるさと歴史探検隊～庚申塔を活用して～(第3学年 社会)	21
(5) 日野市の仕事を体験しよう(第3学年 総合)	27
(6) 昔の暮らしへタイムスリップ～昔の話を聞いてみよう～(第3学年・総合)	33
(7) 豊田用水路～見たい!聞きたい!また行きたい!～(第4学年 総合)	38
(8) 日野市の地名について探る(第5学年 総合)	44
(9) 郷土に生きた先人～小島善太郎画伯～(第5学年 道德)	49
(10) 日野の町と戦争～戦争から平和へ～(第6学年 社会)	55
2. 新たに収集・開発した郷土資料・教材	61
(1) 防災教育と郷土教材	61
(2) 「みぞそば」と石田散葉	63
3. 関係機関との連携・協力の広がり・深まり	66
(1) 新選組のふるさと歴史館「周年事業と郷土教育」	66
(2) 郷土資料館「郷土資料館を小学校教育に活かす」	69
(3) 中央図書館「日野市について、よくある質問」(補遺版)	72
4. 郷土教育推進のための普及・啓発	76
(1) 地域を知る指導者の育成	76
① フィールドワーク	76
② 研修会	79
③ フィールドワーク研修会のまとめ	80
(2) 郷土を題材とした校長講話	81
① 校長講話「千貫神輿」	81
② 校長講話「戦争と小学生」	82
③ 校長講話「開校140周年を迎えて」	83
④ 校長講話「地域に愛される学校」	84

III 研究のまとめ ～成果と課題～

◎ 研究協力者・研究協力団体・郷土教育推進研究委員会委員	87
------------------------------	----

第8集の発行にあたって

日野市立教育センター
所長 加 島 俊 雄

「郷土日野」指導事例第8集が発行の運びとなりました。教育センターの郷土教育推進研究委員会（日野第一小学校校長中島和夫委員長）が、平成24年度の研究成果を取りまとめ編集したものです。

この研究は、日野の歴史、自然、文化、産業、人物などを教材化することにより「ひのっ子」の郷土意識を育もうとするもので、年々深まりと広がりを見せ、日野教育の大きな特色となっています。

24年度の研究の特徴のひとつは、委員に、はじめて市立幼稚園からの参加をいただいたことです。「日野の昔話に親しむ」をテーマに、第二幼稚園では「もちあげ地蔵」、第五幼稚園では「高幡金剛寺のはだか竜」がそれぞれ授業に取り上げられ、子どもたちだけでなく保護者の関心も呼びました。

また、防災教育に活用できる郷土教材の発掘があったことも特徴のひとつです。建武2年(1335)の台風、弘化3年(1846)の洪水、平山砂層と液状化現象などがその例です。日野にも大きな災害があったことが分かります。

郷土教育研究推進委員会は、学校、図書館、郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、地域の方々の参加と協力を得て、いわば地域の力を結集して取り組んでいるところにひとつの特色があります。この第8集に収録した内容も、学校の授業実践、収集した郷土資料、社会教育機関からの報告、フィールドワークの様子、校長先生の講話などこれまでに増して多彩で興味深いものになっています。

第8集を取りまとめるにあたってご尽力、ご協力いただいた皆様方に御礼申しあげます。第8集がこれまで発行された第1集から第7集と同様に、参考になれ活用されることによって、ひのっ子たちが郷土への関心を深める一助となることを願っています。

I 研究の概要

1 研究主題

郷土意識を育む指導の在り方 ～郷土の歴史、自然、文化、産業、人の教材化を通して～

2 研究主題設定の理由

本研究は、日野市の幼稚園、小・中学校、博物館、図書館、教育委員会、教育センターが連携して推進する8年目の継続研究である。教育基本法、学校教育法、学習指導要領が改正され、教育の目標に「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできたわが国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」の文言が加えられた。本市の「教育基本構想」には、この考え方のもと、第2項に「日野市の自然・歴史・文化・産業等、郷土をより親しく学ぶために、郷土資料を編集し、地域の方々や専門家の協力を得た授業の推進」、第7項に「授業の質の向上を図るために、地域の教育資源を活用した授業の実施」が明記されている。即ち、郷土教育が日野市の教育の最重要課題の一つとなっているのである。学校教育では、「郷土に誇りと愛着をもったひのっ子」「将来の日野を背負って立つ日野人」の育成が日野市の教育課題であり、市民からも大いに期待されているところである。そこで、本委員会では、日野の豊かな自然や歴史的文化的環境を活用した郷土教育を推進し、児童・生徒に日野のよさや特色に気付かせ、郷土を大切にすることを育てることが大切であると考えた。そのため、郷土教育推進研究委員会では、郷土教材の発掘・教材化に努め、指導計画を作成し、授業を実践している。そして、この実践と成果を全市の幼稚園、小・中学校に普及・啓発するため、「郷土日野」指導事例集を作成し、市内全幼稚園、小・中学校、市立博物館・図書館等、関係機関へ配布している。

この趣旨を生かすため、今年度の研究主題を「郷土意識を育む指導の在り方～郷土の歴史、自然、文化、産業、人の教材化を通して～」と設定し、重点課題を3点に絞って推進研究と授業実践に当たることにした。

3 研究の目的

「ふるさと日野に誇りと愛着をもったひのっ子」「将来の日野を背負って立つ日野人」を育成するために、幼稚園、学校における郷土教育の在り方を研究する。この研究に基づき、各幼稚園・学校が郷土を活用した様々な教育活動を実践し、次のような児童・生徒を育成することが本研究の重要な目的である。

- 郷土の歴史、自然、文化、産業、人を理解し、先人への感謝の心をもった ひのっ子
- 郷土の特色やよさに気付き、継承・発展させたいと願い、行動する ひのっ子
- 郷土の一員としての自覚と誇りをもち、仲間や郷土の人々と協働できる ひのっ子
- 郷土の未来の姿を思い描き、よりよい郷土の実現について思考できる ひのっ子

4 重点課題

今年度の重点課題を郷土教育の普及・啓発とし、具体的な課題3点を設定した。また、本市の重点課題を受け、新たに幼稚園での郷土教育の推進と幼稚園と小学校の連携に取り組むこととした。さらに喫緊の課題である「防災教育」にも関わっていくことにした。

- ① 郷土教育を推進する指導者（教員）の育成
- ② 幼稚園・図書館・博物館等、関係機関と連携した授業づくり
- ③ 郷土教材の開発（含、郷土防災資料）と郷土教材・実践事例の電子データ化

（１） 郷土教育を推進する指導者の育成

- ① 夏期郷土教育研修会（市教委共催）を実施し、各小中学校の郷土教育推進リーダーを育成する。
 - ・午前 平山地区フィールドワーク
 - ・午後 平山小学校で実践事例の発表・講義・演習
- ② 郷土教育推進研究委員が各学校・地域で郷土教育のリーダーとなる。
 - ・毎月の委員会で、実践報告・協議を重ね、研究を深める。
 - ・学識経験者、博物館学芸員、図書館司書から情報・資料の提供と指導・助言を受け、郷土教育の教材開発や実践に生かす。各委員が授業力の向上に努める。
 - ・幼稚園と小学校の連携を深め、幼稚園教諭の郷土教育推進リーダーを育成する。

（２） 博物館・図書館・幼稚園と小学校との連携

- ・博物館・図書館が幼稚園・学校と関わる機能・役割として次の3点が考えられる。

- ① 郷土に関する資料や情報が蓄積されている。
- ② 蓄積された資料や情報をもとに小・中学校の授業を支援する。協働授業が実施できる。
- ③ 本市の博物館・図書館は、学校・市民に開かれた機関で、専門的見地から指導・助言・協働ができる。児童・生徒が興味・関心を高め、意欲的に学ぶことが出来る。

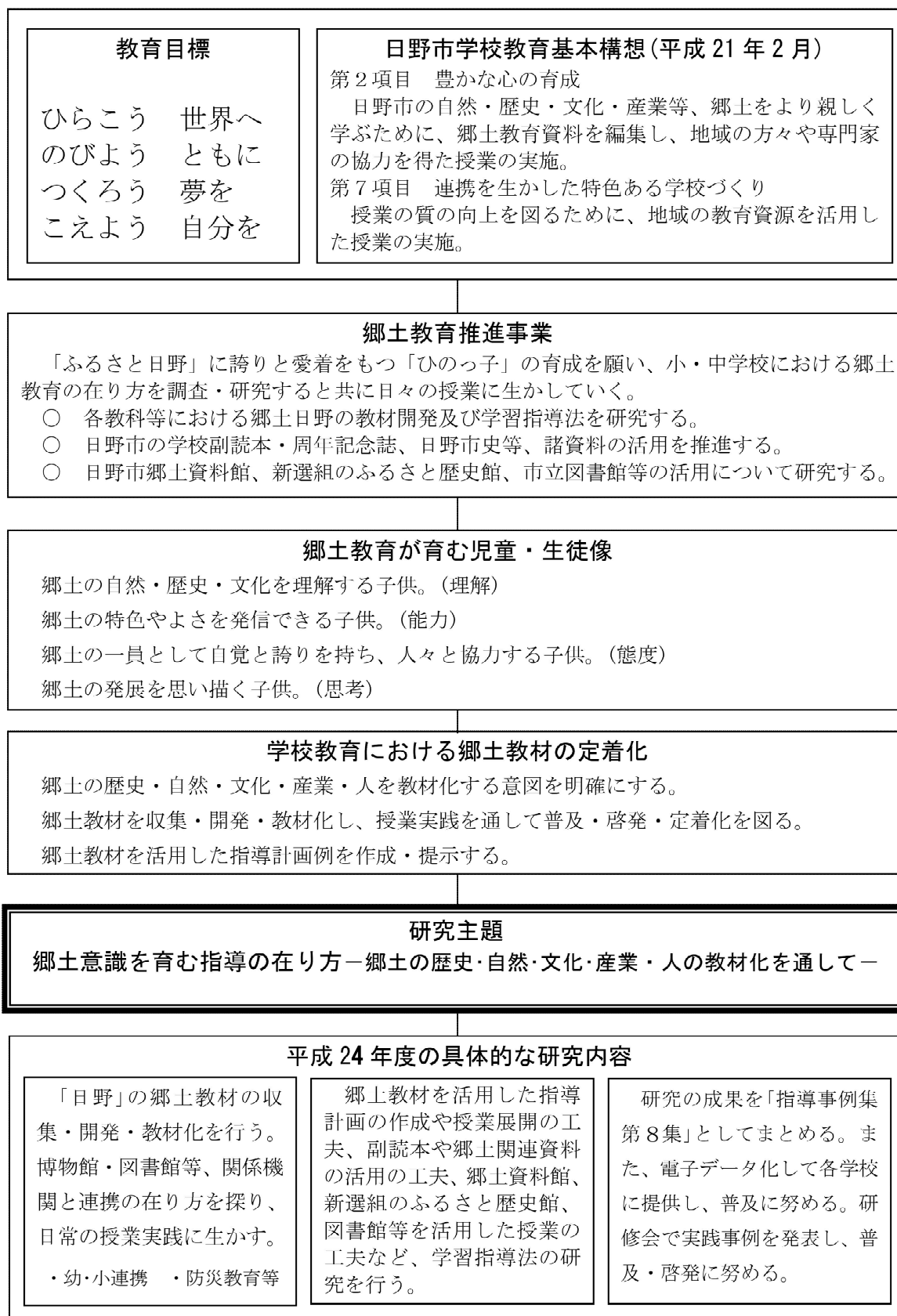
博物館・図書館と連携・協力することにより、効率的でより専門性を発揮した、児童・生徒をひきつける授業が実施できる。今後ますます博物館・図書館等関係機関と、よりよい連携協力関係を築き協働することが大切となってくる。

今年度から新たに、幼稚園で郷土教育に取り組むことにした。幼・小連携を深めながら、幼稚園では、どこまで、どのように実践できるのか、博物館・図書館とどのような連携ができるのか、挑戦スタートの年とした。

（３） 郷土教材の電子データ化 教育センターホームページの充実・整備（PDF化）

- ① 郷土日野指導事例 第1集～第7集 全ページが閲覧できる。（カラー図版が見られる）
- ② 郷土日野画像図版資料集 第6集分が完成 写真や図表が、すぐ授業で使える。
- ③ 年間3回発行の「教育センターだより」に本委員会で発掘・教材化した事例を掲載する。

5 研究構想図



6 研究の進め方

(1) 研究の組織

幼稚園・小学校教員、郷土資料館学芸員、中央図書館司書、新選組のふるさと歴史館学芸員、学識経験者を各委員とし、教育委員会指導主事、教育センター所員を事務局として、19名からなる委員会組織を構成した。月1回の郷土教育推進研究委員会では、教育センターを会場に開発教材・実践事例の提案・協議、研究発表会の検討・準備、情報交換・連絡調整、郷土資料館特別展の見学等を行った。特別展の見学は、郷土資料館学芸員の解説のもと実施した。

(2) 研究の経過

期日・場所	委員会活動の名称	研究活動の内容
4月13日(金) 日野第一小学校	役員会①	・委員会の構成・組織・内容・年間計画・日程等の打ち合わせ
6月7日(木) 教育センター	郷土教育推進研究委員会①	・委員の委嘱・組織づくり・本年度の活動内容の検討・研究活動日程の検討
7月3日(火) 教育センター	郷土教育推進研究委員会②	・郷土教材収集・開発の視点検討(学年、地域) ・フィールドワークのねらい、地域の検討
7月19日(木) 平山地区	フィールドワーク 実地踏査①	・市教委「教育課題研修～郷土教育～」と共催事業の事前調査、内容の検討
7月25日(水) 平山地区	フィールドワーク 実地踏査②	・フィールドワークコースの確定 ・内容の決定
7月26日(木) 平山地区 平山小学校	郷土教育推進研究委員会③ フィールドワーク実施と教材化の講義・演習	・フィールドワーク(平山ゴルフ場跡、宗印寺、平山八幡宮、鮫陵源跡、小林農場) ・室内研修(事例発表、講義、教材化の演習)
8月28日(火) 教育センター	郷土教育推進研究委員会④	・フィールドワークの反省、まとめ ・郷土教材を活用した学習指導事例の検討・協議
10月23日(火) 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑤	・郷土教材を活用した学習指導事例の検討・協議 ・研究発表会の内容、発表者検討 ・実践事例第8集のプロット案検討
11月19日(月) 日野第一小学校	役員会②	・研究発表会までの日程、内容、方法の検討 ・実践事例第8集プロット案検討、作業日程確認
12月27日(木) 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑥	・郷土教材を活用した学習指導事例の検討・協議 ・研究発表会と実践事例第8集の内容決定、
1月22日(火) 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑦	・郷土教材を活用した学習指導事例の検討・協議 ・研究発表会の発表原稿検討
2月20日(水) 教育センター	教育センター研究発表会 郷土教育推進研究委員会⑧	・事前リハーサル、研究発表 ・研究発表会の反省、実践事例第8集作成手順
3月29日(金)		・「郷土日野」指導事例第8集 業者原稿入稿
4月22日(月)		・「郷土日野」指導事例第8集 業者納品
4～5月		・関係機関へ発送・電子データ化(HP公開)

(小杉博司)

Ⅱ 研究の内容

1. 郷土教材を活用した学習指導実践例

(1) 日野の昔話に親しむ

～日野市の昔話を通して自分たちの住んでいる地域への親しみを深める～

(幼稚園 年長児)

1、教材化の意図

園では、子供たちが友達と一緒に絵本や物語の世界を楽しむことができるよう、様々な物語や日本、世界の昔話等の読み聞かせを絵本や紙芝居などを通して行ってきた。その中でも、日本の昔話は、「言葉の豊かさ」や、「表現の面白さ」を楽しんだり、「四季の折々の行事の由来」や「家族や自分の身近な人々とのつながりの大切さ」などを学んだりする機会ともなっている。

また子供たちが話の世界を想像することを自由に楽しんだり、自分たちがその話の登場人物になって表現する楽しさを味わったりする等、子供たちが昔話を通して得られる経験は多岐にわたっている。

今回郷土教育研究会に参加したことにより、日野市にも多くの昔話があることを知った。どの話もその地域に住む昔の人々が大切にしてきた人、物、土地との繋がりを感じることができるものである。その中から、「宝泉寺のもちあげ観音」の話を通して、日野市の昔話への興味や関心を高めていくと共に、平山地区にも「こそだて・もちあげ地蔵」と言う小さなお地蔵様が大切に祭られていることへと興味をつなげ、実際にその場へ行き、見たり触れたりすることで、自分たちの住んでいる街への親しみをもつきっかけとしていきたいと考えた。

また、子供たちが家庭でその話をする事で、家族と一緒に、見に出かけたり、地域のお年寄りや土地のことを知る人に地域や昔の事を尋ねたりするきっかけになれば、子供だけでなく、家族の人々も地域への興味や関心が高まるのではないかと考えた。

2、指導計画

(1) 幼稚園教育要領との関連

幼稚園での学びは、学校の教科のように明確には分かれておらず「健康」「言葉」「人間関係」「環境」「表現」という5つの領域から成り立っている。今回の活動の導入となる紙芝居のよみかかせでは「言葉」「環境」にかかわりが深いのが、その後の園外保育では、各領域に関連する内容が含まれている。幼稚園では、幼稚園教育要領に沿った内容の保育が行われているが、領域については、その時の活動のねらいによって関連性が少しずつ変わってくる。

(2) 活動のねらい

○日野市に伝わる昔話があることを知り、興味をもつ。

○昔話「宝泉寺のもちあげ観音」の話を基に、平山地区にも昔から大切にされているお地蔵さまがあることを知り、実際に見ることで地域への親しみを深める。

(3) 活動の計画

①日野市の昔話への興味や関心へとつなげる活動

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の留意点等
導入	○日本の昔話「ももたろう」「かさじぞう」等これまで読んだ絵本を用意し、みんなでそのおはなしを振り返り、いろいろな話があることに関心がもてるようにする。 ○日野市にも昔話があることを知らせ、期待をもたせる。	○これまで読んだ昔話や、図書コーナーにある昔話など、いろいろな昔話の本を用意して実際に見せ、「かさじぞう」の話を読み、昔話とその中でよく登場する、「地蔵」について興味や関心がもてるようにする。 ○日野の昔話は、題名を紹介し、お話がいくつもあることや、実際に聞いてみたいという興味へとつなげていく。
活動	○前回の日野市の昔話についてみんなで振り返る。 ・覚えている話を言う。 ・どれがおもしろそうか話す。 ○もちあげ地蔵の写真を見て何の写真かを当てる。 ○『宝泉寺のもちあげ観音』の紙芝居を見る。	○どのような話があったか発言できるように、投げかけていく。 ○地蔵の話について興味を持てるように、クイズ形式で振り返っていく。 ○皆が見えることを確認し、ゆっくりと、分かりやすく、抑揚をつけて話していく。
まとめ・次の活動への導入	○願い事について話をする。 ○平山地区には 「子育て・もちあげ地蔵」が昔からあることを知り、興味をもつとともに、見てみたいという思いをもつ。	○『宝仙寺のもちあげ観音』に、自分ならどのような願い事をするか等、感想を聞く。 ○平山地区には、『子育て、持ち上げ地蔵』があることを伝え、写真を見せて、地域のもちあげ地蔵に興味をもてるようにする。

②平山地区にある「子育て・もちあげ観音」を見に出かける

◎教育センター 小杉所員にご同行頂き、もちあげ地蔵や、馬頭観音、地域についてのお話をさせていただきながら歩く。

	幼時の活動	教師の援助・指導上の留意点等
導入	○「宝泉寺のもちあげ観音」の紙芝居をみながらお話について覚えていることを思い思いに話す。 ○平山地区の「子育て・もちあげ観音」について自分なりに形や大きさを予測する。	○前回のお話を振り返りながら、自由に内容を思い返せるようにし、発言を認めたり、疑問があれば一緒に考えたりしながら、お話についての興味を深めていく。 ○平山地区にあるお地蔵様について、どのような形か、どれ位の大きさか等、想像することが楽しめるようにしていく。
	教育センター小杉所員にご指導を頂く	
活動	○もちあげ地蔵を見に、園外保育へと出かける。 ○園に隣接している「沢田公園」の名前の由来を聞く。 ○平山城址公園東側にある「出口公園」の名前の由来を聞く。 ○旧平山小学校跡地、けやきの木を見る。 ○もちあげ地蔵を見ながら、もう一度昔話を聞く。 ・『もちあげ地蔵』の前で、お地蔵様の話をすることで、大切なものである事を聞く。 ・園で予測した大きさと比べてみる事で興味を深める。 ・並びにある馬頭観音のお話、とても昔のものであることを聞く。 ○同じ地区にある小さなお稲荷さんをみて地域の人から大切に祭られている事を聞く。 ・新選組の時代に建てられたものであることを聞く。	
事後指導	○園外保育を振り返り、自分がもう一度見てみたいものや、覚えた事について発言していく。 ○家庭でも家族に伝えたいという思いをもつ。	○今日の園外保育の中で、何に興味をもったかについて話を聞く。 ○家族にもちあげ地蔵や、公園名の由来など、覚えていることをおもしろおもしろにはなせるようにしていく。 ○降園時に保護者にも地域の昔話について話をし、子供と話題を共有することで、地域への関心につなげていく。



3、成果と課題

(1) 成果

- 日野市にも昔から伝わる昔話があることを知り、聞いてみたいという思いや、実際に見られるものがあるなら、見てみたいという思いが高まった。
- 園外保育後、子供たちに感想を聞くと「また行ってみたい」「もっと昔話を聞いてみたい」「お地蔵様可愛かった」「楽しかった」等の声があがった。このことから考えて、もちあげ地蔵に関心をもち、興味も深まったと考える。
- 今回の園外保育について、保護者に話しをしたところ、子ども達からも話を聞いて興味をもたれた方、どこにあるのかと場所を聞いてこられた方、また地元の方でおばあさんが、子育てもちあげ地蔵のお世話をしていると言う方もいて、もちあげ地蔵の写真を提供してくださった方もいた。この活動を通して、保護者も地域について興味を持ったり、土地のことに関心をもったりする機会となった。

(2) 課題

- 今回の活動をきっかけに、継続して地域の歴史に触れる機会を設けていくことが、大切であるとする。次年度の指導計画の中でも活動を継続出来る様に位置づけていけるよう考えていきたい。
- 今回の活動が担当した園だけのものではなく、日野市内の公立幼稚園全体に広めていくことで、市内の子供たちが同じように、「自分の住んでいる地域」に、興味をもつきっかけを作っていくことが、小学校以降の学びにも繋がっていくと考える。



平山3丁目にある子育て・もちあげ地蔵



現在も「久保山自治会」の方が大切に、管理をされています。この写真は第二幼稚園の園児の祖母（久保山自治会）の方から、提供していただきました。

(渥海知子)

（２）高幡地域に伝わる『昔話』を知る

～ 高幡金剛寺のはだか竜（鳴り竜）～

（幼稚園 年長児）

１、教材化の意図

日野市に伝わる昔話や伝説は、数多くある。自分たちの地域に伝わっている昔話等を、視覚的なものを使って伝えることで、幼児にとっても親しみやすく分かりやすいものになり、興味・関心をもったり、身近に感じたりするようになるのではないかと考えた。また、幼児期のうちに興味・関心をもったり、身近に感じたりすることは、小学校以降の学習で、より自分たちの住んでいる地域に親しみや愛着がもてるようになり、郷土愛へとつながっていくのではないかと考えた。

そこで、幼児にとってより身近に感じられるように、自分たちが住む高幡地域に伝わる話「高幡金剛寺のはだか竜」を選ぶこととした。普段見ているものや場所と昔話とがつながるように、昔話を視覚的なもので分かりやすい紙芝居を作り伝えたりしていくこととした。また、家庭でも話題として取り上げられるように保護者に伝えたり、さらに、小学生が作成した紙芝居の読み聞かせを目的とした交流を行ったりして、興味・関心が広がっていくようにしていきたいと考えた。

２、指導計画

（１）幼稚園教育要領との関連

幼稚園は教科で分かれていないこともあり、教師による紙芝居読み聞かせは「環境」「言葉」のねらいをもちいりますが、その後の展開では、幼稚園教育要領の５つの領域全てに関わりがあります。

領域「環境」 周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

ねらい（２） 身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。

内容（１０） 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。

領域「言葉」 経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。

ねらい（３） 日常生活に必要な言葉が分かるようになると共に、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる。

内容（９） 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。

（２）活動のねらい

- 自分たちが住んでいる地域には、昔から伝わっている『昔話』や『伝説』があることを知る。
- 『昔話』や『伝説』を聞いて、興味・関心をもったり、想像する楽しさを味わったりする。
- 小学生の作成した紙芝居の読み聞かせを目的とした交流を通して、小学生と関わり優しさや憧れを感じたり、日野市に伝わる様々な『昔話』に興味・関心をもったりする。

(3) 活動の指導計画

	幼児の活動と内容	援助
導入	○自分たちの住んでいる地域にどのような場所があるのかを知る。 ・自分の知っている場所を出し合う。 ・その場所に行ったことがあるか、また行った時にどのようなことをしたか等を話し合う。	・幼児が訪れた場所を写真等で知らせ、共通理解できるようにする。(高幡不動尊、高幡不動駅、多摩動物公園、百草園等)
展開1	○高幡不動尊には、昔から伝わる昔話があることを知り、興味をもつ。 ・昔話「高幡金剛寺のはだか竜」の紙芝居を見る。	・多くの幼児が訪れたことがある場所の昔話を、紙芝居を使って話すことで、興味関心がもてるようにする。
まとめ	・紙芝居を見て興味をもったことや感じたことを話し合う。 ○他にも昔話がたくさんあることを知る。 ・郷土かるたを見る。	・興味をもったことや感じたこと等に共感しながら、受け止めていく。 ・高幡不動尊には他にも「はたかけの松」や「ころがり落ちたおふどう様」等の昔話があることを知らせる。 ・郷土かるたを見せながら、日野市にはたくさん昔話があることを伝えていく。 ・降園時に保護者に伝えて、家庭での話題となるようにする。
展開2	○小学生との交流 ・小学生に昔話の紙芝居を読み聞かせしてもらい、いろいろな昔話を知る。 ・郷土かるたで一緒に遊ぶ。	・同じ地域の小学生が作った紙芝居を見ることで、さらに昔話に興味関心がもてるようにしていく。 ・グループに分かれ、小学生に読み札を読んでもらいながら、一緒にかるたをし、楽しめるようにする。
まとめ	・高幡不動尊だけでなく、いろいろな場所に昔話があることに気付く。	・いろいろな場所にお話があることに気付けるよう、日野市の地図等と照らし合わせていくようにする。

(4) 活動の様子

展開1

- ①高幡不動尊には、6月に行われたアジサイ祭りに行き、アジサイや五重塔を見学した。また、七五三や初詣、豆まき等で訪れた幼児が多くいた。しかし、大日堂の鳴り竜(成り竜)を見たことがある幼児はいなかった。
- ②高幡不動尊には昔から伝わる話があることを伝え、興味をもち、また、幼児が好みやすい竜の話だったことで、紙芝居をよく見ていた。



- ③他にも昔話があることを、郷土かるたを紹介しながら知らせると、「図書館で見たことがある」と話す幼児もいた。

展開 2

- ①小学生の作成した紙芝居の中に「高幡金剛寺のはだか竜」の話があり、「このお話、知ってる」と以前教師が読み聞かせをした話を思い出したり、「手を叩くと、竜が鳴くみたいな音がするんだって。おもしろそう。」とお話を繰り返して聞くことで、より内容を理解したりし、感想を話しながらみんなで手を叩いてみたりして楽しむことができた。
- ②その後児童が読み手となり、＜郷土かるた＞を使ってかるた取りをし、幼児も児童も夢中になってかるたを見つめ、楽しんでいた。



3、資料

日野の昔話「高幡金剛寺のはだか竜（鳴り竜）」

徳川十一代将軍家斉のころ。高幡不動金剛寺では、大日堂という本堂を建てていました。ある時、ひとりの旅絵師があらわれ、「私は絵描きだが、ひとつその天井に絵を描かせてくれまいか」ともちだしました。天井をどうしようか相談していた住職たちは、喜んで頼むことにしました。

翌日から、旅絵師は天井板に竜の絵を描き始めました。数日ならずして、生きているかのように立派な竜の絵ができあがり、あとは捲雲を描くだけとなりました。しかし、旅絵師は本堂が完成していないので退屈のあまり、どこかへ外出してしまいます。やがて本堂もできあがり、絵の完成を待つばかりとなりましたが、旅絵師は何日も帰ってきません。

そんなある日のこと、堂内の天井を見上げると、いつのまにか竜がみずから天井に登っているではありませんか。画板から抜けだした竜は、じっとこちらをにらんでいます。そこへ旅絵師が戻ってきました。天井を見上げると、いまさら雲を描くことをあきらめて、絵筆を片付けると、ふいと寺を出て行ってしまいました。

大日堂の天井には、今でも捲雲のないはだか竜がいきいきとした姿を見せています。竜の下で願い事をして拍手を打つと、竜は身をふるわせて答えてくれるということです。

参考 「日野の歴史と文化 第17号 日野の昔話」

4、成果と課題

成果

- 自分たちの住んでいる高幡地域にも多くの昔話があることを知り、幼児が初詣や節分、七五三などでよく訪れる高幡不動尊に伝わる昔話「高幡金剛寺のはだか竜」に興味深く聞いていた。
- 幼児が「もっと昔の話を聞きたい」と思うようになった。
- さらに、同じ地域の小学校で児童が作成した昔話の紙芝居の読み聞かせを目的とした交流を行うことができ、幼小連携にもつながった。

課題

- 日野市にたくさんの昔話があることを知り、その中の「高幡金剛寺のはだか竜」の話を幼児に伝えたが、教師自身が昔話に興味・関心をもつことや、いろいろな話を知っていること、昔話を知っている人にお話が聞ける機会を作っていくことが大切であり、今後も継続していけるようにしていきたい。

(福田靖実)

(3) 地元の昔話に親しもう

(第2学年 生活科)

1. 教材化の意図

戦後、日野市は住宅化が急激に進み、地域社会も変貌してきた。本校周辺も近年、区画整理や宅地開発で田や畑から一転して住宅街へと変わった。それにともない、他の土地から移住してきた方が多く、保護者の方でも日野の歴史や文化についての認知度が低いように感じる。自然、児童によっては、きっかけがなければ郷土に関心をもつ機会もないと思われる。

生活科・郷土のねらいとして、学指導要領生活科第1学年及び第2学年の目標(1)に、「自分と身近な人々や及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心をもち、地域のよさに気づき、愛着をもつことができるようにする」とある。

本校は高幡にあり、古くから人が住んでいた土地である。私は、地域のよさを地元や郷土に残る歴史や文化と捉えた。そこで、児童にとって親しみやすい「昔話や伝承」を教材化することを考えた。学区域内には、昔話や伝承だけでなく、それらにゆかりのある史跡や文化財も数多い。そして、それらを守り、継承する地域の方も数多くいらっしゃる。

これまで本校の2年生の生活科では、地域で働く方にインタビューをする「ふれあいインタビュー」という授業を行ってきた。この講師を昔話や伝承にゆかりがある方にし、昔話や伝承だけでなく、ゆかりの史跡や文化財を直接見て、ふれて、感じさせることにより、児童に郷土への親しみと愛着をもたせたい。

2. 指導計画

(1) 単元のねらい

- ・本校周辺に残る昔話や伝承にゆかりのある方に、関連する史跡、文化財を紹介していただくことで、郷土に親しみと愛着をもつ。
- ・昔話や伝承の紙芝居をつくり、他者に発表することにより、一層の愛着をもたせ、郷土の一員という意識をもたせる。

3. 単元について

導入として本校周辺の昔話を7つ紹介する。さらに、国語科の神話「ヤマタノオロチ」や絵本「ひのっこ日野宿発見」を通し、昔話や伝承と土地の結びつきを理解させ、興味関心を高めることを考えた。

本時の「ふれあいインタビュー」では、あらかじめ児童に昔話を紹介し、ゆかりのある方に質問したいことを考えさせる。当日は、ゆかりのある史跡や文化財を紹介していただき、質疑応答の時間をとることを考えた。自分の目で見て、ふれて、その場で確かめることができるのは、地元である最大の強みであり、その分、親しみや愛着も増すであろう。

活動の終末として昔話や伝承を紙芝居にし、他者に伝えることにより、学習をまとめるだけでなく、郷土の一員として自覚をさせ継承する意識をもたせたい。また、聞き手に昔話や伝承、紙芝居に対する感想を直接聞くことにより学習活動へ達成感や充実感をもたせたいと考え、本単元を設定した。

4. 指導計画（全16時間）

	時間	ねらい	主な学習活動と内容	備考
つかむ	2時間	・本校周辺の昔話や伝承を聞き、興味関心をもつ。 ・昔話や伝承と土地との結びつきに気づく。	・本校周辺に残る昔話7つを聞く。 ・昔話や伝承に関する疑問や感想をワークシートに書く。	国語科の神話「ヤマタノオロチ」や「ひのっ子日野宿発見」を取り上げ、昔話や伝承と土地との結びつきに対し、関心を高める。
調べる	7時間	・本校周辺に残る昔話や伝承にゆかりのある方に関連する史跡、文化財を紹介していただくことで郷土に親しみと愛着をもつ。	・興味関心のある昔話ごとグループをつくる。 ・グループごとに講師の方にインタビューしたいことを話し合う。 ・交通ルールやインタビューの際の礼儀やマナーについて考える。 ・昔話や伝承にゆかりのある方々に昔話とそれに関連する史跡・文化財を紹介していただく。（本時） ・ワークシートにふれあいインタビューの感想を書き、交流する。 ・講師の方へ感謝状を書く。	講師の方への質問は昔話や伝承、関連する史跡や文化財だけでなく、講師の方についてや、1学期の生活科「まちたんけん」を想起させて考えさせる。
伝える	7時間	・昔話を紙芝居化し、他者に発表することにより、郷土に対し、自信と誇りをもつ。	・それぞれのグループごとに調べた昔話や史跡・文化財を紹介する紙芝居をつくる。 ・保護者の方や講師の方に発表する。 ・ワークシートに紙芝居の読み聞かせを行った感想を書き、交流する。	2年生の児童にとって昔話に登場する人物の髪型や服装などを描くのは難しい。そこで、昔話の絵本などを参考にさせる。

5. 本時の学習

（1）本時のめあて

- ・昔話や伝承にゆかりのある方に、昔話とそれに関連する史跡、文化財を紹介していただくことで、郷土に親しみと愛着をもつ。
- ・交通ルールやインタビューの際の礼儀とマナーを守る。

（2）本時の展開（2時間扱い）

	主な学習活動と内容	○評価
導入	1、本時の学習のめあてを確認する。 2、グループごとに移動 ・わかみやさんの ふしぎなお話 → 若宮愛宕神社（後高幡不動尊奥殿へ） ・村のえいゆう 平とおじ → 藤尾社藤治権現へ ・ほどくぼこぞう 生まれ変わりの勝五郎 → 程久保 藤蔵生家前 ・ほねつぎかっぱの 石田さんやく → 石田寺へ ・鳴り竜 → 高幡不動尊金剛寺へ ・旗かけの松 → 高幡不動尊金剛寺へ ・転げ落ちたお不動さま → 高幡不動尊金剛寺へ	○交通ルールを守って移動することができたか。 ※「ほねつぎかっぱの石田さんやく」については、資料提供「土方歳三と石田散薬」を参照。
調べる	3、インタビュー ・あいさつ、自己紹介、活動の目的を伝える。 ・昔話を聞く。 ・昔話に関連した史跡、文化財を紹介していただく。 ・質疑応答（昔話、講師の方、文化財、史跡、その他について） ・帰校	○講師の方のお話に関心をもって聞くことができたか。 ○礼儀やマナーに気を付けてインタビューすることができたか。
まとめる	4、振り返る ・振り返りカードに本時の感想や気づいたこと、もっと知りたいと思ったことなどを書く。	○感想や気づきを振り返りカードに書くことができたか。

（３）評価

- ・昔話や伝承にゆかりのある方に、昔話とそれに関連する史跡、文化財を紹介していただくことで、郷土に親しみと愛着をもつことができたか。
- ・交通ルールやインタビューの際の礼儀とマナーを守ることができたか。

6. ふれあいインタビュー活動の様子



▲わかみやさんのふしぎなお話グループ

児童の要望により、本殿を拝観させていただく。



▲村のえいゆう平とおじグループ

権現祭りの様子等の写真もを見せていただく。



▲ころがり落ちたおふどう様グループ

お鼻井戸を紹介させていただく。



▲はだかりゆうえんぎ話グループ

実際に手をたたき、竜の鳴き声を聞く。

7. ふれあいインタビューの感想

- ・お不動様を写真でしか見たことがなかった。本当のお不動さんを見て、その大きさに驚いた。
- ・お不動様が木で作られていることを知って、すごいなと思った。
- ・お不動様は煙を浴びたから黒くなったことを知って、驚いた。
- ・高幡不動尊は、お不動様の他にもいろいろなものがあるって、本当にいいお寺だと思った。
- ・大日堂の天井にひのきが使われていたので、いいにおいがした。
- ・若宮愛宕神社が今から1500年くらい前にできたことを知って、びっくりした。古くからあってすごいなと思った。
- ・今度の権現祭りは家族でおまんじゅうをもらいに行きたい。
- ・昭和30年代の高幡の写真を見せてもらった。田んぼや畑ばかりで驚いた。
- ・程久保の六地藏が200年くらい前からあることを知って、びっくりした。

8. 紙芝居発表の様子



▲保護者の方や講師の方を対象に発表。



▲児童が作った紙芝居

9. 幼小連携

郷土教育の幼小連携事業として、本校の近隣にある日野市立第五幼稚園の園児（年長児）に紙芝居を発表した。園児には理解が難しいと思われたが、最後まで静かに聞いていた。児童も、園児の「楽しかった」という感想に大変喜んでいた。



▲園児（年長児）に発表



▲その他に郷土かるたで園児と遊んだ。

10. 成果と課題

<成果>

- ・今回高幡不動尊をはじめ児童にはどこも馴染みの場所を活動場所に設定したが、奥殿の不動明王や脇侍の二童士を初めて見る児童も多く、「大きさや迫力に驚いた。」など、実感をともなった感想をたくさん振り返りカードに書くことができた。
- ・学習活動後、地元の昔話が書かれたものを学校に持って来たり、紹介していただいた関連の史跡以外の場所を家族と一緒に訪ねたりする児童もあり、この活動を通し、郷土への関心が高まったことがうかがえた。
- ・紙芝居発表後、保護者の方から、「地域について知ると、ただの風景がより親しみ深くなるように思う。」「土地への関心が深まった。」「絵本になるなら欲しい。」とアンケートにコメントをいただいた。保護者の方々にも郷土に興味・関心をもっていただくよいきっかけになった。

<課題>

- ・2年生の児童にとって、昔話や伝承に登場する人物の髪型や服装などを描くのは難しかったように感じた。
- ・昔話や伝承、関連した史跡や文化財は神仏に関連したものが多い。あくまで土地に根づく風土であり、宗教教育と誤解されないよう配慮することが必要。

1 1. 取り上げた昔話や伝承の題名、講師、関係する史跡・文化財

題名	講師	関係する場所・文化財等
わかみやさんの ふしぎなお話	須崎勝政さん (若宮愛宕神社氏子総代)	若宮愛宕神社 高幡不動尊脇童土(奥殿)
村のえいゆう 平とおじ	権現祭り 豆腐奉納者 滝瀬さん	藤尾社藤治権現
ほねつぎかっぱの 石田さんやく	土方歳三資料館 館長 土方 愛さん	石田寺
はだかりゆう えんぎ話	高幡不動尊金剛寺	高幡不動尊金剛寺 大日堂
はかけの松	高幡不動尊金剛寺	高幡不動尊金剛寺 旗かけの松
ほどくぼこぞう 生まれ変わりの勝五郎	小宮豊・壽子さん 勝五郎生まれ変わり探究調査団	程久保 藤蔵の生家 六地藏
ころがり落ちた おふどう様	高幡不動尊金剛寺	高幡不動尊金剛寺 お鼻の井戸 不動明王(奥殿)

1 2. 参考文献

- ・「日野市史 民俗編」 日野市史編さん委員会 昭和58年発行
- ・東京都日野市高幡風土記 森久保憲治 平成22年発行
- ・ひの史跡・歴史データベース http://www.c-hino.org/hino_history/
- ・ほどくぼ小僧 生まれ変わり物語 日野市郷土資料館 平成20年発行
- ・とんとんむかし 菊地正 東京新聞出版局 昭和62年発行
- ・七生地区の昔ばなし 七生丘陵調査団

(入野祐子)

(4) ふるさと歴史たんけん隊一庚申塔を活用してー

(第3学年 社会科)

1. 教材について

中学年の社会科では「地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事について調べ、そこに込められた思いや願い、地域の人々の生活の変化、地域社会のよりよい発展について考えさせる」ことが求められている。教科書(教育出版)では“祭りやお囃子”を取り上げているが、七生緑小学区では、残念ながら“お囃子”は伝わっていない。また、市内では年中行事の1つとして“どんど焼き”を復活させようという取り組みがあり、15カ所で開催している(平成23年1月)が、本学区では行っていない。ここは、かつては川崎街道沿いに民家が散在していたが、昭和30年代から京王百草園の開園(昭和32年)など観光誘致がされ、昭和40年代に入って多摩丘陵の大規模な宅地開発が実施された。谷地形が雛壇状に造成され、雑木林に集合や戸建の住宅が新築された。そのため、各家庭で行われる年中行事なども地元のものが伝承されていない可能性が高い。

しかし、学校の東側には百草園(真慈悲寺、百草城、松連寺)、百草観音堂、八幡神社などがあり、地藏や馬頭観音、庚申塔などの石造物が残っている。そこで「年中行事」より「文化財」(石造物)の方が児童にとって身近なことから、新堂谷戸の庚申塔を取り上げることにした。新堂谷戸の庚申塔は近隣の児童ばかりでなく、1学期の学区探検の際に3年の全児童が見学している。しかし、その建立の理由などはわかっていない。そこで、この庚申塔を導入として取り上げ、さらに地域の文化財調べに発展させる中で、石造物などにこめられた地域の人々の思いや願いに気づかせたい。

2. 指導計画

社会科 第3学年 小单元名「地域に残る古いものをさがそう」

(1) ねらい

- ・身近な地域の歴史を伝えるものに気づくとともに、それらを通して、人々が地域のくらしをよりよくしようと願い、工夫・努力してきたことを理解する。
- ・歴史を伝えるものを見つけ出したり調べたりすることを通して、人々がどのような願いや思いをもってくらしていたかについて考える。

(2) 指導計画(全7時間)

過程	主な学習活動・学習内容	教師の働きかけ(○評価)
気づく 2	◆ これまでの学習で見つけた神社や石造物など地域の古いものを発表する。 ◆ 庚申塔の各部に着目させ、庚申塔が何のためにたてられたのか調べる。 ・いつ・だれが庚申塔をたてたのか。 ・三猿や青面金剛像、日月と鶏について考える。 ・病気にならないため。 ◆ 地域に残る古いものにこめられた思いや願いを調べる。	・学区探検で使った地図や写真を使う。 ○学区探検で見つけた古いものを想起して、積極的に発言している。 ・当時は医療が未発達で、飢饉の時は病気などで死ぬ人が多かったことを伝える。 ・庚申塔の各部をもとに、百草村の人が健康や安全な生活を願って建てたことに気づかせる。 ○資料をもとに庚申塔が何のために建てられたのか考え、まとめている。

	まちに残る古いものは何のために作られたのでしょうか。 ◆調べたいものごとにグループをつかって、調べ方や発表の仕方を考える。 ・馬頭観音や地蔵、石碑など実際に調べに行きたい。 ・博物館で資料をもらう。 ・詳しい人から話を聞きたい。	・庚申塔にこめられた思いや願いをもとに、馬頭観音や地蔵、石碑などの文化財についても調べる意欲を喚起する。 ○地域に伝わる文化財などについて調べる計画づくりに意欲的に取り組んでいる。 ・調べたいものごとに数人のグループをつくり、ワークシートを使って計画を立てる。その時、発表の方法も考えさせる。
調べる 3	◆計画に沿って、地域の文化財や行事について現地に行ったり、詳しい人にインタビューしたりして調べる。また、文化財のパンフレットなどの資料を参考にして調べる。 ・馬頭観音や地蔵、石碑はいつ頃、だれによって何のために立てられたのだろうか。 ・地蔵の前にある花は、だれが何のために供えたのだろうか。	・前時に立てた計画を確かめる。また、グループごとにデジタルカメラを持たせ、映像でも記録させる。 ・できる限り現地を訪れる体験的な活動を取り入れる。また、地元の方や博物館の学芸員など詳しい方からインタビューできるようにする。 ○調べたい物について、図書館に行ったりインタビューしたりして、必要な情報を集めて調べている。
まとめる 2	◆調べてわかったことをまとめる。 ・白地図に写真や「発見メモ」を貼って歴史マップにする。 ・発表に使うものを新聞にまとめる。 ・写真やイラストを入れた「れきし発見カード」を作る。 ◆他のグループや自分のグループの発表を通してわかったことや考えたことを作文にする。	・調べたこと全てを載せるのではなく、石造物などが立てられた理由や人々の願いなど発表内容を絞り、焦点をはっきりさせて発表するよう指導する。 ○これまで調べてわかったことをわかりやすく表し、発表している。 ○文化財などに込められた地域の人々の願いを考え、自分たちもそれらを大切にしようとしている。

3. 本時の指導

(1) ねらい

庚申塔にこめられた昔の人の願い、思いに気づくことができる。

(2) 展開(1/7時)

主な学習活動・学習内容	教師の働きかけ(○評価)
◆ これまでの学習で見つけた地域の古いものを発表する。 ・八幡神社、百草八幡宮 ・石造物…馬頭観音、石碑、地蔵、庚申塔 ◆ 庚申塔について、知りたいことを発表する。	・学区探検で使用した地図やその時の写真を見せ、どんなものがあつたか気づかせる。 ○これまでの学習で見つけた古いものを想起して、積極的に発言している。 ・新堂谷戸の庚申塔の写真を見せ、どこにあつた

・何のために建てたのか。 ・いつ建てたのか。 ・誰が建てたのか。 庚申塔(こうしんとう)は、何のために建てられたのだろうか。	か確認してから、この庚申塔について知りたいことを発表させる。 ・昔は村の入り口に庚申塔があったことを伝える。
◆ 庚申塔の各部に着目させ、庚申塔が何のために建てられたのか調べる。 1. いつ彫られたものか調べる。 ・元文元(1736)年 ・今から 275 年前 2. だれが庚申塔をたてたのか調べる。 ・百草村→百草村の人々 ・願主→神仏に願いを立てる人 3. 百草村の人々がどんな願いをもっていたのか、三猿をもとに調べる。 ・見ざる、言わざる、聞かざる→悪いことを見たり、言ったり、聞いたりしない。 4. 青面金剛像の役割について考える。 ・邪鬼を踏んづけている→邪鬼は災いをもたらすもの。 ・青面金剛が災害や病気などから人間を守っていることに気づく。 ・手に何を持っているか→剣や弓矢で村を守る。 5. 日月と鶏は何を表しているか調べる。 ・日月…夜を徹して行われた祈り。 ・鶏…時を告げる→夜を徹して祈る。	・江戸時代の年号を書いた表を用意し、元文元年が西暦で何年になるか調べる。 ・当時は医学が発達していないので、病気やけがで死ぬ人が多かった。また、飢饉の時は、強盗や野武士などが出て、治安が乱れた。 ・庚申塔の村名と「願主」の文字から、1736 年に百草村に住んでいた人が、神仏に願い事をして建てたことに気づかせる。 ・猿が神の使いであると信じられたことや、三猿の彫刻が日光東照宮にあることを伝え、「どうして目を押さえたり、口や耳をおさえたりしているのだろうか」聞いて、考えを促す。 ・青面金剛が踏んでいるのは邪鬼であることを確認することによって、弱い者をいじめているのではなく、悪事をする者や病気などを抑え、村人を守る役割を持っていることに気づかせる。 ・万蔵院台の庚申塔を補助的に使う。 ・わかりにくいものについては説明をして、村を守る道具であることに気づかせる。 ・庚申の話をする：昔の人は病気になる原因を、体内にすむ三尸(さんし)という虫が、60 日に一度の庚申の日の夜中に天に上って天帝に報告する。すると、その人はやがて重い病気になり、苦しんで死ぬと考えていた。そこで、庚申講という集まりをして、皆で一晩中起きて虫が天に上らないように祈っていた。でも、眠くて仕方がないので鶏が早く鳴いて夜が明けないかと願って、太陽と鶏を彫った。
◆庚申塔は何のために建てられたのでしょうか。 ・病気にならないため。 ・村に悪い病気がはやらないように。 ・村を守るため。	○写真や説明をもとに庚申塔が何のために建てられたのか考え、まとめている。 ・庚申塔の他にも馬頭観音や地蔵などの石造物があることを確認し、それらについても調べてみようと呼びかけ、意欲を喚起させる。

4. 教師用資料：庚申塔(こうしんとう)

庚申塔は、中国から伝来した道教に由来した庚申信仰にもとづいて建立された石塔である。道教では、人間の体内に三尸(さんし)という悪い虫が棲み 60 日に一度の庚申の日、人間の睡眠中にその人の悪事を全て天帝に報告すると言われていた。それによって病気になったり、寿命が短くなったりするとされた。そこで、庚申の日には人々が集まって夜通し祈る「庚申待ち」が行われた。当初、貴族の間に伝わった風習が江戸時代には民間に広まり、酒宴を兼ねた人々の楽しみの 1 つにもなったという。江戸時代初期から庚申講を数年続けると、その記念に石塔を建てることが行われた。ここには本尊の青面(しょうめん)金剛像などが彫られたが、やがて文字塔が多くなる。石塔は全国的に分布しているが、旧相模国が特に数多い。

庚申の申は干支で猿に例えられることから「見ざる、言わざる、聞かざる」の三猿像を下に彫り、その上に鬼を踏みつけた青面金剛が彫られる。青面金剛は一面三眼六臂(び)(3 つの目と 6 本の腕)の憤怒相で、密教の明王像に通じるものがある。と言っても仏教系の像ではなく、中国の道教に由来し、日本の庚申信仰の中で独自に発展した像で、三尸を押さえる神とされる。手には法輪、弓、矢、剣、錫杖、三叉戟などを持つ。日野市市内の庚申塔は 107 基が確認されており、そのうち、青面金剛像と文字塔の割合は約 3 対 1 になる。貞享 2(1685)年が一番古く、宝暦・明和(1751～1772)年間に多く作られ、文政(1818－1830)年間に減少し、明治期のものは無い。これに代わって増加したのが馬頭観音像で安永 9(1780)年に始まり、幕末にピークを迎え昭和時代まで作られた。これに対し、地蔵は延宝 2(1674)年から現在に至るまで断続的に作られている。

教材としては新堂谷戸の庚申塔を主として取り上げるが、磨耗がやや激しいので石造物としては完成度の高い万蔵院台の庚申塔を補助として使う。新堂谷戸の庚申塔は高さ 61cm、幅 31cm、奥行 21cm で駒形である。三猿(左から言わざる、聞かざる、見ざる)の上に鬼、それを踏みつける青面金剛、手には戟、法輪、弓矢が彫られ、文字は「武州 多摩郡百草村願主 庚申供養 元文元歳 丙辰十一月吉日」。百草八幡神社の参道にあり、元文元(1736)年百草村の講中によって建造されたものである。また、安永 6(1777)年百草村念仏講が先祖の供養のために建立した六地藏や、万延 2(1861)年の道祖神もある。

万蔵院台の庚申塔は 4 基あり、平成 22 年日野市指定有形民俗文化財になっている。宝永 7(1710)年の庚申塔は高さ 75cm、幅 33cm、奥行 20cm 駒形で、文字は裏に「宝永七庚寅歳二月吉辰 武州多摩郡百草村庚申塚ニ建之 當村三代領主源姓小林氏正利」とある。三猿の上に鬼、それを踏みつける青面金剛、手には戟、弓矢が彫られ、下方に雄鶏と雌鳥、上方に日月が彫られている。当時、この周辺を治めていた領主小林権太夫正利が建立したもので、近隣の家ではこれを「山王様」と呼び、節分の豆まきや初午に赤飯を供える行事を近年まで行っていた。庚申信仰は主に民間で行われたもので、領主と住民が一体となって建立すること自体珍しく、領主が地域の人々の長寿や平和を願って建立したと考えられる。



新堂谷戸の庚申塔



万蔵院台の庚申塔

※参考文献：「日野市文化財指定説明書」

5. 児童用資料：石造物の調べ方（小冊子の前文と目次）

せきぞうぶつ

石造物を調べてみよう

石で造られたものを石造物といいます。七生緑小学校の近くには石造物がよく残っています。昔の人が石に文字や像を刻むのは、たいへんな仕事です。なぜ、人々が苦労してその物を造ったのか、どうしてそこにあるのか考えてみましょう。そして、次のことに注意して調べてみましょう。

- ① 石碑などは表だけではなく、横や裏、下の方にも文字や像が彫られています。何が書かれているのかよく調べてみましょう。
- ② お地蔵さんなど、今でも地域の方から大事にされています。失礼のないようにしましょう。
- ③ 雨ざらしになっているので、壊れやすいものや文化財に指定されている貴重なものもあります。大事にしましょう。
- ④ 倒れやすいものもあります。自分や友だちがけがをしたり、石造物を壊したりしないようにしましょう。
- ⑤ 人通りの少ない所や自動車の通りの激しい所、崖などの危ない所にも、石造物があります。自分たちで調べに行く時は、必ずおうちの人に話して、できればおとなの人といっしょに行きましょう。子供一人では行かないこと。

も く じ

庚申塔	…… 2	三角点公園、東京オリンピック記念樹…	9
手水鉢	…… 3	遷宮記念碑、秋葉権現	…… 10
野鳥供養碑	…… 4	聖観音、松連禅寺乃碑	…… 11
馬頭観音	…… 5	道祖神、板碑	…… 12
八幡神社の鳥居の土台石	…… 6	松尾芭蕉の句碑	…… 13
地蔵	…… 7	若山牧水の歌碑	…… 14
六地蔵、子育て地蔵	…… 8	札所めぐりの石碑	…… 15

地蔵

地蔵は困っている人を助けると言われ、昔話にもよく出てきます。「お地蔵さん」などと親しみをこめて、呼ばれています。また、「子どもの守り神」として信じられており、よく子供が喜ぶ菓子や花などが供えられています。おでこには、ほくろのようなものがありますが、これは白毫といって、白くて長い毛を丸めたものと言われています。また、両手を合わせたり、左手に如意宝珠と呼ばれる玉、右手に杖を持ったりしています。時にはネックレスをしていますので、よく見てみましょう。日野市で一番古い地蔵は、延宝2（1674）年のものです。

- ① 百草園の前の坂を川崎街道の方へおりた所に、元東光寺の地蔵堂があります。東光寺は、以前はもっと高い所でしたが土砂崩れで壊れ、この辺に引っ越しました。さらに、明治6年ガストの所にあった医王寺といっしょになりました。この地蔵堂だけが、元の場所ののこっています。ここには、安産地蔵と呼ばれる享保3（1718）年につくられた地蔵があります。お産の前にろうそくに火をつけてお祈りし、消して家に持ち帰る。その後、お産が始まったら、そのろうそくに火をつけると安産になると言われています。もう1つの地蔵は貞享4（1687）につくられたものです。その他に、ここには庚申塔や馬頭観音などもあります。

- ② 元東光寺の地蔵堂の前の道は、古い川崎街道です。

この道を百草駅の方に行くと、大宮神社の近くにも座った地蔵が置かれています。



あんさんじぞう
安産地蔵

（小坂克信）

(5) 日野市の仕事を体験しよう

(第3学年 総合的な学習の時間)

1. 教材化の意図

本学年の児童は、昨年度（2年生の時）日野市で農家をなさっている方を学校に招き、実際に自分たちでにんじん作りを行った。その体験を通じて、児童は「日野市の中でもたくさんの野菜が作られている」ことや、「農家の方はいろいろなことを知っている」といったようなことを感じる事ができた。また、農家の方の話を直接聞く中で、農家の思いや苦勞を知った。そのおかげで、今まで漠然と過ごしていた自分たちの地域（日野）にもすごいところがあることが分かるきっかけとなった。

今年度は3学年になり、社会の学習が始まった。1学期の学習では、学校の周辺地図を作るにあたり、学校の周りを自分たちで歩いて調べてみた。そこから児童は、「日野駅の周りにはお店が多い」ということに気付いた。しかし、お店の名前は知っているもののそれ以上のことはあまり知らないのが現状である。

そこで、実際に児童がお店にインタビューしたり、働かせてもらったりしながら、一つひとつのお店での思いや工夫、苦勞などを知ってもらいたいと考えた。そして、農家だけではなく様々な職業の人たちが自分たちの地域（日野）では働いているということに気付いてもらいたい。

2. 指導計画

(1) 単元のねらい

- ・地域でお店を営んでいる方々やお客さんの思いや考えを理解する。
- ・自分の役割を自覚しながら、最後まで責任をもって取り組む。
- ・様々な人とかかわる中で、自分たちにもできることがあるということに気付く。

(2) 単元の指導計画（24時間）

	ねらい	学習活動	お店との関わり ワークシート
つかむ (4時間)	○将来自分がやってみたい仕事を出し合い、いろいろな仕事があることに気づくことができる。	・どんな仕事があるのか出し合う。 ・将来やってみたい仕事を考える。	・自分がやってみたい仕事 ・自分が行ってみたいお店
	○仕事体験の流れを知り、学習の計画を立てる。	・単元の学習の流れを知る。 ・仕事体験をするにあたって、大切なことを話し合う。	ワークシート①
	○仕事体験先を知り、自分が体験したいお店を選択することができる。	・自分が体験したいお店を考える。 ・体験先のグループを決定する。	・日野市で知っているお店を出し合う。

追究する (10時間)	○挨拶やインタビューの約束を知り、質問事項を考えることができる。 ○1回目の訪問に向けての準備をする。 ○実際に訪問をし、体験先の仕事内容を知ることができる。 ○1回目の訪問をもとに、自分にできることを考えることができる。 ○自分のめあてを確認しながら、仕事体験をすることができる。	・挨拶やインタビューの約束を知る。 ・仕事に対して自分なりに考えた質問を発表する。 ・体験先への質問をグループで話し合い、決定する。 ・自己紹介カードを仕上げる。 ・質問事項の練習をする。 ・他のグループからのアドバイスを受け、質問事項を練り直す。 <1回目の訪問> ・仕事先で挨拶やインタビューをしてみる。 ・店内を見学し、仕事を仮体験させていただく。 <2回目の訪問> ・1回目の訪問の振り返りをする。 ・自分にできることを考え、話し合う。 ・2回目の訪問に向けて、めあてを確認する。 <2回目の訪問> ・お店の方の言うことを聞き、マナーを守って行動する。 ・各体験先にて、仕事の体験をさせていただく。	ワークシート② 1回目の訪問 ワークシート③ 2回目の訪問 <仕事体験本番>
まとめる (10時間)	○仕事体験後、自分なりにできるようになったことを振り返ることができる。 ○体験してきた内容を各グループごとにまとめることができる。 ○仕事体験で学んだことをみんなの前で発表することができる。	・2回目の訪問の振り返りをする。 ・事前に考えためあてをもとに、活動をまとめる。 ・体験先へのお礼状や案内状を書く。 ・「仕事体験発表会」に向けて、発表内容と方法を考える。 ・発表会で必要なものの準備をする。 ・発表原稿を作り、練習をする。 ・各グループごとに「仕事体験発表会」を行う。 ・他のグループの発表を見て、よかったことを伝える。 ・活動を終えて、地域の方々とかわるくわりのよさや楽しさについて考える。	ワークシート④ 3回目の訪問 ワークシート⑤ 発表会に招待する。

※全グループ、3回お店を訪問する。

<1回目> ・あらかじめ学校で書いておいた自己紹介カードを渡す。

・お店についての質問に答えていただく。

・体験本番での持ち物や注意事項を聞く。

・仕事をのぞかせてもらう。

<2回目> ・実際に仕事を体験させてもらう。

<3回目> ・お礼の手紙を届け、「仕事体験発表会」の招待状を渡す。

3. ワークシート

ワークシート①

仕事体験先の希望を理由も含めて、第三希望まで書かせる。

[illegible]

ワークシート②

体験先が決まったら、お店に
対しての質問を考える。

ワークシート③

1 回目の訪問を終えて本番の仕事体験の内容が決まった上で、自分たちがどんなことに気を付ければよいのか考える。

ワークシート⑤

発表会に
向けて

4. 仕事体験の様子



セブンイレブン

品出しをし、商品を見やすく並べました。



大昌寺

雑巾がけをしたり、木魚をたたいたりしました。



くすりのセイジョー

納品書をチェックし、はんこを押しました。



きなせや

料理の下ごしらえをし、味見もしました。



藤本歯科医院

患者さんにエプロンを付けることもしました。



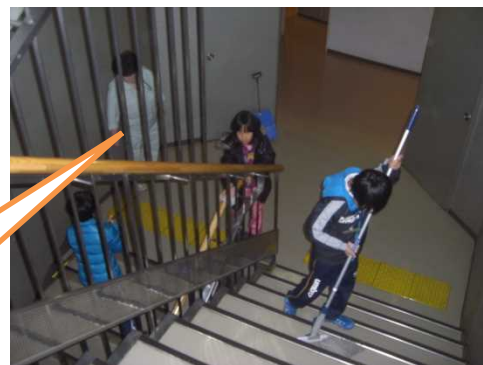
日野図書館

返却の手続きをしたり、本の整理をしたりしました。



紀ノ国屋

値札を付けたり、試食の準備をしたりしました。



生活保健センター

本物の清掃員と一緒に掃除をしました。



花屋「ロゼッタ」

花に水をあげたり、花束を作ったりしました。



読売新聞

広告をきれいに並べ、束にしていきました。



マツモトキヨシ

商品の発注のやり方も体験しました。



第三幼稚園

一緒に粘土などをして遊びました。



農家

いろいろな形のおいものが収穫できました。



お肉のさいとう

おすすめの商品の看板も書きました。



スーパーおた

店の裏からも品出しをし、商品を並べました。



One coin shop

品出しやレジ打ちを行いました。



しせい太陽の子保育園

一緒にお散歩にも付き添いました。



猪鼻輪業

実際に自転車を解体してみました。

3年生全児童90名を3～7人グループに分け、19カ所の仕事先へ体験に行ってきました。



かわせみ保育園

子供たちに絵本を読んでもあげました。

5. 子供たちの感想

- ・毎日たくさんの仕事を一生懸命にがんばっているということが分かった。
- ・お店の人たちは、テキパキと動いていたのですごいと思った。
- ・見えないところでも丁寧に掃除をしていることが分かった。
- ・いつもきれいなことが当たり前ではなく、きれいにしている人がいることが分かった。
- ・レジではお客さんの列が長くなり過ぎないように工夫があることが分かった。
- ・品物の並べ方は、お店の人が考えて毎日変えていることが分かった。
- ・はじめははずかしかったけれど、慣れてきたら大きな声で「いらっしゃいませ」と言えた。
- ・お客さんから「えらいね」と言われて、嬉しかった。

6. 成果と課題

<成果>

- ・地域のようなお店を知ることができ、同時にそのお店でのお客さんに対する工夫に気付くことができた。
- ・自分たちが実際に働くことによって、お客さんから感謝される体験ができた。
- ・本番の体験が終わった後、自分のやるべきことをがんばる児童が増えた。

<課題>

- ・なかなか地域ならではのお店にお願いすることができず、仕事体験先の確保が難しかった。
- ・体験の日時が違ったため、出かける児童と学校に残っている児童とで学習の進度に違いが出てしまった。
- ・体験の内容は場所によって違うので、児童の体験に差が出てしまった。

(馬鳥 誠)

(6) 昔の暮らしへタイムスリップ「地域の方に昔の話を聞いてみよう」

(第3学年 総合的な学習の時間)

1 教材化の意図

「昔の暮らし」といっても、子供たちには想像しにくい面がある。具体的に考えやすいように、祖父母の世代が子供のころにあたる昭和中頃と、父母が子供のころにあたる昭和後期についてとりあげた。本単元に入る前に社会科で昭和初期の道具を知り、道具が変容したことや、それぞれの時代で使われた道具の特徴などについて調べたり考えたりした。また、副読本「わたしたちの日野」を使って、日野市の昔の様子について学習し、交通や土地の使い方について学習した。昔の暮らしを多面的に理解し、自分と関係のあることとしてとらえられるように、総合的な学習の時間において、昔の暮らしについて、昭和中頃に二小の学区で子供時代を過ごした方々に直接話を聞く機会を作ろうと考えた。

二小卒業生に協力をしていただき、小学生だった頃の二小の周りの様子や暮らしぶりなどについて、直接話を聞くことにより、より関心をもって取り組めるのではないかと考えた。児童が昔の暮らしについて、より実感をもって想像できるようになると共に、自分たちの住んでいる地域を好きになったり、愛着を持ったりできるのではないかと考える。また、昔の地域や二小の様子を知ることにより、地域や学校、またはそこに関係するものを大切にしようとする心が育つのではないかと考え、教材化を図った。

2 指導計画

(1) 単元のねらい

- ・昔の道具調べで分かったことをもとに、昔の暮らしについて調べたいことを見つけ、自分から進んで調べようとする態度を培う。
- ・地域の人に昔の様子の話を聞くことにより、日野市や地域への理解を深め、愛着を持たせる。
- ・自分の調べたことを、よりよい方法で他のグループの人に伝えることで、より理解を深めさせる。

(2) 単元の指導計画(12時間)

過程	主な学習活動・学習内容	留意点(・) 評価(○)
つかむ(2時間)	・二小の周りの昔に関わる風景の写真や実物を見て、興味を持ち、昔の二小の周りのことについて知りたいことを考える。 - プール門奥の橋→昔の二小の様子 - 豊田の噴水の池(昔はプール)→昔の子供の遊び - 中央図書館脇の湧水→昔の子供の遊びや生活 - 二小近くのおしゃもじ様の石の祠 →昔の生活、病気になった時の様子 - 中央図書館裏手の鳥居→昔のおまつりや行事の様子	・以前プールとして使われていた池や八幡様の鳥居、学校裏手にあるおしゃもじ様の石碑など昔の暮らしを連想させる写真を準備する。 ○昔の暮らしについて、知りたいと思ったことをワークシートに記入している。
	・前時に出た意見をもとに、課題を整理する。 - 子供のころの遊び - 二小の様子 - 地域の様子 ・地域の方にお話をいただくための依頼文を書く。 ・一番興味のある課題を選び、質問内容を考える。	・児童の課題に沿って地域の人に話をしてもらうよう依頼し、事前にどのような話をお願いしたいのか、どのような話をして頂けるのか確認しておく。 - お話のあと、その場での質問にも応じていただけるようお願いする。 ○自分が一番興味のある課題を選択し、質問項目を考えている。

解決する ・まとめる (5時間)	・卒業生である地域の方から話を聞く。(本時) - 子供のころの遊び(昭和20年代・30年代・女の子) - 地域の様子(風景・乗り物・変化) - 学校の様子(児童数・学級数・校舎・道具・髪形・宿題・学習内容) - 家の中の様子 ・グループに分かれ、自分の課題にあったところで話を聞き、メモを取る。 ・詳しく知りたいことを質問して、答えていただく。	・10人の地域の方の中から、どの方の話を聞きたいか、児童の希望を聞き、グループ分けを行う。 ○聞いたことをメモ用紙に書いたり、積極的に質問しようとしたりしている。 ・当日中にお礼の手紙を書かせる。
	・話を聞いて分かったことをまとめ、さらに自分たちで調べたいことを検討する。 ・図書資料(周年記念誌)や写真資料を使って調べる。 ・地域や学校にあるものについては、実際に見に行く。	○さらに調べたいことについて考えている。 ・児童が自分たちで調べられるように資料を準備しておく。
	・両親の子供のころと調べてきたことを比較する。 ・親や親と同じ世代の人に話を聞いて、これまで調べてきた内容と比べ、その変化をまとめる。 ・課題別のグループで、発表のための準備をする。 昭和中頃、昭和の終わり頃、平成と3つの時期に分け、それぞれの課題について、変容が分かるように、紙芝居にまとめる。	・昭和30年代と50年代と平成20年代を比較できるようなワークシートを用意する。 ・紙芝居形式での発表ができるように、作成の仕方を指導する。
表現する (3時間)	・まとめの発表会を行う。 子供の遊び、学校の様子、地域の様子の課題別グループの中で、さらに自分の興味のある内容に細分化したグループごとに発表を行う。	○他のグループの発表を聞き分かったことをワークシートに記入している。 ・保護者を招待し、聞いてもらうことによって、意欲付けを図る。
	・発表会を通して分かったことを、課題別に年代を追ってまとめる。	事前に社会科の学習で作成した年表にさらに書き込んでいく。 ○苦労だけでなく、その時代の人の喜びや願いなどに気付いている。
つなぐ (2時間)	・発表を聞いて思ったことや考えが変わったことを書く。 ・地域や学校に関わることで、大切にしていきたいことを考える。	・自分の生活と比べたり、自分の生活を振り返って考えたりしたことも書くように助言する。 ○地域や学校への思いで、変化のあったことを書いている。

つなぐ過程において紹介した写真



〔写真左〕噴水がある丸い形の池

宅地開発された際、防火用水として造られた。夏になると近くの子供たちが水遊びの場所となっていたという。水を溜めるコンクリートが劣化したため、フェンスを張って立入ができないようにしている。



〔写真右〕中央図書館下の鳥居

鳥居の上に中央図書館があることから、元は神社(八幡神社)であったことが分かる。

3 本時の指導

(1) 本時のねらい

昔から学校の周りに住んでいる方に、子供のころの話を聞き、その当時の人々の願いや喜びに気付く。

(2) 本時の展開(4/12 時間)

	学習活動	○支援 ◇評価
導入	○自分の課題と質問内容について確認する。 ○話を聞く教室とコーナーの場所をワークシートに記入する。 ○体育館に集まり、地域の方にあいさつした後、課題別の教室に移動する。	○聞いたことをメモするためのワークシートを準備する。 ○話の最初と最後にあいさつをするリーダーを決めておくようにする。
展開	昔から二小の周りに住んでいる方に話を聞いて、おじいさんおばあさんが子供のころの二小の周りの様子や人々の様子について知ろう。 ・地域の方に話いたり、詳しく知りたいと思っていることについて質問したりする。 1組 地域の様子（昭和30年代） 子供の遊び（昭和20年代・男の子の遊び） 子供の遊び（昭和30年代・男の子の遊び） 2組 地域の様子（昭和30年代・乗り物） 子供の様子（昭和20年代・髪形・持ち物） 子供の遊び（昭和30年代・女の子の遊び） 家の中の様子（昭和30年代） 3組 地域の様子（昭和30年代） 学校の様子（昭和30年代） 地域の様子（昭和30年代）	○それぞれの課題に答えてもらえるように、話をしてくださる方に依頼する。 （学年で10名） ◇話を聞いて、メモをとったり、質問したりしている。（態度）
まとめ	・話を聞いて、分かったことや気づいたこと、感想を書く。 ・考えたことについて意見交換をする。	

4 学習の様子

(1) 地域の方からの話



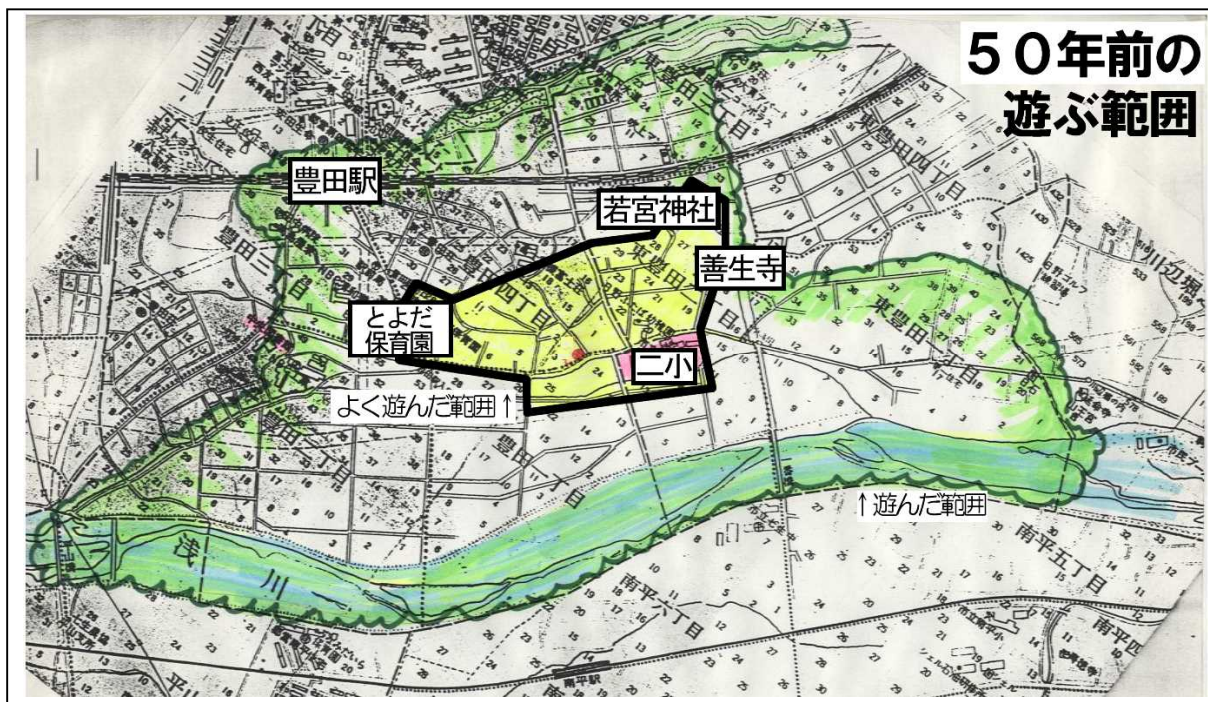
○昭和20年代の様子

箱メガネと銚子を使用して魚とりをしていた。パンツのゴムと枝で制作したパチンコ遊び、せみとり、すずめとり、矢印かくれんぼ、竹馬、手づくりの道具で棒高跳びなどをしていた。子供は自転車に乗っていた。

戦後は食糧難で泥棒が増え、蔵にベルを設置するなどして自分たちで防犯に努めた。三輪自動車があった。京王線と中央線は走っていた。

分教場の校舎は木造1階建てであった。池があり、鯉やホタル、なまずがいた。蛍光灯ではなく、白熱電球であった。児童数500人くらいいた。1学年2学級あり、1学級40人くらいであった。檜の廊下を子供が米ぬかでふいた。給食はなく、弁当であった。おかずは梅干し1個であった。

女の子はおかっぱで男の子は坊主頭であった。羊毛は高級品であったので普段は木綿の服である。眼鏡をかけている子供はいなかった。時計は大人だけが持っていた。おもちゃは手作りで、テレビゲームはなかった。



○昭和30年代の様子

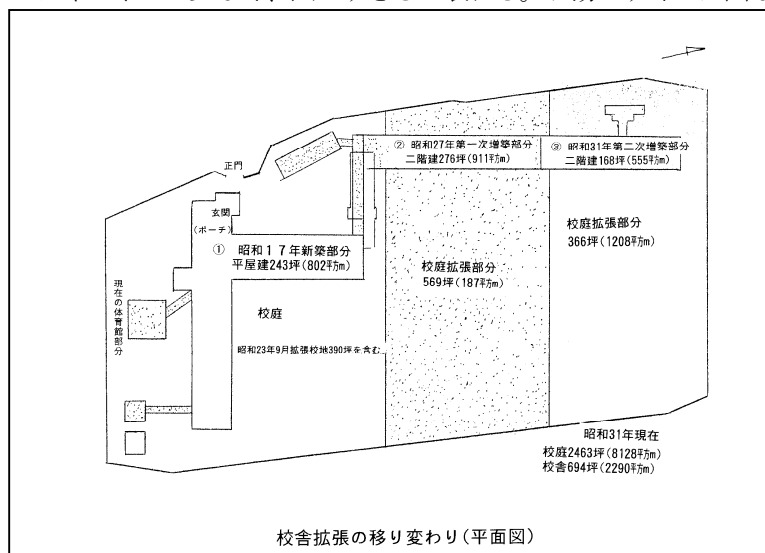


外遊びをすることが多かった。缶けり、相撲（相撲大会もあった）、一輪車、大縄跳び、おにごっこ、ドッジボール、田んぼで虫取りをしていた。道具が少ないので校庭で遊ぶことが多かった。大きい子供たちが一緒に遊んでくれた。中遊びは、将棋、トランプ、カルタ取り、おはじきをしていた。

黒川清流公園は田んぼで、吹上地区は畑であった。東豊田公園は田んぼで、ためき公園は神社であった。豊田駅は南口しかなかった。橋は狭く、人が歩くだけの幅であった。学童やマンションはなかった。浅川グラウンドは川で

あった。自動車は農家の人は持っていた。

氷冷蔵庫では溶けてしまうため、家でアイスクリームは食べられなかった。アイスキャンディー売りがいた。飲み物は、お酒と一緒に酒屋さんが家まで持ってきてくれていた。電化製品が少なかった。テレビのチャンネルが少なく、回しすぎると壊れる。お湯がすぐには出なかった。



学校の児童数300人くらいいた。1学年は2学級あり、1学級の人数は39人いた。土曜日は授業があり、日曜日に授業をする日もあった。校庭にはジャングルジム、ブランコ、砂場があった。中休みは体育館や屋上で遊ぶことができた。西校舎の場所にプールがあった

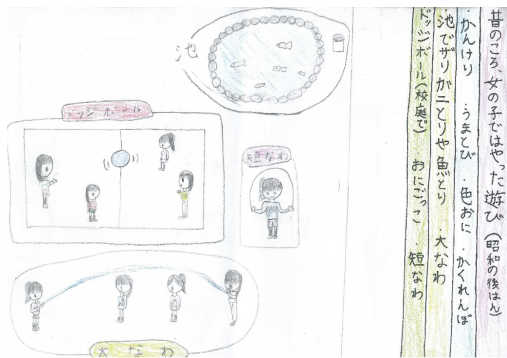
夏休みの宿題は、日記、ドリル、自由研究（工作の人が多かった）をした。校舎は木造2階建てであった。保健室で人生相談もしてくれた。

(2) 児童の様子

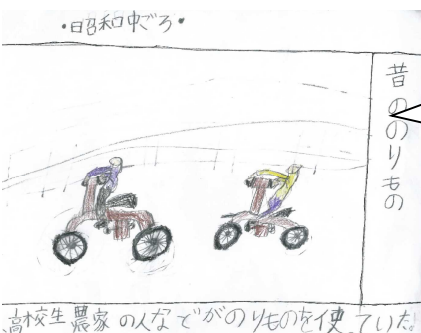
地域の方から話を興味深く聞き、積極的に質問をしていた。昔の子供の遊びを知り、あやとりに取り組んだり、パチンコのようなものを作ろうとしたりした児童もあり、昔の子供の遊びを身近に感じている姿が見られた。

聞いたことをもとに、よく分からなかったことや、もっと調べたいことを話し合い、開校100周年の記念誌「開校百年のあゆみ」や開校120周年記念副読本「120年のあゆみ」を利用して調べたり、二小の卒業生の祖父母に話を聞いたりして、調べることができた。また、父母や叔父伯母に子供のころを聞いたり、記念誌を読んだりして、昭和後期の様子を調べ、比較し、紙芝居にまとめた。この作業を通して、二小の地域に住んでいた人々の思いに触れることができた。

また、昔よりも今のほうが便利であることに気付いたり、物が豊かであることに気付いたりした児童が多い。しかし、だから今のほうがよいという感想だけで終わることなく、昔のよさも理解できたように思う。例えば、防犯システムは現代のほうが性能はよいが、昔は治安が良かったこと、現代の方が遊びの種類は多いかもしれないが、昔の遊びの中にも面白そうでやってみたいものがたくさんあること、昔は物が少なかったが、その分道具を自分たちで手作りし、物を大切にしていたことなどについてである。以上のことは、児童が気づき、紙芝居の発表会で発言することができた。昔と今とを比較することで、今の良さ、昔の良さ、二小の良さに触れることができたのではないかなと思う。



昔も、いろいろな遊びがあって、面白そうだった。今と同じ遊びもあったし、やったことのない遊びもあったので、やってみたいと思った。昔は二小の周りには公園が少なかったと言っていたが、広い庭や車の通りの少ない道路でも遊べるのは、いいと思った。



昔は車が少なくて、自転車を使うことが多かったそう。農家の人は荷車を使っていたと聞いた。電車は通っていたけれど、車がないのは少し不便だと思った。でも、自転車の方が環境には優しいから、いい面もあると思った。

5 成果と課題

○成果

地域を二小の周りと学校のことに限定したことにより、焦点化しやすく、児童も課題を身近なこととしてとらえやすかったので、児童は関心を持ちやすく、進んで調べようとする気持ちにつながった。また、地域や二小の昔の様子や変化を知ることにより、地域にあるものや学校を大事にしようとする気持ちを育むことができた。自分たちの使っている校舎をきれいにしようという動きが見られた。

○課題

自分の得た知識や考えたことを、効果的な伝え方について研究することが必要である。児童の中には、昔の話は遠い時代の話と考えている様子が見られたので、昔の子供と今の子供の共通点などを見付け、児童が自分たちと同じ子供の視点として、昔のくらしについて考えられるようにする工夫が必要であると思った。地域の方に話を、もっと効率よく、まとめられるようにさらに課題を明確にするとよかった。また、今回は保護者の方に発表を聞いてもらうことにより、まとめまでの意欲付けを図ったが、地域の方にも来ていただくことができれば、なお意欲を高めることができたのではないかなと考える。

(吉原涼子)

(7) 豊田用水路 ～見たい！ 聞きたい！ また行きたい！～

(第4学年 総合的な学習の時間「豊田用水を調べよう」)

1 教材化の意図

本単元の学習対象である「豊田用水」は、本校の校区にある用水路である。日野市には、現在 170km ほど水路が残り、国土交通省から「水の郷」の指定を受けている。このような地域の特徴を生かした学習を通して、地域に対しての誇りと愛情を育てることは重要だと考える。また、児童にとって身近な学習材を扱うことにより、フィールドワークを多く取り入れることができた。これは実感を伴う学習にして、地域の人々の思いや工夫に気付かせたいと考えたためである。

2 指導計画

(1) 単元のねらい

豊田用水路と豊田地区に住む人々が、昔も今も用水路とかかわりをもっていることに気付き、これからの豊田用水路とのかかわり方について考えることができる。

(2) 単元の指導計画 (全 15 時間)

	時	学習活動	○評価規準 □指導の手立て
つかむ	1 2	○自らの課題を見付けるために、現地を訪問する。 ・植物や生き物を見付けたり、用水路の石碑などを観察したりする。	○豊田用水路について初めて知ったこと、疑問に思ったこと、もっと知りたいことをまとめることができたか。(発言)
	3	○追究したい課題を決める。 (歴史) 用水路の成り立ち。 (地域) 用水路がどこにあるのか。 (生き物) 用水路に住む生き物の生態 (生活) 用水路がどう活用されているか ・学習の見通しをもつために、課題をどう解決するか計画表を立てる。	□紙芝居・用水路の写真・ワークシート等を用意する。 □課題ごとにグループ編成を行う。

解決する	4 ～ 7	○情報を集めて、課題を解決する。 ・家庭、地域の方、図書資料、インターネット、フィールドワーク等をもとに調べる。 歴史グループの主な活動 ・豊田用水路の成り立ちを知るために、書籍をもとに調べたり、地域の方々から説明を受けたりする。 地域グループの主な活動 ・豊田用水路の地理的な特徴を知るために、書籍で調べたり地域の方等から説明を受けたりする。また、フィールドワークでは用水路の高低差を調べる。 生き物グループの主な活動 ・豊田用水路の魚類や水草の状態を調べるために、フィールドワークで調べたり、水質検査薬を使用して調べたりする。 生活グループの主な活動 ・用水路を地域の方がどう活用してきたかを調べるために、家庭や地域の方から説明を聞いた、実際に洗い場を調べに行ったりする。	○自分の課題に合わせて情報を収集し、分かったことや考えを記録している。(ワークシート) □図書館から豊田用水路に係る図書資料を借りる。 ○これまでの学習をもとに、用水路とのかかわり方に関心を持ち、自分と用水路との関わり方についての課題を深めることができる。(発言・ワークシート) □日野に古くから住んでいる保護者等に案内していただく。 □図書資料だけでなく、デジタルカメラ・ワークシート・水質検査薬等、調査に必要な道具も用意する。
表現する	8 ～ 12	○調べた事柄を表現するために、集めた情報や調査体験を整理し、伝えたいことを考える。 ・調べたことを基に、伝えたいことを整理する。 ・調査活動や調べ学習を通して学んだことや感じたことを話し合い、豊田用水にかかわった人たちの気持ちを考える。 ○伝えたい方法を選択する。 (プレゼンテーション・新聞作り・ポスター作り、パンフレット作り) ○選択した方法でまとめることができる。 ・調べた情報を基に根拠のある内容にまとめる。	○収集した情報をもとに、分かったことや考えを分かりやすくまとめることができる。(作品)
つなぐ	13 ～ 15	○自分たちの生活と環境について考え、発表する。 ・豊田用水についての調査活動をもとに、自分達の身近な豊田用水とのかかわり方やこれからの生活について話し合う。	○用水路とのかかわり方を考えている。(ワークシート・作品) ○保護者・地域の方へ公開する。

3 学習の様子

つかむ

豊田用水は児童にとって身近な場所である。しかし、実際に豊田用水の歴史や住んでいる生き物について詳しくは知らない。そこで「地理」「歴史」「生き物」「使われ方」の観点から、用水路を見るようにした。実際に見て触ることにより、「どうしたらもっと生き物が増えるかな」など、自らの疑問を基にして課題を見付けることができた。



解決する

○歴史グループ

豊田用水路を身近な存在に感じることのできるように、石碑などフィールドワークで実際に見付けたものを、調べる活動を多く取り入れた。



○地域グループ°

昔の用水路と今の用水路の長さを調べた。



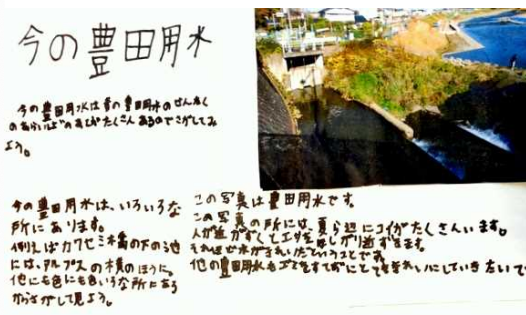
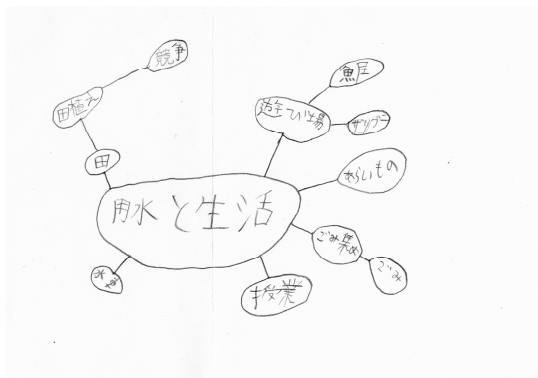
○生き物グループ

用水路に住む生き物が何かというだけでなく、生き物が住む用水路の環境を科学的に捉えられるように、水質検査をした。



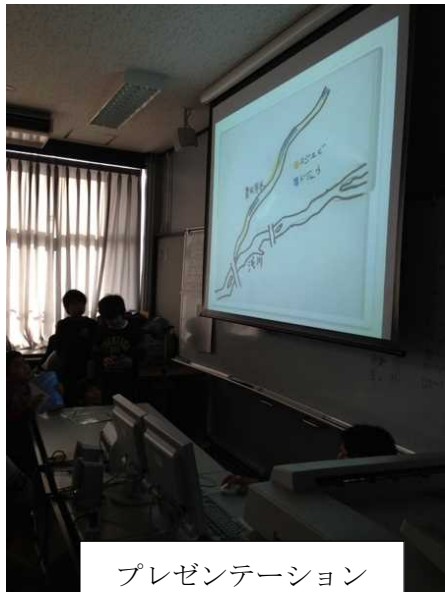
○生活グループ

用水路が地域の人にとってどういう存在だったのかを感じ取らせるために、ウェブイン
グマップで課題を整理した。

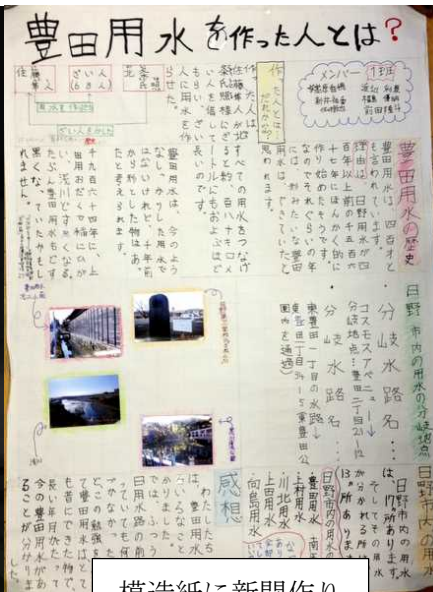


表現する

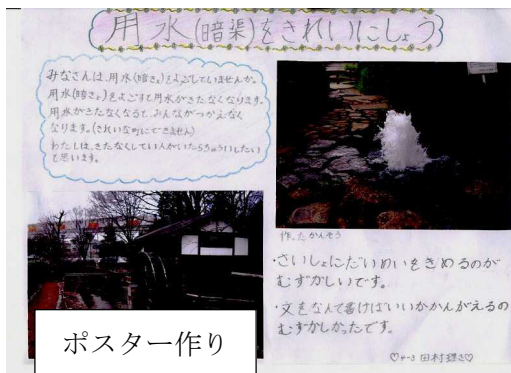
- 地域の用水路と繰り返しかわることにより、用水路のよさや問題点について明確になってきた。調査活動で得た情報から、「なんで用水にゴミ？」などと自分なりに問いをもって表現するようになった。
- 児童の思いや考えを引き出しやすくするよう、児童に表現方法を選ばせた。



プレゼンテーション



模造紙に新聞作り



ポスター作り



画用紙に新聞作り

つなぐ

- つかむ段階から記録した「振り返りカード」を使用して活動全体を見直してみた。身近な地域を調べているうちに地域の人々の思いや願いに気付き、自分は地域の中で育っていることに気付く児童もいた。
- 調べたことを同じ学年の児童や保護者に発表することにより、自分と地域の人々とのかけわりの強さを改めて感じる事ができた。

4 学習を終えた後の児童の感想

- 玉川上水と同じように、大きな川から水を引き入れていることが分かった。
- 高低差を利用している。昔の人はすごい。
- 用水路の周りには、田んぼがあった。作物のために水路を汚さないようにしたい。
- 豊田用水路は、作物を育てるために作られたことを知った。当時の人々が苦勞して作った用水路を大切に守りたい。
- 豊田用水路の水質を調べたら、綺麗な場所と汚い場所があった。用水路に住む生き物たちの為にも、環境を守る取り組みに参加していきたい。
- 生き物の食物連鎖を知った。水草の増やすため用水路に蓋をしないように働きかけた。
- 日野市は水の郷と言われている。いろいろな人が水路を大切に守ってきた歴史があるからそう言われるようになったと思う。
- 水車を調べることで、作物を育てていることが分かった。今と昔では使われ方が違う。
- 用水路には、湧き水が引き込まれていることを知った。わさびも作られるほどのきれいな水が入るから、昔からたくさん利用されていると思う。

5 成果と課題

成果

- ・ 児童にとって身近な題材であり、意欲を持って学習した。
- ・ 学習前はなぜ用水路があるのかということを知ることにより、休みの日などに用水路を訪ねて進んで調査する児童がいた。
- ・ ゴミや汚れに気付いた児童は、用水路をきれいにしたいという気持ちが現れた。

課題

- ・ 身近にある学習材であったが、文献やインターネットからの情報に頼りがちであった。現地を訪ねて取材する機会をより多く設けることが必要であった。
- ・ 資料を読み取ったり、推察したりする活動ができるよう、取り扱う資料を厳選するとよかった。
- ・ 本単元を2学期に実施すると、11月以降の寒さで生き物が見付けにくいため活動が思うように進まなかった。1学期中に単元を取り扱うとよい。
- ・ 地域の方から情報を得ると同時に、学習した成果を伝えることのできる場をさらに工夫すべきであった。
- ・ 清掃活動を行う等の体験があれば、これから用水路とどのようにかかわるとよいか、具体的に考えることができたと思う。

(瀬川 敦)

(8) 日野市の地名について探る

(第5学年 総合的な学習の時間)

1 本研究の意図

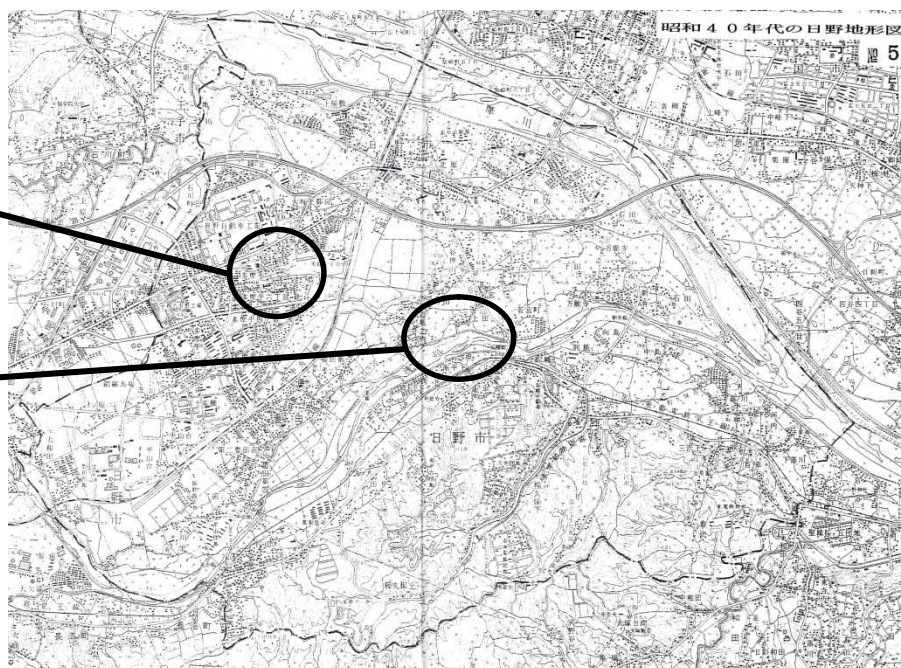
市内に浅川と多摩川が流れる日野市。市内には川の周りに平地が広がり市北部には台地、市南部には丘陵地があるという特徴をもっている。それぞれの土地の特徴を生かし、低地には田んぼが広がり、田んぼに水を引くための用水が流れている。台地には、その広大な土地を利用して多くの工場が立ち、丘陵地には新しい住宅地が目立つ。その土地の特徴を知り、その土地で暮らす人達を調べる学習は小学校3年生の社会科「日野市の様子」で学習をする。しかし、若手の教員や他市から来た教員などにとって日野市の特徴をすぐにとらえることは難しい。また、子供たちにとっても地形の特徴や土地の利用の仕方をただ調べるだけでは印象に残りづらい。そこで本研究では、日野市の中にある地名の由来や小字について調べ、学区内の土地の名前の由来を知ったり、地域に残る小字名を調べたりすることで、児童にとって地域に愛着をもつことのできる指導を行えるのではないかと考えた。前年度の研究に引き続き、今年度も地名について探っていきたいと考えたが、本年の研究では、日野第五小学校の周辺の地名に特化し、その変遷について深く調べていきたい。

2 日野第五小学校周辺の地名

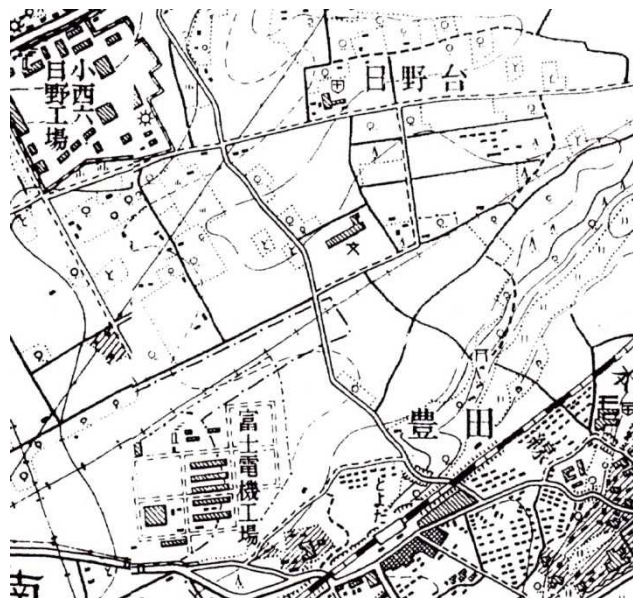
「自分の住んでいる地域の名前は、昔は違っていた。」こんな事実を聞いたら子ども達はどう感じるであろうか。ほとんどの子供は驚き、そして昔の名前を知りたがると思われる。実は同じような経験を私もしたことがある。それは、子供の頃から日野市に住んでいる先輩の先生に、「この地域には古い表札が残っている家があるんだよ。」と教えられ実際に表札を教えてくださいました。そこに書かれていたのは「多摩平」の住所ではなくなぜか「川辺堀之内」という住所であった。川辺堀之内という名前の住所は今も日野市に存在しているが、住所に川の字が入っている通り多摩平からかなり離れた浅川の近辺の住所である。

今の多摩平地域
台地の上にあり地名
に川辺堀之内からは
かなり離れている。

今の川辺堀之内
近くに浅川が流れて
いて地名が土地の様
子を表している。



今の日野第五小学校の住所は「多摩平6丁目21番地1号」である。五小のある「多摩平」の町名は意外と新しく、昭和30年頃の地図にはまだ存在しない。下の地図を見ていただくと分かるが、昭和30年代に「日野台」「豊田」など今も残っている地名が確認できるが、そこには多摩平や川辺堀之内の地名は残っていない。



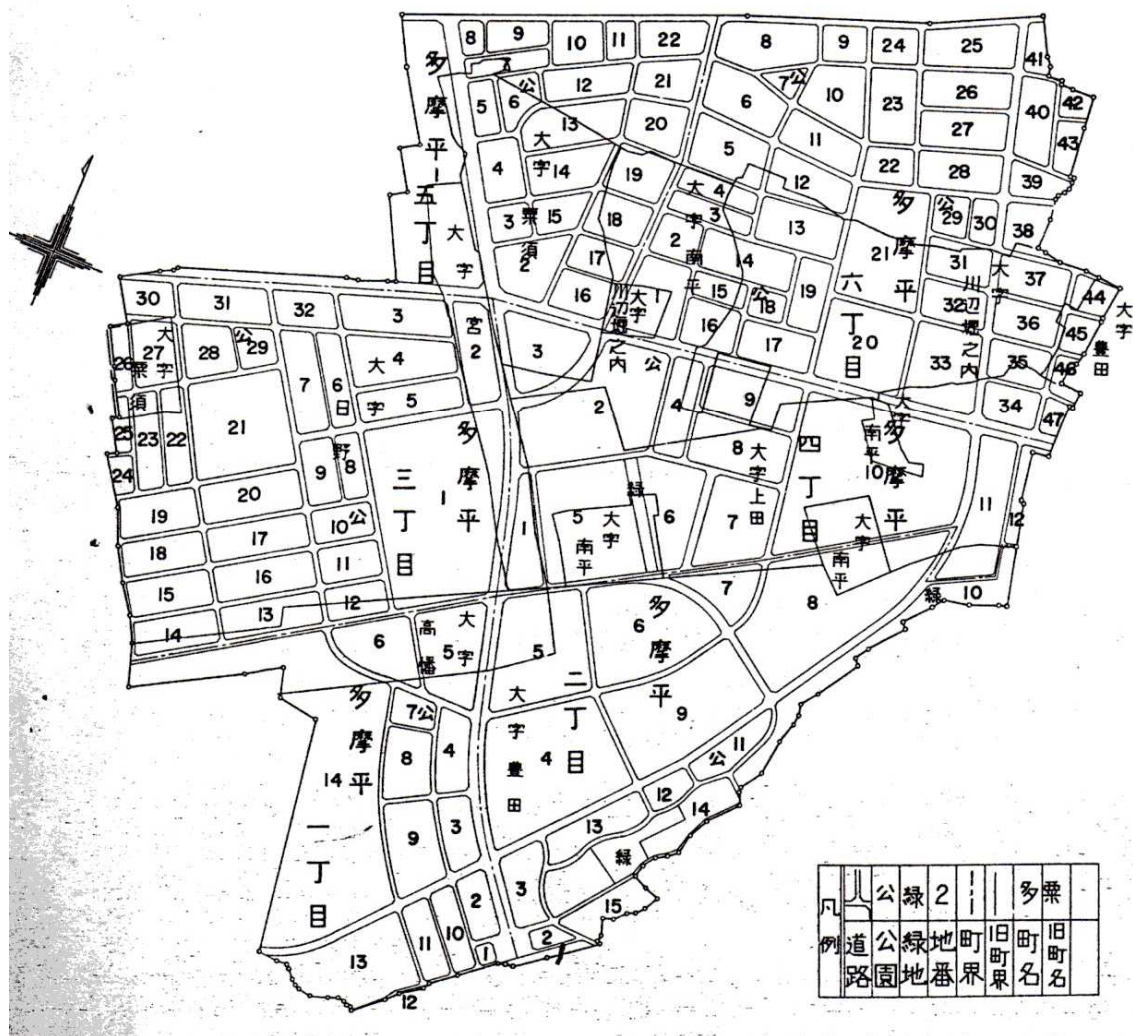
昭和40年代の同じ地域の地図

この資料を見たときに、本当に五小周辺は川辺堀之内だったということが実感できた。さらに、字名である「大久保」と言われるとピンと来るのが学区内に大久保団地とおおくぼ保育園がある。今は、住所としては存在しないがこんなところにも昔の地名が残っているのである。この事実は分かりやすく子供に伝えれば十分に興味を引く内容であると思う。恐らく市内のどの学校の周辺にも、昔の地名が別の形で残っていて今も使用されていることは少なくないと予想される。地域の歴史を子供たちと共に紐解いていくことで郷土を好きになることができると感じた。

新		旧		新		旧	
丁目	地番	大字	地番	丁目	地番	大字	地番
多摩平六丁目	二〇	川辺區之内 字中大久保	七六九	多摩平六丁目	二〇	川辺區之内 字中大久保	七九八ノ一
〃	二〇	〃	七七〇	〃	二〇	〃	七九八ノ二
〃	二〇	〃	七七一	〃	二〇	〃	七九九
〃	二〇	〃	七七二	〃	二〇	〃	八〇〇
〃	二〇	〃	七七三	〃	二〇	〃	八〇一ノ一
〃	二〇	〃	七七六	〃	二一ノ一	川辺區之内 字下大久保	七二六ノ一
〃	二〇	〃	七七七	〃	二一ノ一	〃	七二六ノ二
〃	二〇	〃	七八	〃	二一ノ一	〃	七二六ノ三
〃	二〇	〃	七八三	〃	二一ノ一	〃	七二六ノ四
〃	二〇	〃	七八四	〃	二一ノ一	〃	七二七ノ一
〃	二〇	〃	七八五	〃	二一ノ一	〃	七二八
〃	二〇	〃	七八六	〃	二一ノ一	〃	七二九ノ一

豊田土地区画整理地区町界町名新旧対照図

縮尺 1/10000



区画整理前と後の対照図

区画整理前は字名が混在していて複雑な事になっていた。字名として目立つのが川辺堀之内や南平、上田など低地の地名が字名になっていることが多い。

→現在の地名と小字名の対照図

日野五小の周辺は大久保とつく字が多い。

「大坂上」、「黒川」、「泉塚」の名前は今も公園や中学校名、交差点名、バス停の名前として残っており知っている子供も多い。



3 地名の由来とその利用

では、「川辺堀之内大久保」であった五小はどうして今の「多摩平」の地名になったのであろうか。その由来は平成24年度の研究で調べてはいたものの『団地の名前が多摩平団地になり、町名が後から多摩平に変更される。昭和34年の広報には日野台団地と記してある。』ということしか分からず謎のままであった。

五小の学区の中には「暁自治会」という自治会が存在するが、この自治会の名前にも古くからの由来があった。多摩平に住んでいる西幹さんが「日野の歴史と文化」の本の中で多摩平の由来を次のように紹介している。『今、私の住んでいる多摩平6丁目に都内から移住してきました。が「暁部落」はその頃中央線と甲州街道の間の今の「多摩平」と「さくら町」、「富士町」を含めた広大な部落名であったのであります。当時は、甲州街道の北側に戦前から今の日野台一、二、三、四丁目が町になっているだけで、今の多摩平としては甲州街道の南側一列に家があるだけでありました。そして、当時この辺の人は今の多摩平すなわち当時住宅のない原野を「山（やま）」と言っておりまして。この甲州街道沿いの南側の家と、山のわずかの住民とで作ったのが暁自治会で、これが暁部落であります。結論から先に言えば、「暁部落」である地名を「多摩平」にしたのは、この土地を区画整理した日本住宅公団がつけたものであり、これを日野市が承認したのであります。』とあり多摩平という地名は今の多摩平の森の前に建っていた多摩平団地がもとになっていた。住宅公団が名称をつけ、それに行政がついていくという形になっているが、そうなるにはそれなりの根拠があったのである。

西幹さんはその当時の地名の決定について次のように書いている。『多摩平の場合で言えば、たとえば私の移住してきた時には、四つの地名を使い分けねば生活できませんでした。郵便は中大久保何番地でなければ配達してくれないし、登記所へ行けば南平何番地であり、戸籍は日野町日野何番地でなければ役場は受け付けてくれず、生活物資の配給は暁第何組でなければもらえなかったのが実情であり、現実であったのです。そして、この多摩平地内には日野の各町、八王子の各町の飛び地が入り交じっていて、その数は何十にもわかれておって、隣同士が違う場合もあるのですから混雑この上ないありさまだったから区画整理の必要性が迫られているとき、公団の大区画整理が一気に多摩平一つに統一したのであって公団に引き摺られたとみるのは当たらないのであります。』このように、地名の変更には当時の生活の実状とそこに暮らしている人々の思いがあり今の「多摩平」という地名につながっていたのである。

4 字名を使ったお話（実践事例）

五小周辺の地名の由来を調べているとこんな昔話に出会った。現在は、交差点名として残っている「泉塚」の字名の由来である。『江戸時代のこと、豊田村と川辺堀ノ内村では村境についての争いがありました。この争いは3年間も続いたので豊田村代表の和泉という人は、神主に仲裁を頼みました。その時和泉は「元は境界に杭があったが火事で焼けてしまったという言い伝えがある。掘ってみたら何か出てくるかもしれない」と言いました。そこで掘ってみると木炭が出てきたので、川辺堀之内村分はかなり食い込んだ形で協会が決まりました。しかし、これは和泉が一計を案じ後から埋めたものでした。川辺堀之内の人々は激怒し、豊田村に押しかけました。和泉は慌てて逃げましたが、畑でエンドウのつるに足を取られて転んだところを取り押さえられ、松の木に縛り付けられてついに殺されてしまいました。和泉塚の地名は、和泉が処刑された場所として伝えられています。』

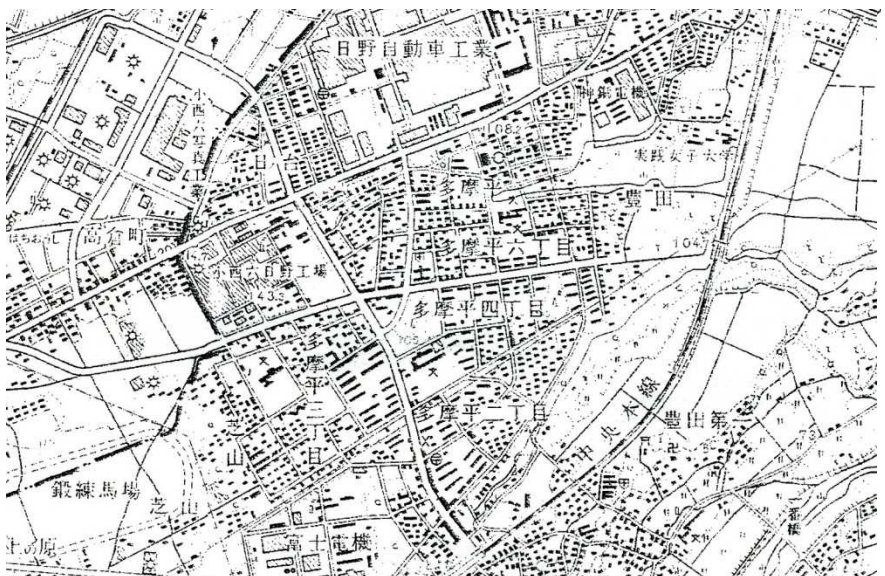
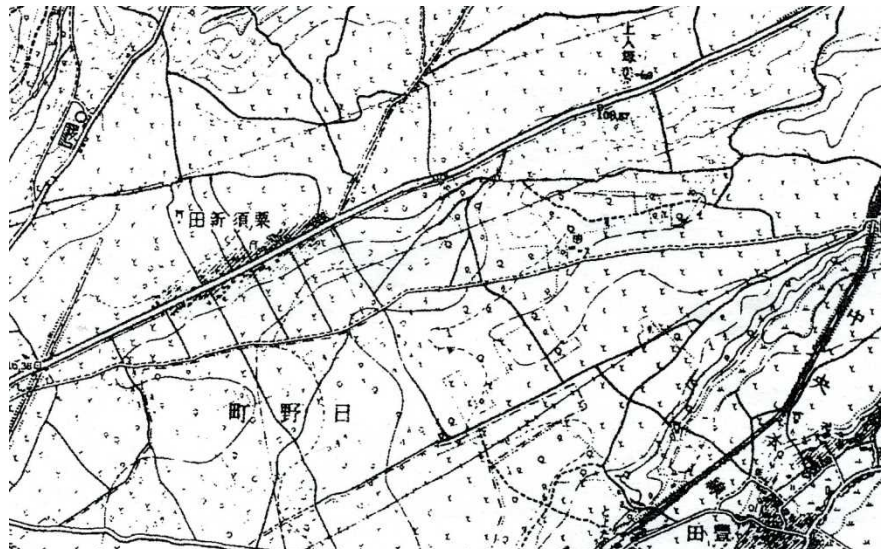
この話を実際に子供たちに話す機会ができた。それは、夏休みに行われた「学校に泊まろう」の行事の中で行われた肝試しの場で、肝試しが行われる前の怖い話として泉塚の話を小学生向けに変えて話をした。今も残っている名前に子供たちは興味津々で聴いてくれ、特に泉塚周辺に住んでいる子供は「先生、あの話は本当なの?」「おじいちゃんに確かめてみる。」と自分なりに話が本当なのか調べることができた。

4 古い地図との比較（実践事例2）

昔の地名を調べる導入として古い地図を使う方法がある。今の地図と古い地図を比べると違うところや不思議に思うところがたくさんある。子供たちからは、「読み方が逆だ。」「古い地図は何もない」とたくさんの違いを見付けることができた。

右の地図は上が大正10年のもので、下が昭和40年のものである。下の地図も現在とは違うところが多く「コニカがない」など違いを見つけることができた。

子供に配布する地図は白黒でしか配布することができず、カラーで配布できると分かりやすい地図もあったので子供により分かりやすい地図を用意することが今後の課題となった。



参考文献

- ・「日野の歴史と文化」第20号 日野史談会 昭和59年11月20日発行
- ・「新旧並新地名地番対照表 多摩平地区」
日本住宅公団宅地開発本部日野宅地開発事務所 昭和40年3月
- ・「広報ひの」 日野市 1997年
- ・平成22年度「郷土日野」指導事例 第6集 日野市立教育センター
- ・平成23年度「郷土日野」指導事例 第7集 日野市立教育センター
- ・平成24年「日野市旧桑田村の地名」今尾恵介監修 日野の昭和史を綴る会 (亀田貴彦)

(9) 郷土に生きた先人～小島善太郎画伯～

(第5学年 道徳)

1. 教材化の意図

日野市は丘陵地と台地、そして低地がありそこには多摩川や浅川といった多くの川が通る場所である。戦後、多くの場所で宅地化が進み、日野丘陵も例外ではなく住宅へと変わっていった。そういった郷土の姿を、批判的にではなく、そこに住む人々を通して愛し、作品に残していったのが、小島善太郎氏である。

小島氏は戦前戦後の日本洋画界の中心となって活躍し、多くの作品を描き上げた。また、創作活動のみならず、大学教授や数多くのコンクール審査員等を歴任した人物である。戦後は、日野市百草に土地を買いつつ、長年八王子市に居を構えていた。そして晩年以前から所有していた百草の土地に転居し、アトリエを開いて創作活動に精を出したという。日野に住んでいたのは晩年の10年余りであったが、百草園の梅林を気に入り、「百草梅林春の団らん」という作品を描くとともに、日野、武蔵野の自然や街並みを非常に愛していたという。

児童は自分の住む地域に小島氏が住んでいたということはおそらく知らないであろう。驚きとともに人物像を知った上で小島氏の残した文章を読めば、説得力も増すのではないかと考えた。そしてそこから郷土に対する自分なりの考えをもたせることで、郷土を愛し、「都市」「自然」という概念とは違うよさを見つけて郷土をよりよいものにしていこうとする心情を育てたいと考えた。それらを意図して本教材を取り上げた。

2. 指導計画

第5学年 道徳

(1) 主題 郷土を愛する 4-(7) 郷土愛

(2) 資料 「郷土に生きた先人～小島善太郎画伯～」(「若き日の自画像」より)

(3) 単元(本時)のねらい

- ◎ 郷土に生きた先人の功績や文章資料を通して、日野百草の自然や街並みを大切にしようとする心情を育てる。

(4) 本時の展開

	○主な学習活動 ○児童の反応	・留意点	◇評価
導入	○校長室にある小島善太郎氏の作品を見せ、誰の何という作品かを考える。 C どこかで見たことあるなあ。 C 美術館で見たような・・・。 C 額縁も豪華だし高そうだね。 ○小島善太郎について紹介する。 C 『滝山城址より多摩川を望む』の絵は日野の浅川の景色みたい。	・初めに、本校の校長室にある作品小島氏の作品を見せ、どこにある誰の作品かを予想させ、小島氏の価値づけを図る。また、小島氏の作品が身近な存在であることも印象付ける。 ・地デジパソコンを活用し、作品や小島氏の紹介をプレ	

	C若いのにパリのコンクールで入選なんてすごい！ Cなんで日野に土地を買ったんだろう？ C奥さんは「土方さん」なんだ。土方歳三みたい。 C百草なんてすぐそこだよ。	ゼンソフトで提示する。 ・日本洋画界で活躍した人物であること、八王子、日野に住んでいたことを確認する。	
展 開	○資料「わが街、日野市」を読む。 ◎小島氏の感じた移り住む頃の日野と次第に変わる百草のよさを考え、ワークシートに書く。発表する。 C豊かで親しみのある自然、平和で変化に富んだ自然がよい。 C多摩川の流れ、山あり、丘あり、水と緑に囲まれたところ。 C夜に家々に明かりがともるところがよい。 C各家庭の団らんのひとときを感じさせる明かりのむれがいいともいっている。 C文化財もよさじゃないかな。 ○小島善太郎氏が日野市に期待するものは何かをワークシートに書く。発表する。 C自然と調和を考えた開発。 C文化財は大切に保存し、これを後世に伝えていくこと。 C都市としての美しさ、その中での生活の楽しさを味わえる街づくり。	・昭和53年とは今から34年前であることを確認し、その頃を想像しながら読むようにさせる。 ・移り住む頃のよさとして挙げられている「自然」「水」などは児童自身が感じているよさであることを確かめながら読むようにさせる。 ・二つの時期を比較して板書する。 ・古くからあるものや今あるものと新しいものを融合させるという観点でとらえさせるようにする。	◇郷土に住んでいた先人について興味をもって資料を読んでいる。 ◇自然だけでなく人々が暮らす街明かりや文化財も日野のよさであるという善太郎の思いを読み取る。
終 末	○現在の日野について、自分が考えるよいところ、好きなところとその理由を書いて発表する。	・自然だけでなく、人々や文化財にも目を向けさせて、幅広い内容の発表をさせるようにする。	◇普段過ごしている身の回りの生活や自然について振り返り、そのよさを見つけ、大切にしようと考えている。

3. 資料

洋画家 小島善太郎（1892～1984）

1892 年東京都新宿区に生まれる。父の家業の失敗などで貧しい少年時代を送る。1908 年、16 歳の時にふと見かけた画家の厳粛な姿に感銘を受け、画家を志す。1910 年、太平洋画会研究所に入所。画家の世界へ。1911 年絵画コンクールで初入選。1922 年、20 歳の時にヨーロッパ(パリ)に渡る。パリにおいてもコンクール入選。1925 年、帰国。日野市出身の土方恒子と結婚。その後、作品作りに没頭し、数多くの個展や展覧会に出品。また、大学や美術学校の講師、教授を引き受ける。1931 年、百草に土地を買う。1932 年 40 歳で八王子市にアトリエを構え転居。1971 年 79 歳で日野市百草アトリエ「百草画荘」を建築。転居。その頃ようやく絵を描く喜びを口にし、百草園の梅林を作品に描いた。百草画荘は 2013 年 5 月に記念館として開館予定。1984 年、善太郎 91 歳で命を引き取った。日本の近代美術史に大きな足跡を残し、洋画界の重鎮として長く活躍した。

《読み物資料》

「わが街、日野市」

小島善太郎

八王子市から日野市百草園に移り住んで七年。わたしはずっと武蔵野の自然と親しみ、武蔵野の土に対して心から愛情をいだいている。多摩川の流れ、山あり、丘あり、水と緑に囲まれた日野は、土地そのものが庭園であるといっても過言ではないくらい、自然にめぐまれたところであった。

豊かで親しみのある自然、平和で変化に富んだ自然、こんなに素晴らしい環境の中で、自然と語り合うとき、わたしの心はなごみ、かけがえのない喜びを感じる。

この地へ移り住んだ七年前、我が家からながめる日野は緑豊かな丘陵地に開発の音がひびき、宅地化が進むにつれて、一帯は緑から赤土に変わり、まるで月の世界に住んでいるかのような印象を受けた。しかし、家々が建ちならんだ今日では、夜家々に明かりがともると、いちだんとおもむきを増してくる。夜のとばりの中で、各家庭の団らんのひとときを感じさせる明かりのむれが、人間の生き様を表現しているようで、一枚の絵をながめているかのような光景を展開してくれる。

日野には文化的遺産も数多く残っている。すぐれた文化財は単なる偶然から生まれたものでは決してない。だからこそ、今日まで伝わって残ってきた文化財は大切に保存し、これを後世に伝えていくことが、われわれの努めだと思う。

日野に限らず、都市化の波が進んでいくのを、今さら止めるわけにはいかない。とすれば、そこに自然と調和を考えた開発をおこない、古くから日本人がもっているほこりと喜びを大切にして、都市としての美しさ、その中での生活の楽しさを味わえる街づくりを期待したい。

（小島善太郎著「若き日の自画像」2011 武蔵野書房より）

※宅地化…住宅街に変わることに

※おもむき…そのものが感じさせるふんいき

※とばり…幕(夜のとばり…日が暮れて夜になること)

※文化財…文化的な活動で作られた建物や物、書物など

※後世…これからの未来

《提示資料》



本校の校長室にある作品

洋画家 小島善太郎

- ・ 1892年に新宿区で生まれる。
- ・ 父の家業の失敗により貧しい少年時代を送る。
- ・ 20歳でヨーロッパに絵画留学。
- ・ パリでコンクール入選。注目を集める。
- ・ 帰国後日本の洋画界の重鎮として長きにわたり活躍。
- ・ 39歳の時に日野に土地を買い住居は八王子に構える。
- ・ 79歳で日野の百草(丘の上)に移り住む。
- ・ 91歳で永眠。百草の自宅(アトリエ)は来年、小島善太郎記念館として開館予定。

百草 梅林春の団らん
(絵)

三多摩の秋景
(絵)

滝山城址より多摩川を望む
(絵)

《小島善太郎関連 市立図書館蔵書一覧》

書名	著者	出版者	出版年月
青梅市立美術館・青梅市立小島善太郎美術館開館記念展	青梅市立美術館／編	青梅市立美術館	198400
小島善太郎	八王子市夢美術館／編	八王子市学園都市文化ふれあい財団	200500
小島善太郎展	小島敦子／監修	日野市	200611
小島善太郎展		八王子そごう	199300
小島善太郎の後輩たち	青梅市立美術館／編	青梅市立美術館	198900
小島善太郎代表作品展	清瀬市郷土博物館／編		198700
〔生誕百年〕桃李不言	小島敦子／ほか編	日経事業出版社	199210
桃李不言 小島善太郎の思い出	小島敦子／ほか編	日経事業出版社	199210
洋画家小島善太郎日野市百草画荘作品に寄せて(DVD)		日野市	201000
巴里の微笑	小島善太郎／著	雪華社	198107
巴里の微笑	小島善太郎／著	小島出版会	198100
若き日の自画像	小島善太郎／著	雪華社	197812
若き日の自画像	小島善太郎／著	武蔵野書房	201111
洋画家小島善太郎百草画荘作品解説	小島敦子／著	オフィスタム	201101

《写真資料》



小島善太郎



百草山からの風景



梅園の春



一つの桃

4. 児童のワークシートより

《あなたにとって現在の日野のよいところ、好きなところはどこですか。》

- ・ 自然・・・・・・・・・・ 空気がきれいで動物や植物がたくさん見られるから。
都会では見られない紅葉や桜、クワガタなどの虫も多いから。
- ・ 生き物(虫・動物)・・ 季節ごとにたくさんの生き物が見られるから。
- ・ 百草山・・・・・・・・・・ 下からは桜や紅葉、上からは街の景色がきれい。
- ・ 川・・・・・・・・・・ 静かな水の音が気持ちいいから。
- ・ 畑・・・・・・・・・・ 土や自然のにおいをかぐことができるから。
- ・ 用水路・・・・・・・・ 用水路があると田んぼがたくさん使えるから。
- ・ 高幡不動尊・・・・・・ 昔からの歴史を楽しむことができるから。
- ・ あじさい祭・・・・・・ たくさんの青々としたあじさいが見られるから。
- ・ 古いお寺がある・・ 古くからの歴史があるから。
- ・ 昔からの食べ物・・ 神社の近くなどに美味しいものがたくさんある。
- ・ 川崎街道・・・・・・ 夜になると車のライトがピカピカ光ってきれい。
- ・ 公園がいっぱい・・ 友達とたくさん遊べる。
自然もあるのでその中で遊べるのがいい。
- ・ 人と自然・・・・・・・・ 自然を大切にしながら人も住みやすい街だから。
- ・ 人間・・・・・・・・・・ 周りのみんなは優しいし、困ったときには助けてくれる。
- ・ やさしさ・・・・・・・・ 東日本大震災のがれき処理を引き受けた時に速やかに行えたから。

5. 成果と課題

成果

- 郷土資料を扱うことで、今まで表面上の知識としてしかなかった自然や歴史的文化財など、日野市が大切にしているものをより意識し、守りたいよさとしてとらえることができた。
- それだけでなく、身の回りや普段の生活の中で当たり前になっている、自分たちのため、市民のためになっているものに目を向けることができた。特に、自然を是とし、都市化を否とするステレオタイプのイメージから抜け出し、「街道」や「公園」をよさと考える児童が出たことは授業を行った成果といえる。
- 日野市のよさとしてはやや的外れになりかねないが、「人」「やさしさ」をよさとしてとらえる児童もいた。抽象的であったり、個人的であったりするが、身近な人、ものからよさを感じ、誇りに思えることは大切なことだと考える。児童の立場からするとこれも郷土愛の一つととらえたい。
- 郷土に根ざした人物を扱うことで、自分たちの街のことを説得力を感じながら読み、考えることができた。

課題

- 導入、読み物資料として郷土に根ざした人物を扱ったが、さらにその人物に迫ることのできる教材の開発もできるのではないかと考える。
- 読み物資料のみで考えさせると、日野に対する基本的な知識の多少で、最後の児童の考えの発想が左右されてしまう。日頃から郷土に対する学習をしていく必要がある。
- 読み物資料の中に、もう少し児童が考える場面や予想する場面を盛り込んでもよかった。展開の部分が若干文章の読み取りになってしまったので、日野の街の変化と小島氏のよさのとらえ方に対する驚きや発見を感じさせられなかった。

6. 参考資料

若き日の自画像 小島善太郎／著 武蔵野書房 2011年

巴里の微笑 小島善太郎／著 小島出版会 1992年

小島善太郎 八王子市夢美術館／編 八王子市学園都市文化ふれあい財団 2005年

洋画家小島善太郎日野市百草画荘作品に寄せて(DVD) 日野市 2010年

(萩原 農)

(10) 日野の町と戦争 「戦争から平和へ」 (第6学年 社会科)

1. 教材化の意図

本単元では、この時代を生きた人に直接聞き取る学習活動が可能である。実体験に基づく言葉は、学習の強い動機づけになる。日野市もたびたび空襲を受け、28名の死者を出し、24戸が全壊した。仲田小学校の多くの児童が住むニューロシティの近くには空襲で亡くなった人々を供養する延命地蔵があり、現在幼稚園のある欣浄寺は品川区の学校の疎開先として使われたという経緯がある。また6年生の児童が5年生の時に見学した日野自動車の工場は戦時中に軍需工場として使われているなど戦争にかかわる場所が多く存在している。

そこで、戦争を経験した地域の方に質問したり、戦時中の生活や戦後の復興などについてお話を伺ったりする活動を通して戦時中への理解を深め、調べ活動のきっかけとしたい。戦争当時の様子を体験者から直接聞く活動は経験が言葉・表情から直に伝わり、子供たちの心に響き、また子供たちの疑問に直接応えてもらえるため、自分の認識を多面的に考えたり、新しく意味づけしたりできる。自分自身が「当時、その場にいたら自分はどう思い、どう受け止めたのだろうか」と自分に振り返って切実に問題をとらえることができ、より問題意識をもって追究できるようにしていく。そういった経験を通して学んだことを生かし、戦中、戦後をテーマに調べ活動を行って歴史新聞を作るようにしたい。

また、本単元の学習内容は、立場や判断基準によって同じことがらに対する評価が分かれるものも多い。個人の体験などの具体的事実を尊重するとともに、その背景として、日本全体はどうだったのかという視点ももちながら歴史をとらえていく視点を育てることも必要である。

2. 指導計画

第6学年 社会科 「戦争と人々の暮らし」

(1) 単元のねらい

アジア・太平洋に広がって行われた戦争について調べ、戦争拡大の経緯や国民生活の様子、国内外の被害などについて理解を深めさせる。

戦後の諸改革や日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、日本の国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たすようになってきたことを理解させる。

戦時中の暮らしや戦後の生活についてのお話を伺い、戦争被害の悲惨さや戦争直後の生活の大変さを理解する。

(2) 単元指導計画(全8時間)

時数	主な学習活動と内容	備考
1	戦争に関する写真紹介 日野であった空襲に関する写真を提示し、戦争が日野にどのような影響を与えたか考える。	東町の延命地蔵と南平の八坂神社の鳥居の画像を見せ、戦争を身近に感じられるようにする。
2	戦争体験談を聞く① 実際に日野で空襲にあった方の話を聞く。	空襲体験者から話を聞き、一般市民も被害を受けたことや戦時中の暮らしについて知る。

3	戦争と国民生活の変化 - 戦争が長引く中で人々の暮らしがどのように変わっていったかとらえる。 ●現第三小学校に高射砲があった。アメリカ機を何機か落としたという証言がある。	戦争中の人々の暮らしの様子を調べ、戦争によって暮らしや社会がどのように変化していったかについて考えを深めることができるようにする。
4	子供たちと戦争 - 戦争中の子供たちの様子から、当時の社会の状況について考える。 ●次の寺院は学童疎開の場となった。 大昌寺、宝泉寺、欣浄寺、善生寺敷地内の日野国民学校豊田分教場旧校舎、浅川岸の安田氏別荘、高幡山金剛寺、寿徳寺 ●当時、子供が珍しがって不発弾やかけらなどを集め危険だった。不発照明弾のパラシュートの紐を子供が引っ張ったため、着火して爆発したという話がある。	戦時中の子供たちの暮らしの様子を調べ、子供と戦争の関係について考えを深めることができるようにする。
5	おそいかかる空襲 - 空襲の様子の写真を読み取り、日本各地での空襲による被害について調べる。 ●東町の延命地蔵。現在 日野のニューロシティ南交流センター付近にある。昭和20年4月4日の空襲でなくなった人々を供養するために建立された地蔵尊。 ●南平の八坂神社の鳥居には、爆弾の破片によってえぐられた跡がある。昭和20年4月4日の空襲の時のもの。 ●日野市では 昭和20（1945）年2月17日、4月4日、7月8日、8月1～2日の4回空襲があった。このうち、4月4日の空襲では、東町（立日橋付近）で13名の犠牲が出ている。	- 空襲の広がりや、それを今に伝える各地の遺跡を調べることを通して、戦争によって国民が受けた被害の大きさを理解することができるようにする。 ●現物の写真を表示し、現在その場所がどんなどころにあるかわかるようにする。
6	沖縄・広島・長崎、そして敗戦 - 敗戦にいたる経過を確認する。 ●昭和20（1945）年の沖縄や広島・長崎の被害の様子について調べる。	沖縄戦や広島・長崎への原爆投下、敗戦にいたる経緯などを調べ、戦争で人々が受けた被害の大きさに気づき、この戦争に対する考え方を深めることができるようにする。

7	戦争体験談を聞く② - 戦争中の暮らしの大変さや、どんなものを食べていたのか、また、戦後の暮らしについてどんなことが変わったかなど、生活面について話を聞く。 - 終戦直後の生活の大変さについて話していただく。	- Q&A 方式にする。 - 戦時下の暮らしや、戦後の様子などについて理解しながら聞く。 - 疑問に思ったことなどについて質問する。
8	歴史新聞づくり - 学習したことを新聞にまとめる。 - 完成した新聞をお互いに読み合い、感想を交流する。	- 新聞づくりを通して、学習したり興味をもったりした歴史上の題材を調べ、わかったことや考えたことなどを自分の考えも入れながら表現することができるようにする。 - インタビューで分かったことを自分で調べた内容と関連させてまとめられるようにする。

3. 本時の指導

(1) ねらい

戦争体験者の話を聞き、戦争中の暮らしの大変さや、空襲の恐ろしさに気付く。

	学習活動	○支援 △評価
導入	1 戦争体験者の紹介をする。 山下さん 小学生の頃に日中戦争がはじまり、徴兵された父を亡くす。その後、太平洋戦争では日野空襲を受け、家族で防空壕に逃げ込んだ経験をもつ。	△地域の人や歴史に興味をもって関わることができたか。 ○これまで学習してきた戦時中の暮らしから当時の子供たちがどんな気持ちで生活していたか、事前にワークシートに記入させておく。
展開	2 実際にこの空襲を体験した方に、話を聞く。 日野で実際に空襲にあった方から話を聞き、戦争というものが身近に起こる事象であることを感じさせる。	○メモを取りながら聞くようにさせる。 △戦時中の生活の事実や歴史的事実を関連づけて、暮らしていた人々の当時の気持ちを考えることができたか。
まとめ	3 本時の学習内容の感想や考えをまとめ、発表する。	○お礼の気持ちを表して終わるようにする。

4. 活動の様子

① お話の様子



第一回目のお話では戦時中の経験について伺った。日野の空襲は立川の飛行場を狙ったものが、投下場所がずれて攻撃を受けたという話や、当時の日野には数える程度しか家がなかったという話、小学校の数も少なく、児童数が多かったという話など当時を知っている方ならではの話を聞くことができた。その中で、仲田小のある場所が桑畑であったこと、昔の甲州街道が通っていたルートのこと、日野が宿場町であったことなど色々な余談があった。

後半には校長先生の質問に答えていただく時間を取り、子供たちはメモを取りながら話に聞き入った。戦争中の暮らしの大変さや空襲の恐ろしさがどんなものであったかを思い知ったようであった。

② 導入で見せた写真



延命地蔵（東町）



八坂神社の鳥居（南平）

授業の中で東町の延命地蔵と南平の八坂神社の鳥居の画像を見せた。特に延命地蔵は通学路上にあることもあり、児童の関心が高かった。ただ、空襲で亡くなった人々を供養する目的で建てられたことまで知っている児童はいなかった。鳥居の傷はその日の空襲の傷跡であることも伝え、空襲が広範囲で行われたことに気付く児童も見られた。

③ 2回目のお話での Q&A

Q 戦後、生活で苦しかったことはどんなことか。

A とにかく食べ物がなかった。寒さ暑さは我慢できても空腹は我慢できない。

Q 食べものはどうやって手に入れたのか。

A 仲田の養蚕試験場の倉庫を軍が食糧置き場に使っていたので、その残りを分配したことがあった。
魚なども釣って食べていた。

Q 戦後のお金がない時は物々交換をしていたか、その時一番欲しかったものは何か。

A 物々交換はみんなしていた。とにかく食べ物が欲しかった。

Q 戦後、家族がいなかった子供はどうしたのか。

A 両親を亡くした子供は親戚の家で預かれることが多かったが、肩身が狭かった。

Q お金はどうやって稼いでいたか

A 着ているものを売ったり、ふとんを売ったりして稼いだ。立川に闇市があった。

Q 戦後、日野は戦前よりもどんなところが変わったのか。

A 畑や田んぼが少なくなって建物が増えた。

Q 家はどのように建てたのか。

A 空襲で壊れた家は廃材などを集めて修復した。

Q 衣服はどうしていたか

A あるものを着ていた。暑さや寒さは我慢した。

Q 戦後、アメリカ兵は駐留していたか。何かものをもらったか。

A アメリカ兵は立川によくいた。英語を習っていたので話していろいろなものをもらった。

Q 戦争が終わり平和になった実感はあったか。

A 空襲警報が鳴らないので、安心して暮らすことができた。

Q 死んでしまった人を見たことがあるか。それはどんな感じだったか。

A 空襲の爆弾が直撃して飛散した人間の腕が木にぶら下がっているのを見たことがある。
子供心に怖かった。

Q 戦後、学校にはいつから通ったのか

A わりとすぐに始まった。1か月ほどで始まった。

Q 戦後はどんな遊びをしていたか。

A 魚釣りや栗拾いなど、食べ物の調達を遊び代わりにしていた。

Q 義務教育が小学校6年、中学校3年になった時の気持ちはどうだったか。

A 今までの学校制度とまるで違うので最初は戸惑ったが、そのうち慣れた。

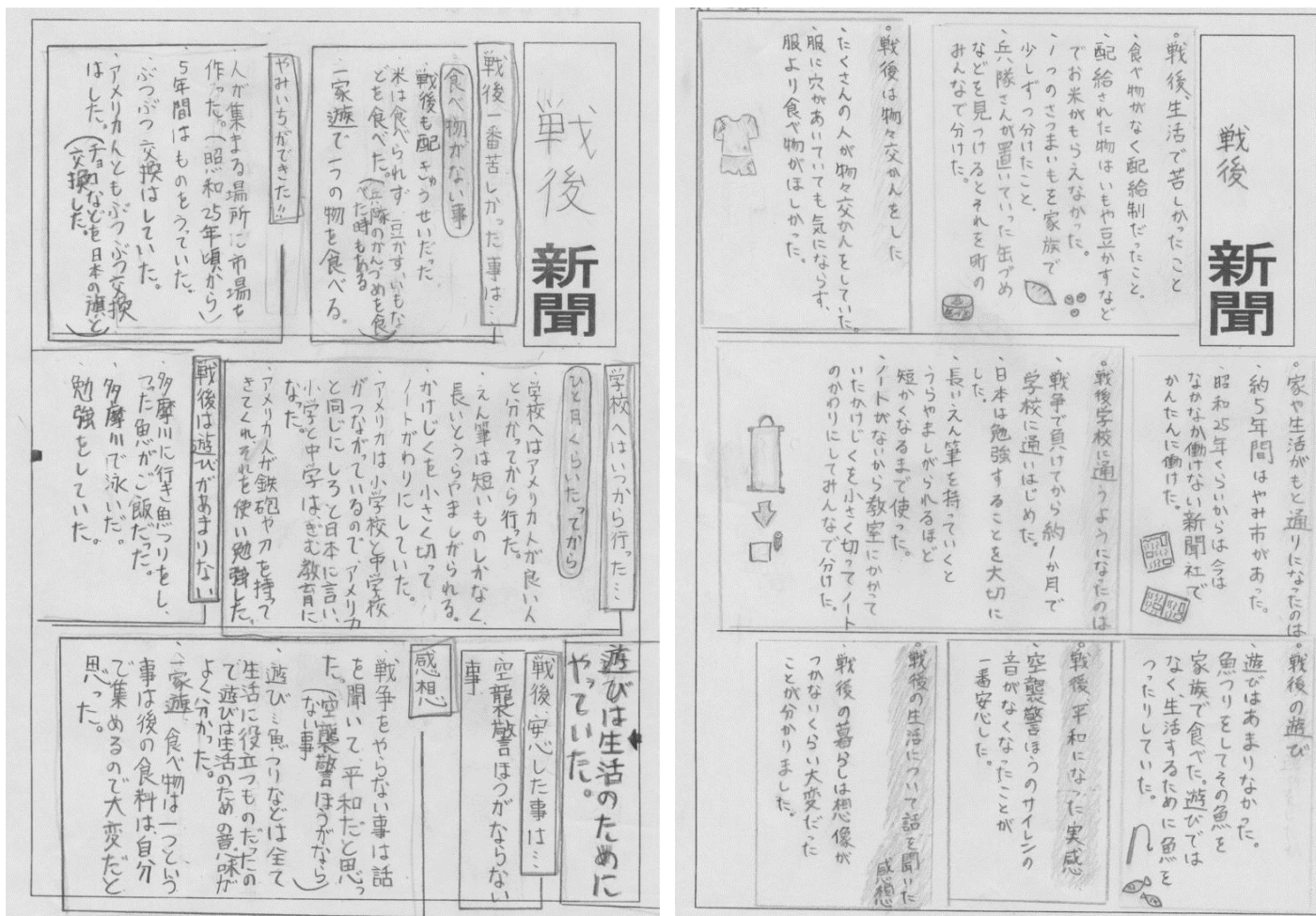
Q 日野は戦争が終わってから復興するまでに、どれくらいの期間がかかったのか、
またどのように行われたのか。

A 政府が復興を掲げていろいろな事業を行った。戦後20年が経つ前にオリンピックが行われるまでに
なった。

Q 終戦後は生活が洋風になったと聞くと、具体的にどんなところが変わったのか。

A 箸だけでなくスプーンやフォークが食卓に登場するようになった。

④ 完成した新聞



どの新聞からも食糧難による戦後の苦しさやそれを解決するために闇市や物々交換があったこと、子供の遊びも食料調達目的のものが多かったこと、学校がすぐに始まったことが書かれていた。また、感想からは戦後の食糧難の大変さから、「現在の生活がどれだけ恵まれているのかわかった」「平和の大切さを思い知った」という意見が目立った。

5. 成果と課題

実際の授業では導入の最初に戦争体験の話を書く活動を入れていたが、日野に残る戦争の傷跡の写真をまず初めに見せた方が効果的な指導法であった。戦争を地域と結び付けて紹介することで身近に感じさせ、当時日野に住んでいた人々はどんな生活を送っていたのかという疑問をもたせた上で戦争体験の話を書かせることで、より関心をもって取り組むことができたのではないかと考える。

また、子供たちの聞きたい話と戦争体験者の話が乖離してしまうことがあった。そのため、事前に子供たちから聞きたい話を募り、それを教員側で精査してどんな話をしていただくか事前に打ち合わせをしておくべきであった。

子供たちは戦争について、戦地での戦いや、空襲の被害、広島と長崎の原子爆弾投下といった戦争の直接的な被害については本などで読んで知っていることが多かった。しかし、戦争が終わった後もその傷跡はすぐに癒えることはなく、残された人々にはまだまだ苦しい生活を送らなければならなかったことは今回の戦争体験の話で初めて知った子がほとんどであった。これは伝聞ではなかなか得られない、直接的な体験の話から得られる貴重な情報を得ることができたあかしであると考える。

(森田誠司)

2. 新たに収集・開発した郷土資料・教材

(1) 防災教育と郷土資料

1. 郷土教育と防災教育

平成23年3月11日の東日本大震災の後、子供たちの防災意識を高め、自分や地域の安全なくらしについて探究する学習が重視されている。防災教育は安全教育の一環として安全指導の時間のほか、社会科・理科等の教科・道徳・総合的な学習の時間に実施されている。防災教育を通して「危険予知能力」「危険回避能力」「自分の命を守り抜く主体的に行動する態度」を育成しなければならない。防災教育に郷土教材を活用すると「防災意識」を高め、「地域社会の一員」としての自覚と実践力を育成することができると考える。教師自身も地域の歴史・地理への理解を深め、どの教科等のどの単元で郷土教材を活用すると学習効果が高まるのか、年間指導計画へどう位置づけるのか準備を進める必要がある。郷土防災資料として小・中学校で学習効果が期待できる資料を掲載する。教材化し活用されることを願っている。

2. 防災教育に活用できる郷土教材の発掘

① 四谷のウナギ伝説

私が東光寺小学校に着任して初めて台風の接近を体験した時のことである。学区は多摩川に面し、日野用水とその支流が張り巡らされている。早朝、あわてて雨合羽を着て自転車に飛び乗った。多摩川の堤防や用水の増水等の状況を自分の目で確かめるためである。その時、途中で出会った地域の方が「先生、心配要りませんよ、多摩川の堤防はウナギが守ってくれますから。洪水の心配はありませんよ。」と言われた。多摩川の増水時に堤防の穴にウナギが入り込み、洪水から村を守ったのである。日野宮神社の虚空蔵菩薩のお使いは「ウナギ」で、衣の袖がウナギそっくりである。ここには洪水に対する恐怖と、神仏の加護を願う村人の心が込められている。今でも四谷地区では、ウナギに感謝してウナギを食べない家が多数ある。これが旧四谷村の「ウナギ伝説」である。



(日野宮神社の虚空蔵菩薩)

② 高幡不動堂の倒壊

建武2年(1335)8月4日の台風はすさまじく、境内の大木をなぎ倒し、高幡山の丘陵上にあった不動堂も倒壊した。本尊の不動明王をはじめ多くの仏像も破損した。康永元年(1342)に金剛寺中興の祖「儀海」の尽力で、もとの地ではなく現在地に再建された。現在地より南方の丘陵上に「金剛寺旧跡公園」がある。また、公園付近の山裾の谷戸を「こんどう(金堂)谷戸」と呼んでいる。近くには「門前」と言い継がれている屋号の家があることから、ここに金剛寺の伽藍があったと考えられる。この台風で不動明王がころがり落ち、鼻をついたところにできたのが現境内にある「お鼻井戸」との伝説も残っている。



(金剛寺旧跡公園)

この台風で鎌倉の大仏殿も倒壊した。その後再建されたが、明応4年(1495)の大津波で流され、露座の大仏となってしまった。

③ 土方歳三生家流出

弘化3年(1846)の洪水で、土方歳三生家の隼人家は北田の現在地に移転した。その当時の家屋は平成2年まで残っていた。建て替えられた新家屋に、土方歳三資料館も新しくオープンした。

石田村は多摩川と浅川の合流地点にあり、川の豊かな恵みを受けるとともに、古くから洪水の被害を被ってきた。両川が氾濫すると田に大量の石が流れ込み、石の多い田「石田」となった。これが地名の由来と考えられる。石田村の洪水の記録は村絵図・川欠け絵図として残っている。現在記録されている最も大きな洪水は弘化3年のもので、土方歳三の生家も土蔵と物置が流されるなど大きな被害があり現在地へ移転した。石田村は多摩川対岸の谷保村に新田を開発し移住したので、現国立市に「石田」の地名が残っている。石田村では洪水のたびに移住が行われ、土方姓の分布から移住先を調べることもできる。石田村絵図を読み取ると、新たな発見があり、興味深く地域の歴史を掘り起こすことができる。



(土方歳三生家跡)

④ 日野の渡し渡船転覆事故

弘化3年(1846)の洪水で土方歳三生家が流出した3日後、日野の渡しでも渡船転覆事故があった。日野の渡しは、貞享元年(1684)に甲州道中の付替えに伴い渡船場が万願寺から日野に移り日野宿の経営となった。渡船は、大正15年(1926)、日野橋の開通まで続いた。大雨で多摩川出水の際には、年寄りの判断で「川留」をし、水が引くと「川明」とした。川留になると旅人は足止めとなる。そこで、日野宿には天保14年(1843)当時20軒の旅籠があった。

渡船転覆事故は、川明となった7月3日(旧暦)に起こった。当日は朝から8度目、日野からの下り(江戸方面)の渡船時に南東の風が急に吹き、船が転覆した。多人数の溺死者を出し、公用の御用状も流出した。乗合人数は33人程と陳述があったが明確に把握していなかった。被災者名簿には、日野宿6人、柴崎村1人、石田新田1人、砂川村1人等の記載があるが乗船者数とは合わない。日野宿の責任者には処分が出されている。当時は人命よりも公儀第一であったことがわかる。

⑤ 平山砂層と液状化現象

日野市の公園は、昔の地名、伝説、地形等から命名され、親しみのある名称が付けられている。そのため、公園名が地域の昔を調べる郷土教材として活用されることが多い。南平に「砂層公園」があり、昭和40年代まで見上げるような砂層の崖がそびえていた。この砂層は「平山砂層」と呼ばれ多摩丘陵を形づくる地質学会の模式地となっている。公園名から日野市の多摩丘陵は、海底で堆積した地層が隆起してできたことがわかる。砂層公園の北東方向に「田中こども広場」がある。広場の南には平山砂層の露頭が見られ、その地層をよく観察すると液状化現象の痕跡が見られる。東日本大震災で浦安のディズニーランドも液状化現象で一時閉鎖された。その液状化現象の痕跡が日野市の地層で観察できる。この地層は160万年ほど前に堆積したもので、日野第七小学校6年生が理科学習に活用している。日野市郷土資料館では、学校で教材として活用できるよう、地層の剥ぎ取り標本作製した。地層標本を活用した出張授業も可能である。



(液状化現象の痕跡)

※参考文献

- | | | |
|--------|---------------------------|------------|
| ・昭和53年 | 「日野市史資料集 近世Ⅰ 交通編 | 日野市史編さん委員会 |
| ・平成19年 | 「村絵図を楽しむ2ー南平・程久保(2) | 日野市郷土資料館 |
| ・平成22年 | 「村絵図を楽しむ5ー石田・上田一」 | 日野市郷土資料館 |
| ・平成23年 | 「伝承・わが街の歴史Ⅱー南平の昔」 | 清水守男 |
| ・平成24年 | 「日野市旧桑田村の地名」今尾恵介監修 | 日野の昭和史を綴る会 |
| ・平成24年 | 「郷土資料館古文書学講座 第4回」上野さだ子氏資料 | 日野市郷土資料館 |

(小杉博司)

(2)「みぞそば」と石田散薬

1、教材化の意図

みぞそばは田んぼの畦やコンクリート護岸化されていない用水路わき、川原等の日あたりのよい湿地にはえる一年草の植物で、夏の終わりから秋にかけては、密集して咲いている薄紅色の小さなかわいい花を見ることができます。“そば”に似た果実ができるのでこの名前がついたといわれています。一方、葉っぱが三角ような縦型で牛の顔に似ていることから、牛の額とか、牛革草と呼ばれています。

かつて、日野は“江戸の米蔵”と言われていたように多摩川と浅川に囲まれた沖積地には稲作地帯が広がり、用水路が発達していました。しかし、昭和40年頃以降になると、幹線を残し、支線の多くは埋められていきました。幹線と支線を合わせた用水路の総距離は、今では半分ぐらいになってしまいましたが、身近に流れる素掘りの用水路を注意して見ると、みぞそばと出会います。

全国どこにもあるみぞそばですが、このみぞそばの葉を採集し、切り傷、打ち身、捻挫等に良く効く散薬として製造したのが、日野の石田に代々続く土方歳三の生家でした。この散薬は多摩地域を中心に広範囲にわたって知られていました。

「石田散薬」の起源については、多摩川の深淵に住む河童明神から伝授されたと伝えられています。(宝永年間1704～1710の頃、悪戯をする河童を土方家の当主が懲らしめたところ、そのお詫びに薬の製法を伝えたそうです)が、土方家は代々漢方医をしていますので、製法は土方家が作りだしたものと考えられています。この散薬はお酒で服用すると捻挫、打ち身には特によく効いたということです。若い頃の歳三は家伝の「石田散薬」を背負って、多摩地区、相模、長野の方まで売り歩き、生家(歳三の兄・喜六)を助けていました。みぞそば採集の時期には石田村中の人々が動員されるのですが、兄に代わって採集する人たちの指揮にあたった歳三の指揮ぶり、統率力はこの頃から人目を引くほどであったと伝えられています。

土方歳三は28歳の文久3年、近藤勇等と将軍警護のために京都に上り、やがて新選組を結成し、京都の治安を守り、そして最後まで将軍徳川家のために新政府軍と戦い、函館においてその一生を遂げた人ですが、「石田散薬」は京都の新選組の間でも使われていました。

明治の時代になると、新政府は諸外国同様に薬の製造販売をこれまでと違って許可制にしました。石田散薬の効能の証として「陸軍軍医総監松本良順が之を試用しその効験の卓越なることを認めた」とあり、近代化は“河童明神の秘伝”だけでは薬としての信用できる証にはならず、科学的な実証が求められる時代を迎えたことがわかります。

このように、みぞそばは、日野の自然、用水や水田、石田散薬と土方歳三・新選組といったように、「ふるさと日野」の昔のようすや、その変遷を私たちに語りかけているように見えてきます。

そこで、近くに見られるみぞそばが、私たちに何を語りかけているかを考える教材としてとりあげてみたいです。また、みぞそばを観察、採集し、石田散薬を作る体験学習を子供たちに是非、経験させたいです。

2、指導計画例

第2学年 生活科 単元名 「学校のまわりの用水を探検しよう」＜12時間＞

（1）単元目標

用水探検をととして、生き物が住むところや植物の育つ場所、成長の様子や変化に気づき、成長する生命のエネルギーに関心をもち、生き物や植物に親しみ、大切にすることができるようにする。

用水関係・生き物や植物の生育にかかわる身近な人々とのふれあい活動をととして、人とかかわることの楽しさを知り、進んで交流することができるようにする。

（2）指導計画 （12時間）

過程	学習活動	指導事項	備考
課題把握	1、ビオトープや用水探検の計画づくり。(1時間) 2、探検をして見つけたことを言葉や絵で書き表わそう。(1時間)	・用水路のあるところ ・水の中の生き物や植物 ・水辺の生き物や植物 ・水の中の様子・水辺の様子 生き物や植物の名前 用水の周りの様子や水流 ・ミゾソバが薬に使われたこと	・学校周辺の地図 ・用水遊びを想起する ・名前がわからないのは後で調べる
追究	3、水辺に生えているミゾソバのことを詳しく勉強しよう。(1時間) (活動の4、5、で計5時間) 4、ミゾソバから石田散薬を作ろう。 作り方を教わり、作業の計画を立てる。 5、用水探検から、成長や変化を観察する。	・日野市のミゾソバが知られているわけ ・ミゾソバが薬として使われていた頃の話 ・日野市石田の土方家と多摩川の河童明神の教え ・刈り入れ→干す→煎る→薬研を使って粉末に→薬包紙に包むまで ・1回目に観察した対象物の変化の様子	・用水関係者の話 ・板書 「みぞそば」と石田散薬 ・散薬作りはみぞそばの成長を見て、その時期を決める ・郷土資料館との連携
まとめ	5、学習したことをまとめ、発表する。(2、5時間) 6、ミゾソバを来年の2年生に引き継ぐための相談をする。(0、5時間)	・用水にいる生き物や植物の変化 ・ミゾソバと石田散薬 ・種、育て方、散薬の作り方を引き継ぐための方法	・学習の過程で指導を受けた地域の方々を招待する

3、資料

(1) みぞそばについて

改定増補 牧野新日本植物図鑑より

溝や水辺に群がってはえるたで科の一年草

花……枝先に集まり、10個前後の小花がつきます。花びらのように見える“がく”は、五裂し、長さは4~8mm。おしべ8本、めしべ3本が集まって1本になっています。果実はがくにつつまれ卵形（3稜形・深褐色）

葉……互生で柄があります。 茎……高さは30~50cm。 花期……8~10月。

(2) 貝原益軒の「大和本草」で示されたみぞそばの効能

貝原益軒は宝永6年(1709)に刊行した「大和本草」に次のように薬草としての効能を書いています。

牛面草 和俗ノ名ナリ 又 溝ソバトイウ 水辺ニ生ス 牛ノ額ト云ウ <略>

葉ヲ生ニテスリテ血ヲ止ム（止血作用がある）<略>

(3) 石田散薬の作り方

①「日野市史別巻「市史余話」には次のように書かれています。

“8月の丑の日にみぞそば刈り入れ

陰干しで乾燥・貯蔵 → 必要に応じてハウロクで黒焼き → 薬研ですりつぶす
→ 篩にかけて細かな粉末にする”

②日野市郷土資料館では石田散薬作りの講座開催、出前授業を行っています。

(4) 薬の販売規制の歩み（平成19年度ひの市民大学講座より）

講演 テーマ「元気の出る日野の歴史ー病と薬の歴史散歩ー」 講師 山口久夫氏

江戸時代 免許なし

明治6年 売薬取締規則

官許のもと、従来の家伝・秘方等の売薬は一切禁止となりました。
しかし、科学的根拠のあるものを売るといふ規則は当時の
実状にあわず1年半で廃止になりました。

明治10年 売薬規則

売薬とは 丸薬、膏薬、煉薬、水薬、散薬、煎薬をいいます。
家伝の秘方で製造し販売する売薬営業者に免許鑑札を交付。

明治16年 売薬印紙税導入

売薬の定価に1割の売薬印紙税の義務化
売薬など害にさえならなければあってもいいが、なくとも一向に構わない
という、政府には売薬に対する無効無害主義の立場があった。

明治22年 薬品営業並薬品取扱規則

薬舗・薬舗主を薬局・薬剤師と改称

参考資料

<日野市史>

<「日野周辺歴史散歩」田中利男、山口久夫>

<ひの市民大学講座「元気の出る日野の歴史」>

(吉野美智子)

3. 関係機関との連携・協力の広がり・深まり

(1) 新選組のふるさと歴史館「周年事業と郷土教育」

はじめに

平成 25 年は、日野市や、私たちが暮らす地域とかかわりが深い事物にとって、節目の年である。市制施行 50 年はもとより、京王の電車・バス開業 100 年、新選組誕生 150 年、さらには明治 26 年(1893 年)に三多摩地区が神奈川県から東京府に編入されてから 120 年目であり、学制発布と共に明治 6 年(1873 年)開校した小学校は創立 140 年を迎える。また、昭和 18 年(1943 年)東京都政が敷かれてから 70 年目でもある。

これら節目の年を迎え、関連の団体・施設等では各種の周年記念事業が行われることと予想されるが、それらは子供たちの郷土への関心を高める動機付けになるのではないかとと思われる。そこで本稿では、現時点(平成 25 年 3 月)で明らかになっている日野市に関連した各種周年行事を紹介しながら、それらを郷土教育に活用する可能性について述べてみたい。

1. 市制施行 50 年

昭和 38 年(1963 年)11 月 3 日に日野市が市制を施行してから、今年で 50 年を迎える。日野市では 11 月の記念行事をはじめ、関連した数々の事業を行うが、郷土教育に関連が深い行事としては、郷土資料館を中心に、生涯学習課、新選組のふるさと歴史館が連携した体制で開催する、市制 50 年の歩みをテーマとした特別展がある。

平成 24 年には市制 50 年の前年ということで、明治維新から終戦までの日野市の歩みを辿る特別展を開催した。この展示では行政・教育・生活の変遷、自由民権運動と殖産振興、甲武鉄道の開業、京王線の開通、工場誘致、戦争の時代といった事項を展示し、好評を得た。

平成 25 年度の特別展は、これに続く終戦直後から現在(そして未来)の日野市の移り変わりを展示するもので、工業都市としての発展と多摩平団地の建設、および行楽地から住宅地への七生丘陵の変貌が大きな柱となる。日野市誕生から 50 年という、現在の暮らしと直結したテーマであるだけに、子供たちに身近な題材も多く、郷土への理解を深める恰好の機会である。また往時を物語る実物の資料を間近で見ることができる機会でもある。

内容の詳細は郷土資料館等から改めてお知らせすることになるが、学校からの要望に応じて、展示解説、出張授業なども行いたいと考えている。郷土教育の場での活用を期待したい。

なお、特別展は市内数か所を会場として行う予定だが、それらを集大成した展示は、新選組のふるさと歴史館を会場として平成 25 年 10 月中旬から 12 月中旬まで開催する。



平成 24 年度の特別展「日野の明治・大正・昭和～いま振り返る日野の近代～」

2. 京王の電車・バス開業 100 周年

大正 2 年(1913 年)に京王電気軌道が笹塚～調布間で電車の営業を、新宿～笹塚間と調布～国分寺間でバスの営業を始めてから、平成 25 年で 100 年になる。日野市を走る京王線の開業は玉南鉄道として府中～東八王子(現京王八王子)間が開通した大正 14 年(1925 年)まで待たねばならないが、身近な交通機関であるだけに、郷土への関心を高める動機付けになるのではないだろうか。

京王グループでは、営業開始 100 周年を記念して各種の事業を実施することが既に発表されている(京王グループ HP ニュースリリース 平成 24 年 12 月 20 日掲載)。その一つとして、多摩動物公園駅前に新しい「京王れーるランド」が開業する。鉄道運転体験シミュレーター、車掌体験、展示コーナーなどが設けられ、屋外では鉄道車両の展示も行われるという。高いアミューズメント性も兼ね備えた施設になるようだが、それ故に話題・関心を惹くのではないだろうか。また、秋には開業 100 周年記念冊子が発行されるという。これは「写真で見る京王沿線の歴史」、「各駅の今昔を写真で紹介」、「京王の電車・バス 100 年トピックス」などで構成されるとのことであり、郷土教育の資料として、十分活用できる内容かと思われる。

昨年の事例報告集でも触れたが、京王線や七生丘陵は、郷土学習の題材としていくつもの切り口を持っている。例えば「なぜ多摩動物公園は日野市にあるのか?」、また「なぜ夢が丘小学校や七生緑小学校は七生丘陵にできたのか」といった素朴な疑問も、京王線を切り口とすることで、より広い視点からの理解がしやすくなる。

大正 14 年の玉南鉄道の開通を契機に、七生村は京王との協力関係の中で、村内の観光開発に取り組んでいった。殊に高幡不動から平山へと続く七生丘陵のハイキングコースは戦前から京王沿線を代表する行楽地として賑わい、沿道には平山城址公園などが作られた。多摩動物公園の開園は、そうした七生村の観光開発の流れの中にある。

しかし昭和 40 年代から、七生丘陵は東京のスプロール現象の波に吞まれ、ハイキングコース沿道での宅地開発がはじまり、京王線を利用して都心への通勤・通学の便が良い七生丘陵は、緑豊かな住宅地へとその姿を変えて行く。このような行楽地から住宅地への変貌の中で、そこに暮らす子供たちが通う小・中学校が創立した。さらに言えば、それらの学校が統合されて夢が丘小学校と七生緑小学校になった理由を探ることは、現代の地域の在り様を知る題材となり得る。

京王線の一つの軸とすることで、七生地区の過去と現在を大きな流れの中で理解することができよう。京王の電車・バスを単なる民間企業の周年イベントにとらえるのではなく、そこからは発信される情報からシナリオを組み立てることで、子供たちにとってより身近な郷土学習が可能になるのではないだろうか。

3. 新選組誕生 150 年

平成 25 年は新選組誕生 150 年の年とされる。新選組の母体である浪士組が上洛したのは文久 3 年(1863 年)2 月であった。その浪士組の大半が攘夷実行のため江戸に戻り、残った近藤勇ら 20 余名が会津藩預かりとなり壬生浪士組と呼ばれたのがその年の 3 月。そして八月十八日の政変の功により「新選組」の隊名が与えられた。

この節目の年にあたって、筆者が所属する新選組のふるさと歴史館には、既に特集雑誌等への協力依頼がすでに何件か届いている。新選組にゆかりがある各地でも種々の催しがあると聞く。またテレビ等の歴史番組で取り上げられることも予想され、新選組誕生にちなんだものではないが NHK 大河ドラマ「八重の桜」にも新選組が登場する。新選組に関する話題が何かと多い本年

は、郷土学習の窓口として新選組を取り上げるのに良い機会ではないかと思われる。

新選組誕生 150 年にちなんで、本稿では新選組のふるさと歴史館が開催する特別展「新選組誕生と清河八郎（仮題）」（会期：平成 25 年 7 月 13 日～9 月 23 日）について紹介する。

タイトルにある清河八郎は庄内出身の尊攘の志士で、幕府へ浪士組の取り立てを提案し、文久 3 年に浪士組を率いて上洛した。新選組誕生に深くかかわるだけでなく、幕末期の政治・社会の動向を理解するうえでも重要な人物である。特別展では、この清河八郎に関する資料を通して幕末の政治・社会の動きに触れながら、新選組の誕生とその“ふるさと”である日野とのかかわりを紹介する。

郷土教育の題材として新選組を扱う場合、その事績だけを取り上げると、“郷土の先人について学ぶ”ことだけで終わってしまうかもしれない。しかし、なぜ新選組が日野から生まれたのかを、地域に視点を向けて考えてみると、そこから日野の地域性が見えてくるのではないだろうか。

新選組誕生の背景としては、日野市域が幕府領・旗本領であり幕府への親しみが強かったこと、経済的に豊かだったこと、江戸との交流が密だったことなどが挙げられよう。

多摩川と浅川の合流点に沖積地が広がる日野は、多摩地域でも有数の稲作地帯であり、江戸に近く甲州街道などを介して江戸からの情報も多くもたらされていたが、その一方で江戸や他の城下町のような武士の重圧が少なかった。このためいわゆる豪農や中間層の農民は比較的裕福で、時局に敏感であり、また俳諧、和歌、華道などを通して自己を表現することも盛んであった。中でも剣術は武士のみならず農民や町民も学ぶスポーツの一つになっており、幕末期に八王子千人同心の間で流行した天然理心流は、日野でも入門者が多かった。

このような土壌の中で、佐藤彦五郎（日野本郷名主兼日野宿問屋役）は江戸から出稽古に訪れる近藤勇らを自宅の道場に迎えた。そこに土方歳三や井上源三郎らが集い、やがて彼らは日野という地域から見た尽忠報国の想いと士分取り立ての夢を抱いて浪士組に加わり上洛していった。また佐藤彦五郎をはじめとする豪農たちは、上洛した彼らを物心両面から支援した。

新選組誕生の背景にある日野の豪農や中間層の人たちには、“江戸時代は武士の時代で、農民は貧しかった”といった認識は当てはまらない。豊かな文化を担い、社会情勢を的確に把握し、国の未来のために行動しようとする姿を見てとることができよう。

新選組のふるさと歴史館では、平成 25 年度の特別展や常設展で、新選組に関する様々な資料を展示している。それらを子供たちだけで理解するにはやや難しい面があるかもしれないが、展示解説や出張授業などによって、子供たちの理解のお手伝いをしたいと考えている。

おわりに

市制施行 50 周年、新選組誕生 150 年、京王の電車・バス 100 年など、各種の周年行事が行われる平成 25 年は、日常暮らしている日野市や、日野市と関わり深い事物に関心进行ける絶好の機会である。郷土資料館、生涯学習課、新選組のふるさと歴史館、図書館等では、出張授業や展示解説、資料の提供などを行う用意があるが、さらに指導計画立案の段階からご相談いただければ、先生方との共同作業の中で、一歩踏み込んだ学習のツールを見つけられるかもしれない。

各種の周年事業が行われるこの機会を郷土教育に活かすことを期待するとともに、学校との連携の中でそのお手伝いをさせていただきたいと願っている。

（金野啓史）

（２）郷土資料館「資料館を小学校教育に活かす」

日野市郷土資料館は前身のふるさと博物館時代から、様々な形で学校教育に協力してきた。その実践は折にふれて過去の「『郷土日野』指導事例」などでも紹介してきた。しかし、どのような形で協力しているのか、どのような手続きが必要なのかについては、教員の異動などもあり、かならずしもすべての市内学校現場・教員に周知されているとは言い難い。また、資料館も実践を積み重ね、内容を刷新したりもしている。そのため、最新の情報を、ここでは小学校に限定してまとめておきたい。

カテゴリー	校数
火起こし体験	3校
市内見学の一環での団体見学	4校
脱穀体験	3校
石田散薬作り	1校2回
郷土史授業	2校
図画工作（縄文土器の教材化）	1校2回
古い道具と昔の暮らし（出張授業）	8校
古い道具と昔の暮らし（団体見学）	6校（帝京小学校含む）
資料貸し出し	5校

表 1. 平成 24 年度の小学校利用実績

1. 基本理念

日野市郷土資料館は、郷土日野に関わる各種資料（歴史・考古・民俗・自然）や情報を収集している。郷土資料館が学校教育との連携の中で重視したいのは、実物資料（モノ）を活用することであり、それも視覚的観察にとどまらず、実際に触れてみるなど、可能な限り五感でモノと向かい合う機会を提供したいということだ。あるいは頭で理解するのではなく、体を動かして体験するということである。モノや体験をとおして学習意欲や学習動機の強化につながればよいと考えている。

2. 資料館利用のための手続き

団体見学、出張授業・資料貸し出し問わず、現在は担当教員から郷土資料館への電話による依頼で受け付けることとしている。準備の都合もあり予約は2週間以上前をお願いしたい。細かい内容について直前にもう一度電話で打ち合わせている。日時や内容の詳細が確定すれば、学校長から資料館長あてに文書を提出していただくが、書式は学校の自由である。

団体見学時にバスで来館する場合、また、教育センター内の体育館等で昼食を取る場合には、別途、教育センター事務長宛、イントラネットでの申請が必要である。

なお、教育センターと資料館とは電話番号が異なるので、この点は注意が必要。

現在、資料館と市内学校とはイントラネットで接続されていないため、情報のやり取りはアナログ的手法に頼らざるを得ないが、接続された場合にはかなり利便性が向上すると期待される。

3. 団体見学と出張授業・資料貸し出し

協力形態としては団体見学と、資料館から職員なり資料なりが学校やフィールドへ出かける出張授業、資料貸し出しとがある。

（1）団体見学

市内施設見学の見学ルートの一つに組み込んで利用する小学校が多い。ほかの施設見学との兼ね合いで、館内見学には1時間程度しかさけない学校がほとんど。最近は各学年のクラス数も増え、3ク

ラス、4クラスとなると各コーナーを15分程度の駆け足で見て回る形となる。資料館としてはもう少し滞在時間を確保してほしいところだが、短時間でも、各コーナーに解説スタッフを配置し、丁寧に時間をかけた対応を心掛けている。

(2) 出張授業（資料貸し出し）

出張授業なり資料貸し出しについても、可能な限り、柔軟な対応を心がけている。授業であれば1クラス1時限ずつ、1校につき4時限の対応も可能である。

これまでにある程度のニーズがありすぐに貸し出しや出張授業の可能な資料やテーマについて大まかな分野ごとに列挙してみよう。（列挙したもの以外は提供できないということではない。）どのような授業に活用されているかや資料の制約等にも触れておく。

暮らしの道具

炊事道具・・・羽釜、鍋、まな板、七輪、電熱器

暖房の道具・・・火鉢、長火鉢、こたつ、猫あなか、陶製湯たんぽ、金属製湯たんぽ、かいろ

照明の道具・・・灯明皿、あんどん、燭台、がんどう、ランプ、白熱電灯

装いに関わる道具・・・洗濯板、たらい、火のし、こて、炭火アイロン、初期の電気アイロン、電気こて、洗い張りのための張り板、手回しミシン

その他・・・真空管ラジオ、初期の扇風機、黒電話、糸車

資料的制約 戦後～高度成長期にかけての資料は残念ながら、目下ほとんど所蔵していない。

農具

み、とうみ、千歯扱き、足踏み脱穀機（利用可能数はそれぞれ2セット程度）、養蚕関係の道具

資料的制約 利用に供することのできる数に限りがあり、大規模校に千歯扱きをクラス数分貸し出すといったことは難しい。

漁具

どう、ペラ網、投網、箱メガネ等

考古資料

旧石器時代～現代までの土器・石器・陶磁器・鉄製品等

ほかに火起こし道具

資料的制約等 当市においては弥生時代資料は終末期の資料がわずかに出土する程度であるため、弥生時代資料の活用は困難。それ以外の時代については完形品でも状態のよいものは手に持って観察も可能。縄文時代については、土器の破片や石器類を1クラス全員に配布して観察できるよう用意できている。

自然資料

多摩川や浅川河床採集の海棲貝化石、日野台地のローム層はぎ取り標本、南平の丘陵の海底堆積砂層のはぎ取り標本

資料的制約等 ゾウや鯨の化石は館内見学での対応。動物のはく製や昆虫標本もあるが資料保護の為、やはり館内での対応が中心となる。フィールド観察と組み合わせることも可。



図1. 肥桶をかついでみる
（団体見学時の一コマ）

その他

程久保小僧勝五郎、巽聖火・新実南吉、真慈悲寺、石田散葉などのテーマについては資料のみでなくフィールドワークや体験学習と組み合わせて立体的展開可能。

4. 出張授業の事例と課題～「暮らしの道具」をめぐる

郷土資料館が最も活用されているのは小学校3年生の「暮らしの道具」の授業である。具体的事例紹介としてこれまでの実践と今後の課題に触れておこう。

3年生の「暮らしの道具」の出張授業では、10数点の道具を学校に持っていくことが多い。島状に配した机の上に、何点かずつ道具を並べておき、最初に児童たちと用途について一点ずつ考えていく。名称や特徴などについてもわかりやすく解説する。その後、児童たちがそれぞれ興味のある道具について、自由に手に取り、手触り、重さ、デザインなど五感で味わう時間を設ける。どのような形でその結果をまとめるかは学校にまかせている。しかし、極力、資料に触れ観察することに時間を割いて欲しいと思う。興味を持てば、あとは自分たちで調べることが出来るだろうからだ。



図2. こたつを観察する

そんなわけで、これまでは、児童の理解に応じて口頭で説明し、必要に応じて板書する以外、資料解説ラベルのようなものは用意していなかった。しかし、今年度、各資料について名称や使用された時代、用途などについてまとめたラベルを用意して欲しいという依頼があった。確かにそういったワークシートを用意している学校もある。

これら生活資料についてラベルを用意しようとすると、やっぱりなのが使用された年代・時期をどう表記するかだろう。「暮らしの道具」については、学校との連携を視野に毎年企画展を開催している博物館も多い。近年ではインターネット上でも、児童や教員による利用を念頭に、「暮らしの道具」の画像や情報を公開している博物館も少なくない。こうした事例をいくつかあたってみたが、年代表記していないのがほとんどであった。個々の資料について生産された時期については絞り込めても、そうした道具がいつまで使われたかは、都市部と農村部の違いや各家庭事情などを反映して、かなりの差があるだろう。そんな状況があるため、担当者としては使用時期を特定するのにためらいを感じてしまう。また、個々の具体的資料が使われた時期と、「ヒノシ」なら「ヒノシ」というカテゴリーの道具一般が使われた時代幅は別であり、学校現場が欲するのは後者だろう。後者とて、いつまで使われたかをピンポイントで示すことは困難だ。これまでの授業では、かなり幅のある表現で説明をしてきた。

現在、市内小学校の副読本では、「ひいおじいちゃん・ひいおばあちゃんのこと」、「おじいちゃん・おばあちゃんのこと」、「お父さん・お母さんのこと」、という3つの時期を目安として利用している。これに即して、どのようにわかりやすく、かつ、大きな誤りなく、道具の使用時期を説明していくか、工夫をこらしていきたい。

(中山弘樹)

(3) 中央図書館「日野市について、よくある質問」(補遺版)

日野市立図書館のホームページには、「日野市についてよくある質問(レファレンス事例集)」に40の事例を掲載しています。この内容に日野市の郷土教育に役立つであろう新しい事例を掲載します。『郷土日野指導事例 第2集』の「日野市について、よくある質問」の補遺版としてご活用ください。

- 【S**】の記号は資料の「請求記号」です。資料の場所を探す目印になります。
- 日野市についての資料は、主に市政図書室・中央図書館2階レファレンス室で所蔵しています。
- 市内の各図書館でもお取り寄せができます。お気軽にご相談ください。

Q 100年くらい前の日野市の地図が見たいのですが…?

【SC0】に資料があります。

『明治前期・昭和前期東京都市地図 現在地形図対照 1:25000/1:10000 4 東京西部』
柏書房 1996.3 p.134-145

※ 1万分の1の縮尺の地形図では、1881-89(明治14-22)年、1939-40(昭和14-15)年、1951-53(昭和26-28)年ごろの3つの年代が追えるように構成されています。そのため、同じ地域の移り変わっていく様子が、よくわかります。

Q 100年以上前の日野市の地図はありませんか…?

【SC0】にある日野市郷土資料館講座の「村絵図を楽しむ」のシリーズが参考になります。江戸時代から明治の初めごろの村絵図からは、当時の村のようすが一見してわかるようになっています。また、村の歴史や当時の村のようすと現在のようすとがわかりやすく比較できます。

『村絵図を楽しむ 1(改訂版) 一三沢・程久保一』日野市郷土資料館 2009.3
『村絵図を楽しむ 2(改訂版) 一南平一』日野市郷土資料館 2010.3
『村絵図を楽しむ 3 一百草一』日野市郷土資料館 2008.3
『村絵図を楽しむ 4 一豊田一』日野市郷土資料館 2009.3
『村絵図を楽しむ 5 一石田・上田一』日野市郷土資料館 2010.3

Q 少し昔の日野の写真はありますか…?

【SG0】に資料があります。

【SG0】『日野のあゆみ 市政施行20周年記念写真集』日野市 1983.11

そのほかに、以下の資料も参考になります。

【SC4.5】『写真集 まちかど写真館 in ひの』日野市 2009.3

【SC4.5】『写真集 まちかど写真館 in ひの』第二集 日野市 2012.3

【SB7】『目で見える八王子・日野の100年』郷土出版社 1996.12

【SB7】『八王子・日野今昔写真帖』郷土出版社 2004.3

Q 日野市内の遺跡について調べたいのですが…?

【SC6】に資料があります。

☆『日野市の遺跡』日野市教育委員会教育部文化スポーツ課 2007.3

Q 日野にゆかりの平山季重について知りたいのですが…?

平山季重は、平安末期から鎌倉時代に活躍した武将です。平山図書館にコーナーがあります。

【SB1】『日野市史 通史編二（上）』日野市史編さん委員会 1994.3

p.3-21 「平山季重と日野」

【SB2】『「平山季重の道」道中案内（改訂版）』日野市観光協会 2005

【213.9】『図説・源平合戦人物伝』学研パブリッシング 2011.11 p.145

【SB1】『図説八王子・日野の歴史』郷土出版社 2007.2 p.86-87

Q 太平洋戦争における日野市内の空襲の被害を調べたいのですが…？

昭和16年12月に始まった太平洋戦争でのB29による東京への爆撃は昭和19年11月24日に始まり、翌年8月15日の終戦当日まで連日のように激しい攻撃が繰り返されました。

【SB8】に資料があります。

『一枚のはがき』日野市中央公民館 1995.8

『多摩の空襲と戦災』けやき出版 1995.5

『首都防空網と〈空都〉多摩』吉川弘文館 2012.12

【SB8】の他にも以下の資料にも詳しい記述があります。

【SB1】『日野市史 通史編四』日野市史編さん委員会 1998.3 p.301～304

【SB1】『日野の昭和史を綴る』日野市中央公民館 1992

【SB1】『聞き書き・日野の昭和史を綴る』日野市中央公民館 1994.3

【SB1】『高幡風土記』森久保憲治 2010.7 p.196-197

Q 関東大震災時の日野市の状況を調べたいのですが…？

関東大震災は、大正12（1923）年9月1日午前11時58分44秒に起きたマグニチュード7.9の大地震です。死者・行方不明者14万人、住宅消失45万世帯、全半壊25万世帯という大惨事になりました。（参考資料：『地学事典（新版）』平凡社 1996.10）

次のような資料があります。

【SB1】『日野市史 通史編四 近代（二）・現代』日野市史編さん委員会 1998.3

p.88-99 「四 関東大震災」

【SB1】『市史余話』日野市史編さん委員会 1990.3

p.266-268 「21 関東大震災と日野」

【SB1】『日野市史史料集 近代2 社会・文化編』日野市史編さん委員会 1979.3

p.250- 「二 大正期」

【SX6】『関東大震災時の三多摩地区構造物被害分布図 1923年』東京都防災会議 1983.6

Q 日野市立幼稚園・小学校・中学校の校章・校歌が知りたいのですが…？

【SU2】に資料があります。

『地域と共に受け継がれる文化』～日野市立幼稚園・小学校・中学校 校章・校歌

日野市教育委員会教育部文化スポーツ課 2009.3

※ 統廃合により、閉園・閉校になった幼稚園・小学校の校章・校歌も掲載されています。

校章の由来、開校の経緯なども簡単に記されています。

Q 日野市内の動物について調べたいのですが…？

☆第2集にもあり

【SY7】に資料があります。 ※「第二集」にあげたものの追加資料です。

『私たちの日野市の野鳥』日本野鳥の会 2010.5

『日野市つばめマップ』日野市環境情報センター 2007

Q 日野市の農作物について調べたいのですが…？

【SM3】に資料があります。

『日野市の農業』（毎年）日野市役所まちづくり部産業振興課農産係

『日野市内農産物直売所ふれあいマップ』2009年版 日野市消費者運動連絡会

『第2次日野市農業振興計画・後期アクションプラン』日野市まちづくり部産業振興課
2009.12

【SU6】には、日野市の学校給食に利用されている地元農産物の報告があります。

『日野市の学校給食における農産物供給事業』日野市まちづくり部産業振興課農産係

Q 日野市で行われていた川漁について調べたいのですが…？

現在ではほとんど見られませんが、昭和30年代までは日野市でも川漁が行われていました。
鮎漁が代表的で、明治中期には鮎料理を専門とする料亭「玉川亭」も開業していました。

【SD2】『企画展 清流となりわいー日野の川漁とその漁法ー』日野市ふるさと博物館 1994.7

【SB1】『四谷のむかし』小島茂雄 1998.7 p.62-65

【SB1】『日野市史 通史編二（下）』日野市史編さん委員会 1992.3

p.65-68 「第一章 近世後期の日野市域 第二節 産業の発達 多摩川・浅川の漁業」

【SB1】『日野市史 民俗編』日野市史編さん委員会 1983.10

p.156-168 「第三章 生産・生業 第三節 漁撈」

【SA3】『日野市ふるさと博物館紀要 第2号』日野市教育委員会 1993.3

「鵜と共に生きて・玉川亭の人びと」「多摩川の漁とくらし」

【SA3】『日野市ふるさと博物館紀要 第3号』日野市教育委員会 1994.3

「日野の専業川漁師 その漁法の特性をめぐって」

【SD0】『多摩川中流域の漁撈具』立川市教育委員会 1985.5

などの資料が参考になります。

Q 日野の用水について調べたいのですが…？

【SY4】に資料があります。（☆の資料は小学生が読める資料です）

『水の郷日野エコミュージアムマップ』日野市環境共生部緑と清流課水路清流係 2012.7

『水の郷日野 農ある風景の価値とその継承』鹿島出版会 2010.11

『水の郷 ひの 用水路のある風景』鹿島出版会 2010.10

『水の郷・日野／用水路再生へのまなざし』法政大学大学院エコ地域デザイン研究所
日野の用水路再生共同研究プロジェクト 2007.2

☆『用水で遊ぼう！ー日野の用水攻略法』日野市建設部水路清流課 1998.3

☆『用水を総合的な学習に生かすー日野の用水を例として』小坂克信／著
とうきゅう環境浄化財団 2004.5

Q 日野市に伝わる伝説・昔話を調べたいのですが…？

【SD7】に資料があります。

『武蔵野の民話と伝説』有峰書店 1974.7

「お大尽の歳さん」「生まれ変わった勝五郎」「藤蔵はたしかにいた」「金剛寺の鳴り竜」

『武蔵野の民話と伝説 中』有峰書店 1875.12

「宝泉寺のもちあげ観音」「ぬすつと薬師」

『とんとんむかし』東京新聞出版局 1987.2 ※副題に「八王子・日野地方の昔話」とあり

『とんとん昔話』東京新聞出版局 1998.3

『多摩ふるさと昔話』かたくら書店 1991.3 「はだか天龍」 ※英訳もあり

『多摩・相模野のむかしむかし』東京新聞ショッパー社 1976.8

『東京の民話』社会思想社 1979.2

『東京の民話』一声社 1979.6 「藤治権現」

『多摩の傳説』清水庫之祐 1985.10

【SD7】のほかには、

【SB1】『日野市史 民俗編』日野市史編さん委員会 1983.10

p.449-474 第十章 昔ばなし

「上人塚」「宝泉寺の持ちあげ観音」「東光寺の安産薬師」など 20 話

【SB0】『日野の歴史と文化 17〈日野の昔話特集号 1〉』日野市史談会 1982.8.30

【SB0】『日野の歴史と文化 18〈日野の昔話特集号 2〉』日野市史談会 1983.4.20

【SB1】『八坂の杜から - 多摩郷土史研究 - 』土淵英夫 土淵あい子 1998.5

『おもしろふしぎ日野むかしばなし 1～11』 「広報ひの」1988.4.15 号から 1989.3.15 号

『日野の昔話 1～17』田中紀子 「日野ニュース」200 号から 216 号

『日野の昔話シリーズ 1～50』 「日野の自然」8 号から 64 号 (1973.3～1977.11) 【SY0】

●【サイバー日野 - ひの史跡・歴史データベース - 】

このデータベースは、昭和 41 年「郷土史ライブラリー」から始まった、現在、日野市広報に掲載されている「日野歴史・史跡紹介」コーナーをインターネットで見られるようにしたものです。

http://www.c-hino.org/hino_history/index.html

☆勝五郎生まれ変わりの物語については以下の資料も参考になります。

『ほどくぼ小僧生まれ変わりの勝五郎』日野市郷土資料館 2009.10 ※DVD 資料もあり

『生まれ変わりレストラン』(怪談レストラン 29) 童心社 2003.11

『仙境異聞／勝五郎再生記聞』(岩波文庫) 平田篤胤 岩波書店 2000.1

『明治日本の面影』(講談社学術文庫) 小泉八雲 講談社 1990.10

『まぼろし旅行記』(妖怪ワンダーランド 7) 水木しげる 筑摩書房 1995.7

(星 まゆみ)

4. 郷土教育推進のための普及・啓発

(1) 地域を知る指導者の育成

① フィールドワーク

郷土教育を推進するためには、指導者自身が地域の歴史や自然、文化、人材などをよく知り理解するとともに、人と交流したりモノに直接触れたりすることにより、地域への誇りや愛着を実感する必要がある。その上で、具体的な地域素材の教材化を図り、それを指導することによって子供たちの興味・関心は高まる。指導者自身が「このことを伝えたい」「気づかせたい」と願いを持って指導に当たることで、「ふるさと日野」に自信と誇りをもった「ひのっ子」を育成することができる。

そこで、郷土日野の自然、歴史、文化、産業など郷土のよさや特色について、より深く・より広く知り、具体的な実践が図れる指導者の育成を目指して、例年夏季休業日にフィールドワークを実施している。これは、日野市教育委員会と郷土教育推進委員会の共同事業として、本委員会のメンバーが講師となっていて行っている。今年度は「平山地区」を取り上げ、平山氏にまつわる歴史や教育に尽力した秋間為子、平山陸稲を作った林丈太郎などの人物、農業などを中心にフィールドワークを実施した。そして、このフィールドワークを通して地域素材をどのように教材化するか、それをどのように提示し実践するかを考えた。



平山城址公園駅

現在、駅前広場からは各方面にバスが発着しているが、1884（明治17）年から1967（昭和42）年まで83年間、平山小学校があった。その前は、平山氏ゆかりの大福寺（宗印寺に併合）があり、かつては平山氏の居館（市文化財指定）があった。



平山季重遺跡之碑

駅前にあるこの碑は1851（嘉永4）年3月、現在の千葉県旭市に住んでいた豪農・平山正義が祖先の平山季重の武勇と忠孝を顕彰するために建てた。彼の父正名は、1805（文化2）年8月に平山村を訪れており、その影響が強かったようだ。石碑建立に関しては、1852（嘉永5）年3月京橋鍋町から石工を連れて来るが、平山村への寄付の金額の折り合いがつかなかった。このため、石碑は1852年以降に建てられたと考えられる。

（『日野市史 通史編二（上）』参照）



平山 6 丁目の子育て地蔵

お堂に入った地蔵の他に、昭和 9 年 3 月に建立された馬頭観世音、青面金剛や三猿が彫られた庚申塔などが 5 つ、由木村に抜ける道沿いにある。これらの石造物は寛政頃（1800 年頃）から建てられたと言われ、現在でも子育て地蔵として、また交通安全を願う地域の方から信仰されている。



武蔵野カンツリークラブと杉山又吉

大正時代になると、余暇を利用した観光や行楽が盛んになる。現在の平山城址公園にも、1925（大正 14）年 5 月 2000 ヤード余りの 9 ホールがあるゴルフ場が開園している。都内では駒澤ゴルフ倶楽部に次ぐもので、開設には杉山又吉が大きく関わった。また、地元の小学生がキャディとして働き、よい小遣い稼ぎになったという。大正 15 年 10 月千葉県松戸市に移転するが、1928（昭和 3）年多摩カンツリークラブとして再開、昭和 13 年 1 月まで使われた。



宗印寺と平山季重

宗印寺は 1663（寛文 3）年、旗本中山照守によって創建された曹洞宗の寺で、武相観音霊場の第 44 番札所になる。1873（明治 6）年真心学舎（後の平山小学校）が建てられた。

ここには、都旧跡の供養塔や市の有形文化財の坐像など平山季重関係のものが多い。平山季重は平安時代末から鎌倉時代初めに活躍した武士で、「吾妻鏡」や「平家物語」には源義経に従い、熊谷直実らと一緒に平家追討に従軍したことが描かれている。



秋間為子の墓

「日野の津田梅子」と言われた女子教育の先駆者・秋間為子は 1862（文久 2）年に生まれ、日清戦争では従軍看護婦として働き、勲章を受けた。1901（明治 34）年自由民権家・石坂昌孝の助言を受けて、東京本郷に錦秋女塾（後の錦秋実用学校）を開き、1909（明治 42）年七生村報徳会を設立し、地方改良運動の一端を担った。



林丈太郎と平山陸稲

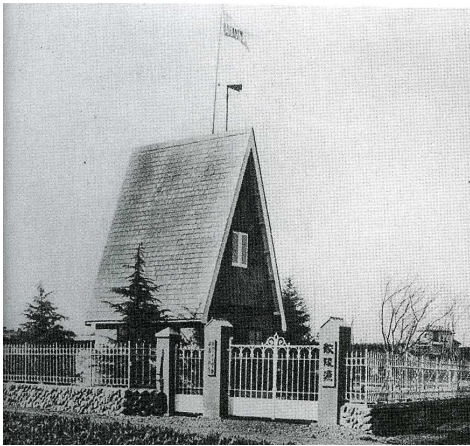
林丈太郎は1875(明治8)年平山で生まれ、宗印寺にある林丈太郎の墓碑には「林丈太郎ここに眠る 品種改良家 陸稲『ひら山』を創む また平山を 全国にひろめたり」と刻まれ、市の史跡になっている。1911(明治44)年旱魃と病害虫に強く、味もよく、しかも多収性の平山陸稲を作り出した。東京都から奨励品種として登録され、全国的に普及した。しかし、草丈が長く風に弱いという弱点もあった。



山八幡神社と軍配

浅川対岸の平山地区も見渡せる高台にあり、下の方からは今でも湧き水が出ている。

平山季重が勧請したと言われ、それを聞いた徳川家康が軍団団扇と旗を奉納したと伝えられている。軍配団扇は金地塗で表に日の丸、裏に日月を描いている。今回、旗や奥宮も含め、特別に見学することができた。



鮫陵源(こうりょうげん)

滝合橋北東の広大な場所に1936(昭和11)年に鮫陵源が作られた。豊富な湧水を活かした淡水魚の養殖や釣堀、遊園地やゴルフ場を設備した「平山のディズニーランド」ともいうべき存在であった。活魚や水禽料理が楽しめる日本館もあり、1943(昭和18)年に廃園になったが、その跡を辿ることができた。(写真:『目で見える八王子・日野の百年』)



平山の農業

滝合小学校の北方にある小林和男さんの畑で生育中の平山陸稲を見た後、河岸段丘の上の同氏のビニールハウスで栽培されている「樽トマト」の見学・味見をさせて頂いた。1つの樽に4本のトマトを植え、水分をコントロールすることで高糖度のトマトを作っている。



大名淵と平山遺跡

② 研修会

・午後の研修 平山小学校のランチルームで、フィールドワークを行った平山地区の理解をさらに深めるとともに、地域教材の授業での活用方法を学ぶ講義・演習を実施した。その内容は、次の通りになる。 平山橋

の北西側は大名淵と呼ばれ、由緒ある人の居館があったと言われている。この上は明治末期に、安田善衛が別荘と能楽堂を建てた所で、縄文時代から古墳時代までの平山遺跡がある。特に、平山 2 号墳は浅川の河原石で積んだ横穴式の石室がある円墳で、出土した刀や鉄の矢じりなどは、東京都の指定有形文化財になっている。

・フィールドワークのまとめ



- ・平山陸稲と平山小一ふるさと平山と私の生き方ー
- ・実践事例発表
 - 日野のにんじんづくり
 - ふしぎたんけんふれあいたんけん
 - 日野の昔話と昔の暮らし
 - 日野市の地名の由来と地形の特徴
- ・京王線と七生村の発展
- ・平山季重と平山季重ふれあい館
- ・地形図を活用した教材化演習

各項については報告されているものもあるので、担当頁を参照して頂きたい。実践事例発表は、昨年度郷土教育推進研究委員会で作成したものが主になる。

なお、「平山陸稲と平山小」については、平山八幡神社や畑などをご案内頂いた小林和男氏から、平山陸稲の親系種を探し出すまでの苦労や、平山小学校での農業体験の支援についての様子について話を伺った。また、遺伝子組み換えなしの安全な大豆を提供したいという大豆プロジェクトの試みをしたり、地域の方と平山探検隊をつくって歴史の掘り起こし（『平山をさぐる 鮫陵源とその時代』など作成）をしたりするなど示唆に富む話であった。参加者からは「日野で育つ子どもたちを、いろいろな立場の大人たちが力を合わせて大切に支えていこうとしているのを強く感じた。」などの感想が寄せられた。

また、参加者のアンケートからは「八幡神社の軍配にはとても感動した。江戸時代の物が目の前にあると思うとワクワクした」「内容が歴史、自然、農業など、いろいろな視点から構成され、楽しかった」という声が聞かれた。また、午後の研修会については「京王線と地域との発展の関係がよくわかった」「図書館を積極的に活用する良さを知った」など、資料館や図書館との連携のよさを理解したり、実践事例の報告に刺激を受けたりした感想が多く、成果があった。今後は、本委員会への参加者の実践事例の報告を期待したい。

・フィールドワークのまとめ

フィールドワークのテーマは大きく平山季重を含め、地域の発展に尽くした人と平山地区の近代化、農業の 3 つになる。各テーマについて、現地説明の補足や関連する『郷土日野指導事例集』の紹介、地域素材の教材化の提案を行った。

まず、全般的な事例として『郷土日野指導事例』第 3 集に、6 年の総合的な学習「平山に伝わる昔と今」がある。町に残る文化財や歴史などを調べ、伝え合い、さらに、これからの平山を考えることをねらいとし、資料として平山城址公園、季重神社、ゴルフ場、宗印寺、鮫陵源、昭和初期の食事を取り上げている。

次は平山季重で、地域教材をいくつか組み込んだ 6 年社会科「武士の世の中」が第 6 集にある。落川遺跡では、武士の館や多数の鉄器が出土している。これらから、ふだんは農場や牧場を営み、いざ戦さとなれば馬に乗って戦う半農半武士の集団の存在がわかる。彼らはやがて武士団として成長するが、その代表的な人物として源平合戦で活躍した平山季重を取り上げ、さらに高幡不動の胎内文書も取り上げている。

平山地区は人物に関する顕彰碑や墓など石碑が多い。4 年の社会科「地域の発展に尽くした人々」で活用できるのは林丈太郎で、宗印寺に墓がある。副読本『わたしたちの日野』には教材が掲載され、さらに『郷土日野指導事例集』第 2 集に指導案、第 6 集に「平山おかぼを育てよう」、第 7 集に校長講話「平山おかぼと林丈太郎」がある。

次に、宗印寺にお墓のある女子教育の先駆者・秋間為子について見ていく。彼女は文久 2 年に生まれ、寺子屋で学んだ後、17 歳で上京している。1901（明治 34）年自由民権家の石坂昌孝の助言を受けて東京本郷に錦秋女塾を開き、明治 42 年には自由民権家の森久保作蔵や村野常右衛門の賛助を得て、錦秋実用学校としている。平山では、明治 42 年七生村報徳会を設立し地方改良運動の一端を担い、昭和 8 年 73 歳で亡くなっている。『郷土日野指導事例』第 5 集に実践事例がある。さらに、自由民権運動からの見直しも可能であろう。

今回は見学しなかったが、徳善院に肥田泰三郎の石碑が 2 つある。彼は島根県出身で、1887（明治 20）年 6 月南平村寺沢宅に世話になり、その後徳善院で習字などを教えた。門弟は数百人と言われ、明治 23 年に病気で亡くなっている。この他に、ゴルフ場開設に尽力した杉山又吉、石碑はないが鮫陵源を造成した鮫島亀之助などの教材化にぜひトライして頂きたい。なお、徳善院の隣には、東京オリンピックの石碑がある。類似の石碑は百草八幡神社、生活センター、四小、飯縄権現などにもあり、6 年の歴史資料として使える。

この他に、平山季重が鎌倉の八幡宮を勧請したと謂われる平山八幡神社があり、徳川家康が日野周辺を巡視した時、この神社の由緒を聞き軍配団扇と旗を奉納したと言う。この団扇を教材とした事例が『郷土日野指導事例』第 7 集に載っている。また、平山遺跡については、第 5 集の「日野の縄文時代の暮らし」が活用できる。平山橋下流の河原には平山層があり、180 万年前～120 万年前のホタテガイの一種の化石が取れることがある。農業としてはトマトの他に、以前の名産のスイカやダイコンを取り上げてもよい。

これらを参照して教材を作成し、活用を試みて頂きたい。（小坂克信）

(2) 郷土を題材とした校長講話

地域には、その季節ならではの行事があり、昔から町を挙げて行われてきた歴史的なものもあります。子供たちの生活とも密接な関係があり、町の風物詩ともなっているお祭りをここでは取り上げました。祭りの神輿やお囃子は子供たちが自然に見聞きしているものであり、その歴史的意義を講話で取り上げることは郷土の伝統を考える上で極めて大切であると考えられます。ここでは、子供たちも興味をもって見ているだろう祭り神輿を話題にしながら町の歴史にも触れ、これからもこうした行事を守っていかなければならないことに気づかせようとしています。

また、祭りを子供たちの学校生活にも関連させながら、子供たちの学校生活と地域が深く結びついていることも理解させようと「千貫神輿」の講話をつくりました。

① 校長講話「千貫神輿」

暑い日が続いていましたが、先週土曜日には「秋分の日」を迎え昼と夜の長さがほとんど同じになりました。朝晩には虫の声も聞かれるようになり、ようやく運動会練習に適した時期となりました。ほとんどの学年で表現・ダンスの練習がスタートし応援歌が大きな声で歌えるようになったり、応援団員やリレーの選手、音楽委員会の皆さんが頑張って練習をしています。さて、先週は「敬老の日」で全校朝会がありませんでした。先週の三連休は「八坂神社のお祭り」でした。皆さんは夜店で買い物をしたり、お神輿が練り歩く様子を見たり、お囃子を聞いたりして楽しんだことでしょうね。

先生は八坂神社の「千貫神輿」を担ぐ経験をしました。このお神輿は大きくて重く大変歴史があるそうです。1貫は3.75kgですから、千貫は3750kg、とても重いということはわかるでしょう。その他、飾りがとても立派で屋根の上には鳳凰という鳥が乗り、龍の彫り物などがきれいに彫られていました。このお神輿は日野町を一日かけて回りますが、担ぐ人の熱気と日野ばやしの音色が入り混じって日野町の人たちの大きな力を感じました。

今のお神輿はとても古く、10年がかりで明治13年に出来上がったというお話ですので、出来あがって今年で132年経つことになります。また、丁度、私たちの学校ができた頃にこのお神輿もできたことになります。5年前に修理をしたそうですが、日野町の歴史が良く伝わってきます。

お祭りは、作物がたくさん取れ、皆が健康で安全に過ごせるように行われましたが、今のようにはテレビや映画などの楽しみの少ない時代には、この時が一年のうちでも最も楽しい時だったのです。きっと皆さんが運動会の競技に頑張ると同じような盛り上がりがあったのだと思います。お祭りの次に日野の町が盛り上がるのは皆さんの運動会ではないかと思います。今週一週間しっかり練習をして、本番では最高の演技をしてください。先生は皆さんが練習し、だんだんと上達していく姿を見て大変嬉しく思います。

皆さんの心の中には何年も昔から日野祭りを盛り上げ守ってきた昔の人たちの心が受け継がれていると思います。二学期にはこの後、学芸会、研究発表が続きます。運動会を成功させ自信をもってこれからの行事に取り組んでいきましょう。終りに、これから本番までは早寝早起きをして練習の疲れをためないようにし、食事をしっかり摂るようにして健康管理には十分気を付けましょう。また、準備運動をしっかりして怪我をしないようにしていきましょう。

(日野第一小学校 中島和夫)

② 校長講話「戦争と小学生」

今から68年前の1945年、日本はアメリカと戦争をしていました。その3月10日の午前0時過ぎに、東京の東側の地域にアメリカ軍による空襲がありました。辺り一帯が火の海となり、10万人以上の市民が犠牲になりました。ここ豊田のあたりからも東の方の空が赤く見えたそうです。この空襲は、「東京大空襲」と呼ばれています。

日野、八王子、立川、調布などの「多摩」と呼ばれる地域にも空襲がありました。最初に空襲があったのは1944年11月24日で、軍用機を作っていた中島飛行機武蔵製作所などが攻撃されました。それから戦争が終わる1945年8月15日までの間に、多摩に対する空襲は、記録に残っているものだけでも41回ありました。日野への爆撃は4回あり、1945年4月4日の空襲では、28人の方が亡くなり、その中には小学生も入っていました。

当時の日野二小（その頃は日野国民学校豊田分教場と呼ばれていました）の小学生も空襲の怖さを体験しました。3年生だった村野洋治さんは、「下校中を戦闘機に機関銃で狙われ、家に飛び込んだら、トタン屋根を銃弾が突き抜けた。」と話してくださいました。すごく接近してきたので、飛行機の操縦士が見えたそうです。また、1年生だった寺田公普さんは、「学校の帰りに日本とアメリカの戦闘機の空中戦を見ていたら、急に飛行機が機銃を撃ちながら向かってきた。大人に防空壕に引っ張り込まれた。」と、当時を思い出していました。小高田あたりの田んぼに爆弾が落ちて、人の背丈ほどもある大きな穴があき、先生と3年生以上の子供が道具を持って何回も穴を埋める作業に通ったそうです。このように多摩が空襲を受けたのは、多摩に日本軍の飛行場があったことや、飛行機や兵器などを製造する工場があちこちに建てられていたためです。

戦争中の小学生は、どのような生活をしていたのでしょうか。3・4年生ぐらいの子供は、畑仕事を教わりました。善生寺の竹内敬覚隠師は、「自分が5・6年生の頃は、学校から帰ると一人前に農作業をして麦や稲を作っていた。遊んだりする暇はなかった。」と、語ってくださいました。

学校では、4年生以上になると男子と女子は同じ教室の中を分けて、別々に勉強しました。勉強したのは、主に国語と算数でした。学校には、弁当を持って行きました。中は、ご飯と梅干し1個の「日の丸弁当」や、麦に少し米を混ぜておかずがたくあんの漬物というようなものでした。小学生が農家の手伝いをしてサツマイモをもらい、食事の足しにしたそうです。

1944年には、空襲から身を守るために、品川区から大井第一小学校の3年生以上の子供が、学校の先生に連れられて避難してきました。「集団疎開」と言います。親戚や知り合いを頼っての疎開ができなかった子供たちで、およそ50人いました。善生寺の境内にあった旧校舎に先生と一緒に寝泊まりし、そこから二小（豊田分教場）に通いました。小さな子供が、親と離れて遠くで暮らすのは、さぞや辛く淋しいことだったと思います。衛生状態が悪かったため、シラミが発生して、頭や服の折り返しにたかってしまいました。退治するために、頭に直接殺虫剤をかけたこともあったそうです。

地域の男の子の中には、兵隊に行く人を見送りながら、「かわいそうだな。自分もそうならいやだな。」とか、「自分も大きくなったら戦地に行って死ぬのかな。早く戦争が終わってほしい。」と、心の中で思っていた人もいました。

1945年8月15日に、近所の人たちが集まってラジオの放送を聞き、終戦を知りました。しかし、戦争が終わっても亡くなった人は戻りません。食糧や物が不足して、厳しい生活が続きました。先生が、「勉強していい学校に行きなさい。」と厳しく指導してくれて、敗戦で気が抜ける暇はなかったそうです。皆さん、絶対に戦争を繰り返してはいけません。平和な社会を築くことが私たちの務めです。

（日野第二小学校 中村康成）

（取材協力者） 大久山善生寺 竹内敬覚 隠師、村野洋治 様、寺田公普 様 以上3名の本校卒業生
（参考文献） ・「120年のあゆみ」 日野第二小学校開校120周年記念副読本 平成6年11月
・「日野の歴史と民俗135」 日野市郷土資料館
・「首都防空網と〈空都〉多摩」 鈴木芳行著 吉川弘文館 平成12年12月

③ 校長講話「開校 140 周年を迎えて」

11 月 1 日は日野第四小学校の開校記念日です。今年平成 25 年度で 140 周年を迎えます。

本校の沿革史をめぐってみますと、本校は、学制発布の翌明治 6 年に安養寺の本堂を仮校舎とし、下田小学校として誕生したそうです。全校児童数は 60 名で、ほとんどが農家の子供たちだったということです。当時は小学生といっても立派な働き手でしたので、蚕の世話や田畑の作物づくり等、家の手伝いをしながらの勉強でしたので、随分と苦労しながら学んだのだらうと思います。

明治 41 年、下田小学校は、日野小学校（現日野第一小学校）の分校となり、義務教育 6 年間の内、1 年生から 4 年生まで下田分教場で学び、5・6 年生は本校の日野小学校で学ぶことになりましたが、運動会や学芸会といった大きな行事は、日野小学校で一緒に行ったということです。

戦後、新しい学校制度がスタートし、昭和 30 年に下田分教場は独立して、日野町立日野第四小学校が現在の場所に建てられました。当時の児童数は 343 名だったそうです。その後、日野町が、日野市となる市制施行に伴って日野市立日野第四小学校となりました。

さて、11 月 1 日が開校記念日となった経緯ですが、昭和 36 年に校歌が作られました。作詞は、当時有名な詩人で童話作家の巽聖歌先生です。巽先生は学校のまわりをご自身で歩かれて、恵まれた自然を取り入れた歌詞を入れ校歌を完成させました。そのお披露目が昭和 36 年 11 月 1 日に行われ、以後この日が開校記念日となったわけです。

今回、この原稿を書くにあたり、沿革史とともに開校 130 周年の記念誌も開いてみました。そこには、上記に記した学校の歴史とともに、130 周年の記念事業として、それまでであった築山を大規模改修し、四小富士を作ったことが記されていました。このような校庭等の改修は一部とはいえ、市の事業として位置づけられなければなかなかできません。それが、四小の卒業生や保護者、地域の皆様の力で成しえたということは、この第四小学校に寄せる保護者や地域の皆様の思いがどれほど熱く、深いものであったかが伺える事業であると驚かされました。今も、子供たちの登下校の際の見守りや、校庭を中心とした環境整備のボランティア、学習支援のボランティア等、様々な形で第四小学校の教育の充実のために保護者や地域の皆様がかかわってくださっています。こうした本校への支援は、今に始まったことではなく、こうした伝統の中で培われてきたものであることを実感しました。

平成 25 年 10 月 26 日に、開校 140 周年の記念式典を挙げるにあたり、保護者や地域の皆様とともに歩み、造り上げてきた伝統と誇りをつないでいく責任の重さを感じているところです。

開校 140 周年記念式典は大きな一つの節目となります。本校が保護者や地域の皆様に支えられ、立派な歴史と伝統を築いてきたことをより多くの皆様と祝い喜び合うことにより、日野第四小学校が未来永劫、この地で地域とともに発展していくことを願って止みません。

（日野第四小学校 中澤正人）

④ 校長講話「地域に愛される学校」

みなさん今日は何の日か知っていますか？ 11月1日は「日野第八小学校」の開校記念日です。昭和44年11月1日に私たちの学校は開校しました。その頃、子供たちの数が増え、三沢・百草・落川地域の人口増加に対応するため、当時米どころであった三沢の地に日野市で9番目の小学校として開校されました。

日野第八小学校の校章を見てください。真ん中の「八小」の文字をデザインし、四つの花びらにはそれぞれ教育目標として、「健康でたくましい子ども」「美しい豊かな心の子ども」「深く考えやりぬく子ども」「力を合わせはげみ合う子ども」を表しています。正門わきの学校園を屋上から見ますと校章と同じ形に作られ、学習や憩いの場ともなっています。

それでは学校がスタートした時は、どんな様子だったのか少しお話をします。

第八小学校は、潤徳小学校から分かれて新しくできた学校です。昭和44年の1月に第八小学校を建てることが決まりましたが、4月の入学式には校舎が完成していなかったので、10月31日の引っ越しの日まで、潤徳小学校で過ごしました。

待ちに待った校舎が完成し、13学級、415名でスタートしました。

その時の学校のまわりや地域の様子が気になりますね。

学校ができる前は、高幡から落川・百草まで見渡す限り田んぼでした。第八小学校のある場所に土地をもっていた方で、三沢上に住んでいた方は、ここまで毎日農作業に来ていました。

ハ小の北の方に住んでいた方は、浅川の向こうから、耕しに来ていました。

学校の北側は、昔は河原だったので、砂地で田んぼにむかないので今でも果物畑が多く残っています。

程久保川の土手は田んぼより高かったので、台風等で大雨になると田んぼは水浸しになりました。

程久保川があふれると家も水をかぶるのでボートを常備している自治会もありました。水が出ると女の人や子どもはボートに乗り、男の人は革靴で水の中を歩いて落川交流センターにある旧千代田区の林間学校施設に避難しました。

土地をもっていた人たちは、ここに学校ができるのならと大変安い値段で土地を日野市に提供してくれました。

みなさんは、学校に来るとき、地域みなさんに「おはよう」「気をつけて行ってらっしゃい」と声をかけられたことがあると思います。土地を提供してくれた方だけでなく、校舎をきれいにし、潤徳小学校から移ってくる子供たちを待っていた保護者のみなさんも、この第八小学校をとて大切にしてくれました。学校ができてから今日までの43年間、たくさんの人が第八小学校やこの地域を大切にしてくれました。

毎年行われる「ふるさと八小 ふれあいまつり」でも、PTAの実行委員会のみなさんが工夫をこらして盛り上げて下さいます。

みなさんも、朝会の話だけでなく、学校の勉強でも、地域の公園の歴史や農業のこと、程久保川のこと浅川のことをたくさん勉強してください。そして、勉強を通して、地域のことをよく知り、地域の人々の願いをよく知り、第八小学校が大好き、この地域が大好きな人になって欲しいと思います。

(日野第八小学校 高橋大造)

Ⅲ 研究のまとめ ～成果と課題～

研究主題「郷土意識を育む指導の在り方～郷土の歴史、自然、文化、産業、人の教材化を通して～」のもと、1年間、研究と実践に努めてきた。大きな成果は、郷土資料の教材化を通して、指導者である教師が、郷土「日野」の特色やよさを知り、この教材で授業がしたい、子供たちに郷土の特色やよさを伝えたいと意識を高めたことである。教師の意識の高まりと授業実践意欲が、郷土に対する誇りと愛着をもった「ひのっ子」の育成につながると考える。

教育センターでは、2月に研究発表会、5月と2月に運営審議会がある。運営審議委員・教育委員会・校長会の各先生方から、「貴重な郷土教材を多数発掘していただき感謝」「具体的な実践例を見て、日野のよさがよく分かった」「日本の教師や授業のレベルの高さを感じた」「ふるさとの大切さを改めて感じた」「授業に学ぶ喜びと出会いの感動があった」「成果の活用・推進、普及・啓発が大切」「日野市に郷土教育が定着してきたのではないかと高い評価と課題をいただいた。研究発表会の講評、運営審議会での協議、郷土教育推進研究委員会での討議をまとめてみると、郷土教育のキーワードは、まさに「身近」「具体」「地道」「継続」となる。過去8年間の成果は、身近で具体的な教材を発掘し、地道に授業実践を継続してきたことである。郷土を生かす授業は、子供にとってよく分かる楽しい授業の創造につながる。

子供と共に若手委員の授業力が大きく伸びた。保護者・地域・関係機関と共に授業を創造し、自信に満ち溢れた郷土教育リーダーへと成長している。初めて参加した幼稚園教諭から「楽しく実践できた」「保護者の反響が大きかった」「来年度、さらに発展させたい」と意欲的な感想があった。中島委員長はじめ19名の委員が、1年間の実践をやり遂げた満足感をもつことができた。

また、本市校長会が郷土教育の重要性を理解し、「郷土教育は校長のリーダーシップから」を合言葉に、積極的に郷土教材を発掘し児童朝会等の校長講話で取り上げてくださった。

私たちの使命は、この成果を本市の幼稚園、小・中学校へ普及・啓発させ、ふるさと日野へ誇りと愛着をもった「ひのっ子」を育成することである。今年度はこの普及・啓発を大きな目標として、3つの重点課題を設定し、教材開発・授業実践に励んできた。

1 成果

(1) 学習指導法の研究、指導者の育成

- ① 各委員が実践した事例10件、新たに開発した郷土教材2件を「郷土日野」指導事例 第8集に掲載することができた。
- ② 年間3回発行の「教育センターだより」に、今年度発掘・教材化できた事例を掲載することができた。
- ③ 夏期休業中に平山地区のフィールドワークを実施し、その教材化の演習と実践事例発表、博物館・図書館の活用・連携方法等の内容で全日研修会をもつことができた。
- ④ 研究発表会で、1年間取り組んだ授業実践事例・郷土教材開発事例を発表することができた。

(2) 郷土資料館・図書館等関係機関との連携

- ① 市内公立博物館・図書館から多種・多様な指導資料や情報の提供を受け、また、専門的な見

地からの指導・助言があり、効果的・効率的に郷土教材を活用した協働授業が実践できた。

- ② 博物館・図書館との連携が深まる中、多くの学校が見学・調査・体験等の学習に博物館・図書館を活用するようになった。

(3) 郷土教材の電子データ化

- ① 「郷土日野」指導事例集、さらに、指導事例集の写真図版を日野市立教育センターのホームページに掲載することができた。
- ② 郷土教育に電子データ化された教材や ICT 機器を活用した授業実践を行うことができた。
- ③ 過去のプレゼンテーションデータを全委員が共有し、活用することができた。

(4) その他

- ① 本市小学校校長会の理解と協力のもと「郷土教育は校長のリーダーシップから」を合言葉に児童朝会で郷土教育に関する「校長講話」を多数の学校で実施することができた。
- ② 郷土教育推進研究委員会の若手教員が1年間の継続研究を通して、日野のよさ・特色に気づき、郷土の教材化・授業実践の楽しさを体験した。また、子供、保護者、地域と共に授業を創造し、授業力を向上させた。
- ③ 本委員会に学校現場から、フィールドワーク、授業、若手教員指導の要請が増え、学校現場の期待に応えている。

2 課題

- (1) 研究推進・授業実践の成果をさらに継承・発展・定着させることである。そのため、幼稚園長会、小中学校校長会の理解と協力を得て、幼稚園、学校での普及・啓発活動をさらに推進する必要がある。
- (2) 郷土教育推進リーダーの養成と急増する若手教員への研修が必要である。本委員会所属の若手教員は、郷土日野への理解が深まり実践意欲育が高まりつつあるが、教員間の郷土教育への関心度の差が大きい。「日野をふるさと思ひ、日野に誇りと愛着をもった教員」「日野の教育を背負って立つ気概をもった教員」の育成が必要である。
- (3) 日野市教育委員会と連携し、日野の特色やよさが理解できるフィールドワークや教材化・授業づくりの研修会を充実させることが必要である。
- (4) 博物館、図書館、公民館等生涯学習関係機関との連携・協力関係を深め、学校との人材の交流、協働授業等の協働関係を深めたい。
- (5) 本委員会所属委員間で相互に授業を見合い、児童・生徒の実態、郷土教材の有効性を検証し、よりよい教材化を図りたい。

(小杉博司)

郷土教育推進研究協力者 (敬称 略)

・小林 和 男	農業指導者	郷土史研究家
・上 野 さだ子	郷土史研究家	資料・情報提供
・北 村 澄 江	郷土資料館	資料・情報提供
・矢 口 祥有里	郷土資料館	資料・情報提供
・石 嶋 日出男	日野図書館	資料・情報提供
・河 野 和 昌	教育センター	I C T活用
・菊 川 民 雄	教育センター	I C T活用

郷土教育推進研究協力団体

- ・万福閣宗印寺
- ・日野宿発見隊
- ・日野市立平山小学校
- ・八幡神社（平山八幡）
- ・日野市中央公民館高幡台分室
- ・日野市公立小学校校長会

平成 24 年度 郷土教育推進研究委員会委員

No.	役 職	所 属	職	氏 名
1	委員長	日野第一小学校	校 長	中 島 和 夫
2	副委員長	日野第二小学校	副校長	秋 田 克 己
3	委 員	元渋谷区立常磐松小学校	元校長・学識経験者	會 田 満
4	委 員	元日野市立百草台小学校	元校長・学識経験者	吉 野 美智子
5	委 員	日野第二幼稚園	教 諭	渥 海 知 子
6	委 員	日野第五幼稚園	教 諭	福 田 靖 実
7	委 員	日野第一小学校	教 諭	馬 鳥 誠
8	委 員	日野第二小学校	教 諭	瀬 川 敦
9	委 員	日野第二小学校	主任教諭	吉 原 涼 子
10	委 員	日野第五小学校	教 諭	亀 田 貴 彦
11	委 員	潤徳小学校	教 諭	入 野 祐 子
12	委 員	日野第八小学校	主任教諭	萩 原 農
13	委 員	仲田小学校	教 諭	森 田 誠 司
14	委 員	七生緑小学校	非常勤教員	小 坂 克 信
15	委 員	新選組のふるさと歴史館	副主幹・学芸員	金 野 啓 史
16	委 員	郷土資料館	学芸員	中 山 弘 樹
17	委 員	中央図書館	司 書	星 ま ゆ み
18	事務局	市教委学校課	指導主事	加 藤 ユ カ
19	事務局	日野市立教育センター	所 員	小 杉 博 司

郷土教育推進研究報告書

平成 24 年度「郷土日野」指導事例 第 8 集

発行日 平成 25 年 3 月 31 日
発 行 日野市立教育センター
郷土教育推進研究委員会
〒191-0042 日野市程久保 550
TEL 042-592-0505
FAX 042-592-1148
印 刷 システム印刷株式会社